

No.9 >>> Contents

●提携支援センターから

富岡シルクブランド協議会・世界遺産推進への活動 富岡シルクブランド協議会 事務局 原田 知也	1
提携支援センター活動日誌 No.9	5
～純国産絹マークの使用範囲の拡大へ～ 社団法人 日本絹業協会	6
純国産絹マーク使用許諾について（平成 21 年度第 3 次分）	9
養蚕用資材の安定供給に係るワーキンググループの活動始まる	14

●今月の話題

天皇陛下御在位 20 年慶祝行事 蚕糸絹文化シンポジウム 「地域が支える蚕糸絹文化」開催 財団法人 大日本蚕糸会	16
純国産シルク「ふい絹」の商品開発と P R — JFW ジャパンクリエイションに参加して— (財) 大日本蚕糸会 蚕糸科学研究所 所長 清水 重人	18

●国内情報

絹織物の集散地を核とした和装産業の工程間連携に関する報告書から (3) 経済産業省 近畿経済産業局	23
純国産絹製品に向けて ～特徴ある「群馬オリジナル蚕品種」～ 群馬県蚕糸技術センター 主席研究員 町田 順一	41
平成 21 年度晩秋蚕優良繭生産研修会の開催 ☆がんばろう栃木の養蚕！ 全国農業協同組合連合会栃木県本部 園芸部園芸資材グループ 須藤 日出夫	46

●トピックス

国内産地情報、海外情報（中国）	50
-----------------------	----

●横浜開港とシルク貿易

横浜開港場の位置問題	54
------------------	----

●イベント情報

●登録コーディネーター一覧

●純国産絹マーク使用許諾者一覧

●蚕糸関係博物館一覧

●蚕糸関係団体ホームページ一覧

●統計資料

(統計資料の詳細は統計資料目次をご覧ください。)

富岡シルクブランド協議会・世界遺産推進への活動

富岡シルクブランド協議会

事務局 原田 知也

当提携支援センターが昨年度提携システム確立事業の一つとして承認しました「富岡シルクブランド協議会」の事業は、現在、富岡製糸場の世界遺産登録への運動と併せて展開しているとのことで、今回、事務局から本年度の取り組みを内容とする記事を頂きましたので紹介いたします。

富岡シルクブランド協議会は、平成 20 年 5 月 7 日に設立されました。昨年、国が新たに導入した蚕糸・絹業提携支援緊急対策事業を活用しながら、川上にあたる養蚕農家から川下の絹加工・販売業者まで、蚕糸・絹業に携わるすべての過程の関係者がグループを形成し、生産から流通・小売までの連携を強化し、「富岡シルクブランド」として特徴のある絹製品を開発販売することを目的としています。また、それらの取り組みは、富岡製糸場の世界遺産登録に向けた推進活動を実施するにあたり、養蚕農家が繭をいきいきと育て、桑畑という景観を含めた「生きたシステム」を継続させるという使命に基づいております。本会は、養蚕農家の笑顔を守ることが、大きな推進活動である、と考えております。

さて、今年度の取り組みを簡単に振り返りながら、富岡シルクブランド協議会・世

界遺産推進への活動を紹介していきます。

春は、厳しい 2 つの試練がありました。1 つは、養蚕農家の減少です。20 年度に 22 戸あった富岡市の養蚕農家は、21 年度には、19 戸へと減少してしまいました。廃業した養蚕農家から「養蚕は続けたいのだけれども、高齢で難しくなってしまった。申し訳ない。」という言葉聞いたときは、なんとも言えない悲しい気持ちになりました。高齢化や後継者不足など、養蚕農家を取り巻く状況は厳しく、富岡シルクブランド協議会が、養蚕農家のために何ができるのか、さらに真剣に取り組まなければならないという決意を新たにしました。

次の試練は、霜害の発生に直面したことです。各々、予定していた掃立量を減らし、さらには春蚕をあきらめた農家も数件ありました。結果、当初予定していた春の繭量を約 400kg 弱下回りました。その減って

しまった繭量以上に、養蚕農家の精神的なダメージが大きかったと言えます。一方、このような厳しい状況の中でも、明るい話題もありました。それは、今年の春蚕に取り組んだ「はくぎん」と「ぐんま細」(仮称)の飼育が比較的順調であったということです。両蚕種は細繊維度種であり、織物にした際のドレープ性に富んだ美しい糸に需要があると考え、取り組んだものです。現在、両種とも生糸として完成したので、それらの糸でどのような製品が完成するのか、非常に楽しみです。また、繭の飼育、繰糸方法、生糸の繊維度、商品開発など更なる研究の積み重ねが必要になると考えます。もちろん、養蚕農家、製糸業者、製造業者らとよく話し合い、そして消費者の声を反映させて、細繊維度種については継続的に取り組んでいきたいと思っています。次に、今年度は夏・初秋の繭を初めて購入させていただきました。昨年度は、春・晩秋のみの購入であったため、富岡市の養蚕農家より、全蚕期の繭を荷受けできたということは、大変感慨深いものがありました。この繭1粒1粒を大切にしていかなければならないと考えると、気が引き締まる思いです。また、各々の蚕期における繭の特徴をよく把握し、製品化や販売方法を戦略立てていきたいと思っています。今年度の荷受けは、10月9日をもって終了しましたが、好評につき来年度も全蚕期について、繭の荷受けを実施する予定です。その節にはぜひ富岡製糸場にお出かけいただければと思います。

昨年度から、会員の努力とアイデアによ

り、色々な商品が開発されました。富岡シルクブランド協議会の大きな強みは、その製品の多様性であると思います。価格、商品について幅を持たせることで、シルクというテーマを、色々な層のお客様に投げかけることができるからです。新しく開発された商品の例をいくつか紹介いたします。

齋藤産業(株)が製作したミラクルロール・プラチナです。これは、富岡産シルクと漢方繊維・羅布麻との混合繊維で作成したサポーターで、腕・すね用、足、ひざ、手首・足首、腹用があります。遠赤外線による保温効果があり、関節痛や冷えでお困りの方に大変喜んでいただき、リピーターから絶大な支持をいただいております。



ミラクルロール・プラチナ (サポーター)

また、(株)絹工房シルクトリートメントソープも絶好調です。これは、シルクのアミノ酸成分であるフィブロインを使用した石鹸ですが、その最大の特徴は、泡立ちの良さと保湿性にあります。シルク成分を配合したことによりキメが細かく、弾力のある豊かな泡が生まれるようになりました。ま



雪蘭トリートメントソープ

た、お風呂場においても長持ちするので、お肌にもお財布にも優しい商品です。

(有)フジセイの製作した雪蘭ブラシも大変注目を集めております。従来、化粧ブラシの筆には、羊毛などの利用が主でしたが、材料をシルクにしたことで、斬新な化粧ブラシが誕生したのです。水にぬらすと、形が崩れてしまうのですが、この「崩して使う」という新しい使い方が特徴で、シルクのアミノ酸成分であるセリシンが、お肌を整え、いたわります。他にも色々な商品がありますが、スペースの都合上、次回のお楽しみということでお願いいたします。



雪蘭ブラシ

さて、今年度の大きなプロジェクトとして、スカーフの原型を発案した横浜発祥の老舗絹製品メーカー「椎野正兵衛商店」との共同で、シルクスカーフを製作いたしました。富岡市の養蚕農家が丹精込めて育てた繭を碓氷製糸農業協同組合で生糸にし、撚糸、白生地を経て、同商店でデザイン、捺染、縫製を行いました。昨年の洞爺湖サミットにおいて、各国首脳夫人に贈られたシルク風呂敷も、同商店に製造を依頼した経緯があり、その出来栄えは見事なものです。スカーフの販売は、11月1日より開始しております。かつて、富岡製糸場においても、「良質の糸をひく」というものづくりに対する真摯な精神が脈々と引き継がれてきました。この精神を継承する物語をご理解いただいた方は、ぜひお求めいただければと思います。

また、椎野正兵衛商店4代目店主である椎野秀聡さん、日仏外交・交流史研究家のクリスチャン・ポラックさんを講師に招き、



椎野正兵衛商店との協同製作したシルクスカーフ

10月18日に世界遺産講演会・シンポジウムを開催しました。椎野さんには、「ものづくりの本質」について、ポラックさんには、「フランスにおける富岡製糸場の役割」をテーマに講演いただき、その後、市長も交えて「富岡製糸場の本当の価値」について議論をいただきました。富岡製糸場の目に見えない価値は、先人達のものづくりに対する精神であり、それを誇りとして未来へと継承していくというお話は、目からウロコであり、多くの方々に勇気付けるとともに、新しい富岡製糸場の価値を気付かせていただきました。このように、多種多様な方々から、様々な視点で富岡製糸場を考えていただく機会は、とても大切なことであり、新たな価値の再発見、再認識にもつながります。蚕糸・絹業についても然りで、様々な方々の柔軟な意見や、発想を大胆に取り入れることが、シルクの魅力にさらなる付加価値を生み出す機会であるとの思いがあります。

フランスつながりでの取り組みを挙げま

すと、11月26日～29日までフランスのリヨンで行われるシルクマーケットに昨年に引き続き参加をいたします。昨年は、展示のみの出展でしたが、今年度は、富岡シルクブランド協議会の商品の販売を試みます。昨年の展示では、高い評価をいただきました。国は違えど、よい商品は通用すると考えておりますので、リヨン市の方々の反応が楽しみです。当時の貿易のパートナーであるフランス、リヨン市との取引再開を目指し、商品販売と共に、世界遺産推進への取り組みを広くPRすることができればと思います。来年度は、提携システムの3年目であり、真価が問われる1つの大きな節目となります。「継続は力なり」と申しますが、その継続を可能なものとするため、様々な取り組みや仕掛けが必要であると考えております。メンバーの知恵、情熱を結集させ、更なる飛躍を目指したいと思います。そして、富岡製糸場の世界遺産登録に邁進していきますので、ご支援の程、よろしくお願いいたします。



「富岡シルクブランド協議会ロゴマーク」

支援センター活動日誌No. 9 (H21.9.1 ~ H21.10.31)

年月日	活 動 内 容 等
21.9.10	(社)日本絹業協会による純国産絹マーク審査委員会 (東京都有楽町 東京フォーラム会議室)
21.9.16 ~ 21.9.17	蚕糸・絹業提携支援緊急対策事業に係る純国産絹マークの管理実態調査 (山形県酒田市)
21.9.17	蚕糸・絹業提携支援緊急対策事業に係る純国産絹マークの管理実態調査 (群馬県安中市)
21.9.18	蚕糸・絹業提携支援緊急対策事業に係る機械・機材の整備事業の打合せ (長野県諏訪郡)
21.9.28	蚕糸・絹業提携支援緊急対策事業に係る提携グループ構築の打合せ (埼玉県秩父市)
21.9.29	蚕糸・絹業提携支援緊急対策事業に係る純国産絹マークの管理実態調査 (群馬県前橋市)
21.9.30	蚕糸・絹業提携支援緊急対策事業に係る養蚕用資材の安定供給事業の打合せ (東京都有楽町)
21.10.7	純国産絹製品展示PRコーナーの運営等に係る情報連絡会 (東京都有楽町)
21.10.9 ~ 21.10.10	蚕糸・絹業提携支援緊急対策事業に係る提携グループ構築の打合せ (新潟県村上市)
21.10.15	第7回東京シルク展特別企画「蚕糸・絹文化シンポジウム」 (東京都世田谷区成城ホール)
21.10.20	養蚕用資材の安定供給ワーキンググループ検討会議 (東京都有楽町)
21.10.21 ~ 21.10.28	日本染織文化博覧会 (東京都日本橋) 日本絹文化シンポジウム～絹で奏でる音世界～ (三越劇場)、純国産絹展 (高島屋) など
21.10.23	(社)日本デザイナーズクラブ 2009 NDC モードコレクション ～日本の絹・純国産の部～ (東京都原宿クエストホール)
21.10.29 ~ 21.10.30	シルク・サミット 2009 in 須坂 (長野県須坂市)
21.10.31 ~ 21.11.3	純国産絹展 (群馬県富岡製糸所ブリューナ館)

～純国産絹マークの使用範囲の拡大へ～

社団法人 日本絹業協会

純国産絹マークの使用を希望する者の要望に対応して、この程、本年9月9日付けをもって、管理規程などを改正し、下記のとおり同マークの使用範囲を拡大いたしましたのでお知らせいたします。

記

1、マークの表示の対象品目の追加

- ① 国内で製織（製編）、染色、加工及び縫製された寝具寝装品で当協会が認めたものを追加します。具体的に、寝具寝装品とは、ふとん、ふとんカバー、敷布、タオルケット、毛布、はんてん及び寝衣並びに寝具寝装品として消費者に販売される真綿が含まれます。
- ② 洋装品として新たに帽子を追加します。

2、帯及び帯締に関しては、伝統的技術として金糸銀糸等を用いてその価値を高めてきた経緯にかんがみ、新たに下記の特例管理規程を制定して、その要件に合致する場合に限り、一定割合の金糸、銀糸の使用を認めることとします。（使用が認められる金銀糸は、別紙のとおりです。）

また、その場合、使用された絹は全量純国産であることを明示するために、マークの純国産の文字の下に（絹使用部分）と明記する必要があります。

帯及び帯締に係る純国産絹マーク特例管理規程

平成21年9月9日制定

帯及び帯締については、伝統的技術として金糸、銀糸等を用いてその価値を高めてきた経緯に鑑み、純国産絹マーク管理規程（平成20年3月28日制定）の特例規程として、帯及び帯締に係る純国産絹マーク特例管理規程を定める。

第1条 純国産絹マーク（以下「マーク」という。）は、絹以外の繊維を5パーセント（重量の比率で算出する。以下同じ。）を超えて用いた帯及び帯締のうち、第2条に掲げる

要件のすべてを満たす帯又は帯締であって社団法人日本絹業協会が認めるものについてもマークの表示対象とすることができる。

この場合、マークの表示対象となる帯及び帯締にあっては、マークの図柄中の「純国産」の文字の直下に、別記のとおり、「(絹使用部分)」という黒色の文字を加えて表示するものとする。

第2条 マークの表示対象とすることができる絹以外の繊維を5パーセントを超えて用いた帯及び帯締は、絹以外の繊維の使用によって帯及び帯締の価値が著しく増加するもので、かつ、次の要件をすべて満たすものでなければならない。

- (1) 帯及び帯締全体に占める絹使用部分の割合が70パーセント以上であること
- (2) 帯及び帯締において使用される絹が、すべて、国産の繭から繰糸された生糸（紬糸等を含む。以下同じ。）を用い、かつ、国内で染織（製編）されたものであること
- (3) 純国産絹マーク管理規程第3条の（2）に該当するものであること

(別記)



(別紙)

帯及び帯締に係る純国産絹マーク特例管理規程の解釈運用について

平成 21 年 9 月 9 日

帯及び帯締に係る純国産絹マーク特例管理規程第 2 条の柱書きでいう「価値を著しく増加させる絹以外の繊維」として使用する、いわゆる金銀糸平箔等については、次のいずれかに該当するものに限るものとする。

- 1 和紙等をベースに、プラチナ、金又は銀を箔押又は蒸着させたもの（撚り糸（芯の素材を問わない。以下同じ。）であるかスリット糸であるかは問わない。）
- 2 ポリエステル等のフィルムベースにプラチナ又は金を蒸着させたもの（和紙等での裏貼りの有無は問わない。また、撚り糸であるかスリット糸であるかは問わない。）
- 3 ポリエステル等のフィルムベースに銀を蒸着させたもののうち、和紙等で裏貼りしたもの（撚り糸であるかスリット糸であるかは問わない。）
- 4 帯及び帯締の価値を高めると認められるソフトリボン箔
- 5 繊維（絹であるか否かは問わない。）に直接銀蒸着し、合成塗料でコーティングしたもの
- 6 うるし糸（芯の素材を問わない。）

純国産絹マーク使用許諾について（平成 21 年度第 3 次分）

社団法人 日本絹業協会

純国産絹マークの平成 21 年度第 3 回審査会を 9 月 10 日（木）に開催しました。今回、30 件（うち、生産履歴の追加申請が 22 件）から申請があり、審査委員会で審査した結果下記のとおり 30 件に対し、9 月 18 日（金）付けで純国産絹マーク使用許諾する旨を通知しました。

この結果、純国産絹マーク使用許諾者は合計 95 社となります。（本誌の使用許諾者一覧参照）

純国産絹マーク使用許諾企業名 （表示責任者名）	表示対象 製品名	表示対象 数量	生産履歴の内容 （提携養蚕農家・企業等）
西陣織工業組合 代表者名 渡邊 隆夫 京都市上京区西堀川通元誓願寺上る 堅門前町 414 （担当者：碓山俊光）TEL 075-432-6131 表示者登録番号 088	マフラー	5,000 枚	繭生産 福島県川俣町・群馬県安中市 養蚕農家 製 糸 碓氷製糸農協 紬 糸 （有）関根商店 染 色 （有）西山染工場 製 織 自組合
株式会社あきやま 代表者名 秋山 典子 宮城県東諸郡綾町北俣 4186 （担当者：秋山眞和）TEL 0985-77-0156 表示者登録番号 089	先染反物 ショール・マフラー	40 反 100 枚	蚕品種 小石丸、芙蓉×つくばね かいりょうあけぼの、緑繭 1 号 繭生産 宮崎養蚕振興協議会養蚕農家 製 糸 自社、（株）宮坂製糸所 染 色 自社 製 織 自社
藤井絞株式会社 代表者名 藤井 浩一 京都市中京区新町通り六角下る六角町 365 番地 （担当者：藤井浩一）TEL 075-221-5504 表示者登録番号 090	後染反物 （色無地）	29 反	蚕品種 蚕技研 11 号 繭生産 J A 茨城みどり管内養蚕農家 製 糸 碓氷製糸農協 製 織 芋田織物 染 色 自社 制作企画 （株）マルシバ
株式会社川まん 代表者名 川口 徳恭 三重県四日市市中部 5 番 6 号 （担当者：川口徳恭）TEL 059-352-8666 表示者登録番号 091	白生地	50 反	蚕品種 かいりょうあけぼの 繭生産 J A 小山管内養蚕農家 製 糸 碓氷製糸農協 製 織 芋田織物 制作企画 （株）マルシバ
有限会社結城屋 代表者名 大久保 善章 兵庫県洲本市本町 1 丁目 7-6 （担当者：大久保善章）TEL 0799-24-5755 表示者登録番号 092	白生地	30 反	蚕品種 かいりょうあけぼの 繭生産 J A 小山管内養蚕農家 製 糸 碓氷製糸農協 製 織 芋田織物 制作企画 （株）マルシバ

純国産絹マーク使用許諾企業名 (表示責任者名)	表示対象 製品名	表示対象 数量	生産履歴の内容 (提携養蚕農家・企業等)
株式会社ウメシヨウ 代表者名 梅田 一 岐阜県瑞穂市馬場春雨町2丁目24番地 (担当者:梅田 一) TEL 058-327-2950 表示者登録番号 093	白生地	30 反	蚕品種 かいりょうあけぼの 繭生産 J A 小山管内養蚕農家 製 糸 碓氷製糸農協 製 織 芋田織物 制作企画 (株) マルシバ
(生産履歴の追加) 株式会社天野屋呉服店 代表者名 天野 晃作 栃木県小山市中央町3丁目1番29号 (担当者:天野晃作) TEL 0285-22-0062 表示者登録番号 073	白生地	50 反	蚕品種 かいりょうあけぼの 繭生産 J A 小山管内養蚕農家 製 糸 碓氷製糸農協 製 織 芋田織物 制作企画 (株) マルシバ
株式会社大徳 代表者名 住矢 くに 東京都中央区月島2丁目10番10号 (担当者:住矢くに) TEL 03-3643-1191 表示者登録番号 094	後染反物 (色無地)	300 反	繭生産 栃木県小山市養蚕農家 製 糸 碓氷製糸農協 製 織 河芳織物(有) 染 色 (有) 西崎染工
有限会社カシワギ 代表者名 柏木 幹弘 山梨県富士吉田市大明見308番地 (担当者:柏木 幹弘) TEL 0555-22-0270 表示者登録番号 095	冬用薄絹ふとん 合用薄絹ふとん 夏用薄絹ふとん	200 枚 100 枚 100 枚	企 画 (株) 山桜 (側、詰物) 繭生産 山梨県養蚕農家 製 糸 松澤製糸所 製 織 自社 縫 製 高野縫製工場
(生産履歴の追加) 織匠万勝 代表者名 前田 章 京都市中京区姉小路通堀川東入る鍛冶町173-1 (担当者:前田 章) TEL 075-257-5747 表示者登録番号 026	帯地 先染着尺 後染着尺	250 本 150 反 200 反	繭生産 J A 佐波伊勢崎養蚕 連絡協議会養蚕農家 製 糸 碓氷製糸農協 製 織 自社 染 色 自社
(生産履歴の追加) 有限会社平原 代表者名 平原 隆志 福島県白河市昭和町184-6 (担当者:平原隆志) TEL 0248-24-0804 表示者登録番号 006	後染反物 (色無地) (黒紋付)	20 反 10 反	繭生産 茨城県南地区養蚕農家 製 糸 碓氷製糸農協 製 織 三共織物(株) 染 色 小林染工房、(株)路考 きもの和楽 制作企画 (株) 丸上 意 匠 自社
(生産履歴の追加) 株式会社信盛堂 代表者名 神部 健一 東京都清瀬市元町1-8-35 (担当者:神部健一) TEL 042-493-3364 表示者登録番号 007	後染反物 (色無地) (黒紋付)	10 反 10 反	繭生産 茨城県南地区養蚕農家 製 糸 碓氷製糸農協 製 織 三共織物(株) 染 色 小林染工房、(株)路考 きもの和楽 制作企画 (株) 丸上 意 匠 自社
(生産履歴の追加) 株式会社上庵 代表者名 川内 俊秀 岩手県北上市北鬼柳20-51-10 (担当者:川内俊秀) TEL 0197-64-5666 表示者登録番号 009	後染反物 (色無地) (黒紋付)	10 反 10 反	繭生産 茨城県南地区養蚕農家 製 糸 碓氷製糸農協 製 織 三共織物(株) 染 色 小林染工房、(株)路考 きもの和楽 制作企画 (株) 丸上 意 匠 自社

国産絹マーク使用許諾企業名 (表示責任者名)	表示対象 製品名	表示対象 数量	生産履歴の内容 (提携養蚕農家・企業等)
(生産履歴の追加) 有限会社 樹 代表者名 須藤 勲 秋田県横手市婦気大堤字婦気7番地 (担当者: 須藤 勲) TEL 0182-32-2378 表示者登録番号 010	後染反物 (色無地) (黒紋付)	10反 10反	繭生産 茨城県南地区養蚕農家 製 糸 碓氷製糸農協 製 織 三共織物(株) 染 色 小林染工房、染工房喜々 (株)路考、きもの和楽 制作企画 (株)丸上 意 匠 自社
(生産履歴の追加) 有限会社絹回廊 代表者名 糸井敬之 東京都中央区日本橋蛸殻町2-14-2 (担当者) 糸井敬之 TEL 03-5643-1063 表示者登録番号 016	後染反物 (色無地)	20反	繭生産 茨城県南地区養蚕農家 製 糸 碓氷製糸農協 製 織 三共織物(株) 染 色 小林染工房、(株)路考 制作企画 (株)丸上 意 匠 自社
(生産履歴の追加) 有限会社琴路屋 代表者名 北山充伯 岩手県釜石市只越町3-4-7 (担当者) 北山充伯 TEL 0193-22-1647 表示者登録番号 017	後染反物 (色無地) (黒紋付)	10反 10反	繭生産 茨城県南地区養蚕農家 製 糸 碓氷製糸農協 製 織 三共織物(株) 染 色 小林染工房、(株)路考 きもの和楽 制作企画 (株)丸上 意 匠 自社
(生産履歴の追加) 有限会社大善屋呉服店 代表者名 畑 恒夫 福島県会津若松市大町1-1-53 (担当者) 畑 恒夫 TEL 0242-27-0404 表示者登録番号 018	後染反物 (色無地) (黒紋付)	10反 10反	繭生産 茨城県南地区養蚕農家 製 糸 碓氷製糸農協 製 織 三共織物(株) 染 色 小林染工房、(株)路考 きもの和楽 制作企画 (株)丸上 意 匠 自社
(生産履歴の追加) 丸善本店 代表者名 櫛田幸造 福島県いわき市内郷高坂町1-59-8 (担当者) 櫛田幸造 TEL 0246-26-2968 表示者登録番号 019	後染反物 (色無地) (黒紋付)	10反 10反	繭生産 茨城県南地区養蚕農家 製 糸 碓氷製糸農協 製 織 三共織物(株) 染 色 小林染工房、(株)路考 きもの和楽 制作企画 (株)丸上 意 匠 自社
(生産履歴の追加) 株式会社むらかね 代表者名 村井 謙一 青森県八戸市廿三日町43-1 (担当者: 村井謙一) TEL 0178-44-1666 表示者登録番号 029	後染反物 (色無地) (黒紋付)	10反 10反	繭生産 茨城県南地区養蚕農家 製 糸 碓氷製糸農協 製 織 三共織物(株) 染 色 小林染工房、(株)路考 きもの和楽 制作企画 (株)丸上 意 匠 自社
(生産履歴の追加) 有限会社まるけい 代表者名 高井 友樹 静岡県富士市吉原2丁目3番23号 (担当者: 高井友樹) TEL 0545-52-0688 表示者登録番号 032	後染反物 (色無地) (黒紋付)	10反 10反	繭生産 茨城県南地区養蚕農家 製 糸 碓氷製糸農協 製 織 三共織物(株) 染 色 小林染工房、(株)路考 きもの和楽 制作企画 (株)丸上 意 匠 自社

国産絹マーク使用許諾企業名 (表示責任者名)	表示対象 製品名	表示対象 数量	生産履歴の内容 (提携養蚕農家・企業等)
(生産履歴の追加) 株式会社四季のきもの おおにし 代表者名 大西 嘉夫 東京都杉並区高井戸東 1-8-3 (担当者:大西嘉夫) TEL 03-3329-9374 表示者登録番号 036	後染反物 (色無地) (黒紋付)	10 反 10 反	繭生産 茨城県南地区養蚕農家 製 糸 碓氷製糸農協 製 織 三共織物(株) 染 色 (株)一満寿染匠、(株)路考 きもの和楽 制作企画 (株)丸上 意 匠 自社
(生産履歴の追加) 株式会社和幸 代表者名 高澤 みゆき 埼玉県久喜市中央四丁目 9-11 (担当者:高澤みゆき) TEL 048-023-7565 表示者登録番号 037	後染反物 (色無地) (黒紋付)	10 反 10 反	繭生産 茨城県南地区養蚕農家 製 糸 碓氷製糸農協 製 織 三共織物(株) 染 色 小林染工房、(株)路考 きもの和楽 制作企画 (株)丸上 意匠 自社
(生産履歴の追加) 株式会社つるや 代表者名 金子 憲二 埼玉県川越市脇田町 11-2 (担当者:金子憲二) TEL 049-225-1331 表示者登録番号 039	後染反物 (色無地) (黒紋付)	10 反 10 反	繭生産 茨城県南地区養蚕農家 製 糸 碓氷製糸農協 製 織 三共織物(株) 染 色 小林染工房、(株)路考 きもの和楽 制作企画 (株)丸上 意 匠 自社
(生産履歴の追加) 株式会社越後屋 代表者名 越永 高士 千葉県市川市本行徳 14-18 (担当者:越永高士) TEL 0473-57-2322 表示者登録番号 040	後染反物 (色無地) (黒紋付)	10 反 10 反	繭生産 茨城県南地区養蚕農家 製 糸 碓氷製糸農協 製 織 三共織物(株) 染 色 小林染工房、(株)路考 きもの和楽 制作企画 (株)丸上 意 匠 自社
(生産履歴の追加) 有限会社神原呉服店 代表者名 神原 和久 千葉県銚子市双葉町 4 番地 37 号 (担当者:神原和久) TEL 0479-25-0111 表示者登録番号 057	後染反物 (色無地) (黒紋付)	10 反 10 反	繭生産 茨城県南地区養蚕農家 製 糸 碓氷製糸農協 製 織 三共織物(株) 染 色 小林染工房、(株)路考 きもの和楽 制作企画 (株)丸上 意 匠 自社
(生産履歴の追加) 株式会社なごみや 代表者名 松本 成央 横浜市都築区中川中央 1-21-16 (担当者:松本成央) TEL 045-900-5466 表示者登録番号 062	後染反物 (色無地) (黒紋付)	10 反 10 反	繭生産 茨城県南地区養蚕農家 製 糸 碓氷製糸農協 製 織 三共織物(株) 染 色 小林染工房、(株)路考 きもの和楽 制作企画 (株)丸上 意 匠 自社
(生産履歴の追加) 株式会社結華 代表者名 橋本順一 静岡県駿東郡清水町長沢 202-1 (担当者) 橋本順一 TEL 055-981-3587 表示者登録番号 015	後染反物 (色無地) (黒紋付)	20 反 10 反	繭生産 茨城県南地区養蚕農家 製 糸 碓氷製糸農協 製 織 三共織物(株) 染 色 小林染工房、(株)路考 きもの和楽 制作企画 (株)丸上 意 匠 自社

国産絹マーク使用許諾企業名 (表示責任者名)	表示対象 製品名	表示対象 数量	生産履歴の内容 (提携養蚕農家・企業等)
呉服のささき 代表者名 佐々木孝一 山形県天童市老野森 3 丁目 11-6 (担当者) 佐々木孝一 Tel 0236-53-2947 表示者登録番号 0 2 0	後染反物 (色無地) (黒紋付)	30 反 10 反	繭生産 茨城県南地区養蚕農家 製 糸 碓氷製糸農協 製 織 三共織物(株) 染 色 小林染工房、(株)路考 きもの和楽 制作企画 (株)丸上 意 匠 自社
(生産履歴の追加) 有限会社特選呉服専門店 後藤 代表者名 後藤 義昭 青森県むつ市小川町 2-7-15 (担当者: 後藤義昭) Tel 0175-22-2647 表示者登録番号 0 3 3	後染反物 (色無地) (黒紋付)	20 反 10 反	繭生産 茨城県南地区養蚕農家 製 糸 碓氷製糸農協 製 織 三共織物(株) 染 色 小林染工房、(株)路考 きもの和楽 制作企画 (株)丸上 意 匠 自社
(生産履歴の追加) 株式会社小いけ 代表者名 小池 泰弘 山形県鶴岡市本町 1-8-43 (担当者: 小池泰弘) Tel 0235-22-3215 表示者登録番号 0 3 4	後染反物 (色無地) (黒紋付)	20 反 10 反	繭生産 茨城県南地区養蚕農家 製 糸 碓氷製糸農協 製 織 三共織物(株) 染 色 駒匠藤本、(株)路考 きもの和楽 制作企画 (株)丸上 意 匠 自社

次回審査会の予定は 11 月 25 日(水)です。申請される方は審査会の 10 日前までに申請書を提出してください。

養蚕用資材の安定供給に係るワーキンググループの活動始まる

蚕糸・絹業提携支援センター

近年における繭生産量の減少等に伴い、養蚕用資材の製造中止や部品の供給不能等の状況が顕在化し、養蚕農家への繭生産機材の安定的な供給体制が確保できない事態が進んでおり、不足する資材、部品等の供給と補修等（特に、自動収繭毛羽取機等の部品供給、蚕飼育装置、桑刈取機械等のメンテナンス等）の体制を確立し、養蚕農家の負託に応えることが喫緊の課題となっています。

このため、課題解決について関係者が一同に会し、安定供給にかかる検討を行い、具体的な供給体制を構築する作業を行うため、ワーキンググループ（WG と略します）を設置しました。



WG会議の様子

WG では、下記の内容を主に養蚕農家の付託に応える体制の確立と今後安定的に供給できるよう検討を加えることとし、来年度の繭生産に対処するようにしています。

検討事項

- （１）養蚕用機械（蚕飼育装置、桑刈取機械等）のメンテナンス体制の確立
- （２）自動収繭毛羽取機等養蚕用独自機械の供給体制の確立（部品の安定供給を含む。）
- （３）中古機械のリサイクル利用体制の確立
- （４）その他養蚕用資材（回転簇等）の安定供給体制の確立

以上のほか、養蚕現場で不足する資材等については、その都度検討を加えていく予定です。

委員名簿（敬称略）

<農林水産省>

梅原信弘

（生産局生産流通振興課課長補佐）

高田邦男

（生産局生産流通振興課蚕糸業振興係長）

<メーカー>

大森春彦 (㈱オーモリ社長)
東 伸行 (東華護謄工業㈱社長)
原澤 俊 (ハラックス㈱社長)
朝川忠信 (㈱信光技研)
大澤 誠 (㈱中央メンテナンス取締役)
福田憲二 (㈱東亜社長)
石川元彦 (㈱側島社長)

<繭生産団体>

寛 文平 (全農特産販売課副審査役)

<学識経験者>

三井幸四郎 (元全養連業務部長)
遠藤 進 (元全養連参事)
(なお、WG には、蚕業技術研究所、蚕糸・絹業提携支援センター役職員が常時出席します。)

今回の検討の概要

WG の初回の会議は、10 月 20 日、東京都楽町・蚕糸会館の会議室で開催いたしました。

会議では、蚕糸・絹業提携支援緊急対策事業の概要と養蚕資材等の導入状況と JA 全農からの要望等の説明を行いました。

その後、委員各位から安定供給に対する意見等をいただきました。その内容は下記の通りです。

(1) 養蚕用機材等のメンテナンスの実施は可能であるが、専用部品の調達が



力強い応援部隊の機材メーカーと学識経験者

厳しくなっており、使用中止した機材のからの部品調達を行う事業の確立を検討する。

(2) 現在不足している機材、資材及び同材の部品等については、試作を含めて、製造に向けた検討を行う。

(3) 確保した養蚕用資材の流通については、関係者の協力を得て、円滑化を図る努力を行う。

(4) 中古品のリサイクルについての検討を進めるため、養蚕農家などが保有する使用していない機材等を収集する方法の検討を進める。

などを内容として集約しました。

各委員等関係者は、今回の検討を踏まえ、協力して、対応していくこととしました。

蚕糸・絹業提携支援センターとしては、各委員の御意見を実現して行くため、事業等の仕組みの検討を早急に行うこととしています。

天皇陛下御在位20年慶祝行事

蚕糸絹文化シンポジウム

「地域が支える蚕糸絹文化」



訪問録「孔雀」朱子地友輝
平山 洋子

【開催日時】平成21年 11月30日(月) 13:00～ 【開催場所】東京・丸の内 東京會舘/12F ロイヤル
ルーム



「繭と生糸に込めた思いを語る」

檀 ふみさんと生産関係者とのトーク

トーク主宰：檀 ふみ(女優)

慶応大学経済学部卒業。父は作家の檀一雄。高校在学中に映画デビュー。出演作品は「日本の面影」「蔵」「山椒」など多数。'94日本アカデミー賞助演女優賞受賞。きものを愛し、著書の1つに「檀流きものみち」がある。



「産地が語る蚕糸絹文化への思い」

主要蚕糸絹産地の市長らが地域の取組みを語る

コーディネーター：中谷 比佐子(きものエッセイスト・秋櫻舎代表)

大分市出身。共立女子大学文学部卒業。女性誌の編集記者を経て(株)秋櫻舎を設立。きもの季刊誌「きもの秋櫻」発行。「きもの」を切り口に日本の文化、日本の考え方の基本を学び、その伝承に力を入れている。



主催：財団法人 大日本蚕糸会

〒100-0006 東京都千代田区有楽町1丁目9番4号 お問い合わせ TEL.03-3214-3411

天皇陛下御在位20年慶祝行事



お集まりいただき、きもの愛好家としても有名な女優の檀ふみさん、きものエッセイストの中谷比佐子さんを囲んで蚕糸絹文化を語っていただくことにしました。

今年は、天皇陛下御在位20年の年です。皇后陛下は皇居紅葉山での御養蚕にとり組まれておられます。蚕糸絹文化の永い歴史に思いを巡らせ、この慶祝の年に、「蚕糸絹文化シンポジウム」を開催いたします。



蚕糸絹文化シンポジウム
「地域が支える蚕糸絹文化」
開催にあたって



皆さんは、「蚕」とか「絹」という言葉を聞いて、何をイメージされますか。

「きもの」とも「シルクロード」とも「シルクロード」の東の到達点が、日本です。日本では、「匠の技」と「きもの生活様式」が一体となり、全国各地で特徴のある「蚕糸絹文化」が形成されました。

そこで、技術を支える方、産業を支える地域の市長さん方に



壁画名/「富岡製糸場行啓」
画家名/荒井寛方
所蔵/聖徳記念絵画館

プログラム

主催者挨拶 財団法人 大日本蚕糸会 会頭 高木 賢

「繭と生糸に込めた思いを語る」 檀 ふみさんと生産関係者とのトーク

トーク主宰: 檀 ふみ(女優)
柳 久子(養蚕農家)／鈴木 重雄(製糸会社会長)／井上 元(蚕業技術研究所所長)

13:30～

ティータイム

14:30～

「産地が語る蚕糸絹文化への思い」 主要蚕糸絹産地の市長らが地域の取組みを語る

コーディネーター: 中谷 比佐子(きものエッセイスト・秋櫻舎代表)
群馬県富岡市／長野県岡谷市／京都府京都市／京都府京丹後市／愛媛県西予市 ※出演者は変更になる場合があります。

15:00～

同時開催 ・前奏 絹糸弦の琴の演奏 ・純国産絹製品(染・織・編物)の展示

会場案内図



＜JR＞

■東京駅 丸の内南口より徒歩10分

■京葉線東京駅 6番出口より徒歩3分

■有楽町駅 国際フォーラム口より徒歩5分

＜地下鉄＞

■千代田線 二重橋前駅 ■有楽町線 有楽町駅

■丸の内線 東京駅 ■三田線・日比谷線 日比谷駅

＜お車＞

東京會館本館地下に駐車場がございます。

東京會館

〒100-0005 東京都千代田区丸の内3-2-1

Tel.03-3215-2111(代表) <http://www.kaikan.co.jp/>

純国産シルク「ふい絹」の商品開発とPR

— JFW ジャパンクリエーションに参加して—

(財) 大日本蚕糸会 蚕糸科学研究所
所 長 清水 重人

蚕糸科学研究所では、4年間に亘り研究開発してきた「ふい絹」(シルクレポートNo.4参照)及び特徴あるシルク新素材(シルクレポートNo.5参照)について、多くの人に紹介し知っていただくと同時に、これらの素材を活かした純国産シルク製品をPRすることを目的とし、JFW ジャパンクリエーションに出展しました。展示会は平成21年10月7日(水)、8日(木)、9日(金)の3日間、東京ビックサイト西1・2ホールで開催されました。

「ふい絹」による商品開発の研究では、「繭を煮る」、「糸を繰る」、「糸を加工する」という各工程において独自の方法を開発するとともに、その素材の特徴を活かした純国産シルクの商品を開発するため商品開発チームを構築し、提携システムに結びつけることを目標として取り組んできました。

そして、このような取り組みを通して、関係する業界だけでなく繊維業界をはじめとする幅広い分野に普及宣伝することの必要性、重要性を認識していました。そこで、(社)日本絹人織織物工業会加盟の丹後、米沢、福島、八王子等各シルク産地が例年

出展している「JFW ジャパンクリエーション」への参加を計画しました。

この展示会は、一般社団法人日本ファッション・ウィーク推進機構(JFW)が主催する展示会で、「日本の中核となる国際的な素材展として、繊維ファッションの情報集積・発信機能を強化し、東京というファッション都市を巻き込み、魅力あるファッションビジネスの国際拠点を確立することに貢献する」ことを目的とした大規模な展示会で、それまでのジャパンクリエーション(8つの公共団体で組織)との合同開催になって5回目になるとのことです。

このような展示会には初めて参加するため、ブースの状況やディスプレイのノウハウについて関係者から情報を集めるとともに、その準備に全所員で対応しました。

まず、出展者のブース全体のテーマ、コンセプトをわかりやすく来場者に訴えることが重要になります。そのテーマを「国産繭・純国産シルクによるものづくり」とし、「繭」、「シルク」の純国産製品の希少価値及びその需要拡大を図ることをメインと位置づけました。

表 1 出展者及び展示内容一覧（順不同）

出展者	展 示 内 容
東北撚糸（株）	ふい絹スーツ、ふい絹夏帯、先染め丸森織り着尺「萩野」
（株）銀座もとじ	プラチナボーイ反物（大島紬）
（株）マルシバ	玉のれんふい絹スカーフ（能州紬）
花まゆ	生成フラワー（小石丸）
京都織物卸商業組合	ふい絹ニットスカーフ、ふい絹ツイードクッション、無撚シルクベルベットクッション他
（有）ミラノリブ	ふい絹洗顔パフ、色繭スカーフ他
織道楽・塩野屋	都浅黄・浄肌衣マフラー、マスク、三味線弦他
（社）日本絹業協会	正倉院羽衣着尺（21世紀の絹を考える会）、帯（シンセイ）、玉のれんふい絹ストール（ぐんま絹行）
提携支援センター	ふい絹ジャケット（21世紀の絹を考える会）、反物（東北撚糸）
工房「香染」	婦人カーディガン他
（株）キュービック	いとり化粧品

出展内容や応募動機等を添えての申込み及び審査の後、4m × 3m のスタンダードブースを借用することとし、ひととおりの備品、什器が揃ったスペシャルパッケージを予約しました。

表 1 に示すように、11 者の協力を得て、「ふい絹」関連商品を展示品のメインとしましたが、その他に、国産繭による提携システムの事例としてのプラチナボーイ、小石丸の繰了繭や揚げ繭を利用した「花まゆ」製品、「いとり」による化粧品等多様な純国産シルク製品を展示しました。また、壁面には関連するパネル等を掲げることに

より、狭いスペースながらもボリューム感と幅広い純国産シルク製品の広がり的一端を演出することができました(写真 1～3)。



写真 1 展示の様子 (1)



写真 2 展示の様子 (2)



写真 3 展示の様子 (3)



写真 4 糸繰りの様子

このような展示会では、通りがかりの来場者の目にとまりやすい、注目を集める「しかけ」も必要です。そこで、出展経験者からの「糸繰りの実演がおもしろいですよ」というアドバイスをもとに、単なる糸繰りではなく、白繭、黄繭を混ぜて5粒を500ml ビーカーに入れ、スタラー（磁力を利用した攪拌機）に乗せ、繭を回転させながら小ボビンに自動で巻き上げるという「ふい絹」の繰製原理を模型とした簡易繰糸装置を用いた糸繰りのデモンストレーションを行いました（写真4～5）。

この糸繰りの実演の効果は大きく、特に、テキスタイル及びファッション学科系の女子学生が数人で通ると必ず足を止めて見入ります。すると、他の人も「なんだろう」と覗き込んできます。黄色い繭が白い繭に混ざって回転しながら繰られている、というところが目を引くのでしょう。「触ってもいいですか?」とか「繭に色をつけているのですか」と聞いてきたり、「触ってもいいですよ」、「1粒から1300m位糸がと

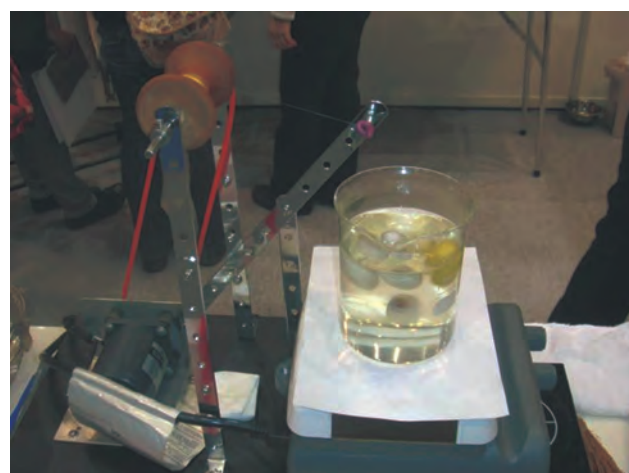


写真 5 糸繰り装置

れるんですよ」という説明に、驚きと関心を示します。

そして、このように関心をもっていただいたことを契機に、説明員が「国産繭・純国産シルクのものづくり」の当ブースについて説明します。特に「学生です」という来場者は、シルクが化粧品や三味線の弦等様々なものに使われ応用されていることに興味を持ち感動します。また、熱心に質問もしてきますので、最後は「絹利用の系統樹」を説明すると一様に驚きます。

蛹繭が見えてきた繭に興味を示した場合は、「蛹を含め繭には脱皮殻以外捨てる場所がないんですよ」、「繰り終わって残った薄い繭の層を丁寧に剥がしてこのような繭フラワーになります」等と説明するとこの時も感動の様子です。

「この繭(黄繭)は色をつけたのですか?」というように繭に興味を示した質問には、色繭のもつセリシンの機能を説明し、開発した化粧品(キュービック)の紹介や、あるいは染めた繭を座繰りで糸にするとき、色繭の配合割合を変えることによりグラデ

ーション効果をもたせたスカーフ（ミラノリブ）を紹介します。

さらに、国産繭のもつ大きな特徴というカテゴリーからは、蚕業技術研究所で開発した遺伝子操作によるオスだけの繭“プラチナボーイ”あるいは鮮やかな緑繭の“都浅黄（みやこあさぎ）”を説明します。そしてそれぞれの繭から商品化された大島紬の反物（銀座もとじ）とスカーフ等（織道楽塩野屋）を紹介するということに商品化の流れに沿って解りやすく説明します。

一方、一般の方で特にシルクに携わっていると思われる来場者や「ふい絹」製法の原理に興味を持った方にはそれぞれの商品について丁寧に説明します。時には、純国産製品の価格についてご意見をいただく場合や、アンケートの質問事項として設定していた「純国産シルクと輸入品の違い」に

ついて逆に質問を受けました。

そのアンケートについては、今後の活動方針の指標となることを期待し、「純国産のきものの自給率」、「シルク製品に対する関心度」、「国産品と輸入品の違い」、「注目した展示品」、最後に「回答者の性別、年代別」等の質問を用意し来場者に回答をお願いしました（写真6）。

アンケートの御礼には、「白繭と黄色繭及びその織度糸のセット」をプレゼントしましたが、それを目当てにアンケートに応じるケースもありました。

アンケートは3日間で220人から回答を得ました。そのうち、有効回答者211名の内訳は表2のとおりで、女性の回答者が77%と女性の来場者の多さが際だっています。また、純国産シルクの自給率の回答結果は表3のとおりで、「1%以下」の選択肢

表2 有効回答者の男女別内訳

	男性	女性	合計 (%)
一 般	43	91	134 (64)
学 生	5	72	77 (36)
合 計 (%)	48 (23)	163 (77)	211



写真6 アンケートの様子

表3 純国産の自給率に関する回答結果

	男 性				女 性			
	選 択 肢				選 択 肢			
	1%以下	10%位	30%位	50%以上	1%以下	10%位	30%位	50%以上
一 般	20	12	4	7	17	48	23	3
学 生	1	2	0	2	9	30	22	11
合 計 (%)	21 (44)	14 (29)	4 (8)	9 (19)	26 (16)	78 (48)	45 (28)	14 (8)

に回答した正解回答率では、男性が44%、女性が16%と、男性の回答率が高い結果が得られました。その他の項目については、現在分析を行っておりますが、このような資料をもとに、今後の商品化対策あるいはそのPR活動等がより効果的にできるものと考えます。

3日間の展示会を終了して、ふい絹の製法や特徴をはじめ国産繭、純国産シルク製品への取組みについて少なからずPRできたと感じています。

しかし、このような展示会には、メインとなる商品とその機能や特徴、そしてその裏付けとなる独自技術等ブースとしてのコンセプトを明解に示すとともに、商品のボリュームを揃え、来場者にアピールするのに効果的なディスプレイを行うことが重要で、そのための予算的な措置も予め検討することが必要と思います。

一方、来場者のうち特に若い人は、ア

ンケートの分析結果からも蚕や繭だけでなくシルク全般に認識の浸透が不十分と思われる、今後も入門的なシルクのPRを行っていく必要があると思います。

また、来場いただいた各産地をはじめとする関係業界の方々ばかりでなく、異業種の方々とも交流ができたこともこのような展示会に参加して得たことと考えます。

そのような中で、来場者からの意見として、「最後は価格になる。純国産の希少性、新しい素材の特長と機能性、そしてその特長を活かした商品開発には感心するし関心もある。そしてそれにより価格が高くなることも理解できる。しかし、いくら高いと言っても限度がある。高すぎでは話の土俵に登らない」というご意見もいただき、現実の厳しさを改めて実感した次第です。

最後に今回出展品を提供していただいた各社の皆様、(社)日本絹業協会をはじめとする各団体の皆様に御礼申し上げます。

絹織物の集散地を核とした和装繊維産業の 工程間連携に関する調査報告書から（3）

経済産業省 近畿経済産業局

3. 製造・流通体制の状況

（5）産地の現状

—平成 17 年度産地概況調査結果—

①繊維産地の概況

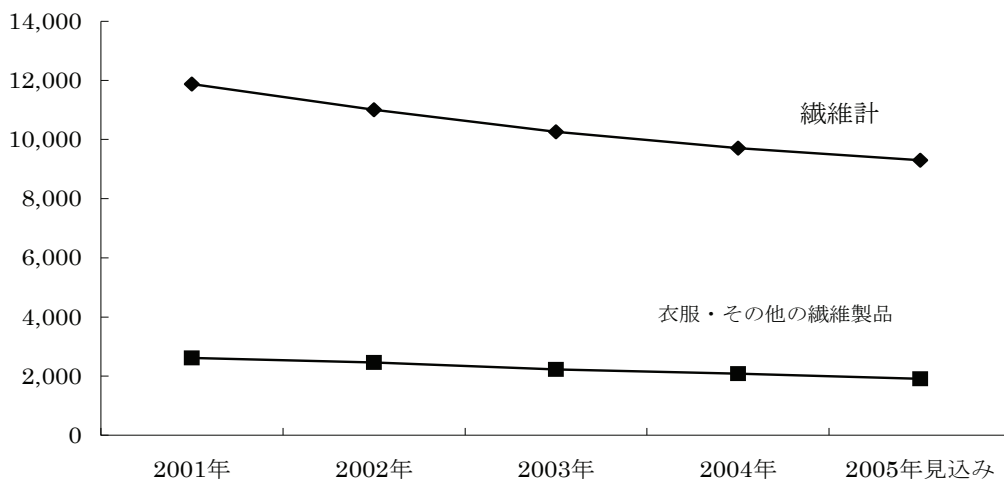
繊維産地の現状について、中小企業庁委託調査「全国の産地—平成 17 年度産地概況調査結果」より抜粋し、概観してみる。

繊維産地の企業数や生産額等の過去 5 年間の推移を示したのが下表である。企業数、生産金額、輸出額とも減少トレンドにあることが分かる。2001 年を 100 として 2005 年見込みの繊維計の企業数、生産額、輸出額を計算すると、企業数で対 2001 年比 78.3%、生産額同 77.4%、輸出額同 74.0%といずれも 20～30%減少している。

この結果からみて繊維産地の縮小傾向に歯止めがかかっていない様子が分かる。

（件）

繊維産地の企業数推移



繊維産地の生産額、企業数等の推移

（単位：件、億円）

		2001年	2002年	2003年		2004年		2005年見込み		
				前年比	前年比		前年比		前年比	
繊維計	企業数	11,876	11,005	92.7%	10,256	93.2%	9,711	94.7%	9,303	95.8%
	生産額	6,408	5,805	90.6%	5,399	93.0%	5,202	96.4%	4,958	95.3%
	輸出額	446	438	98.2%	379	86.5%	387	102.1%	330	85.3%
衣服、その他の繊維製品	企業数	2,619	2,463	94.0%	2,232	90.6%	2,083	93.3%	1,912	91.8%
	生産額	14,240	13,814	97.0%	12,909	93.4%	12,119	93.9%	11,725	96.7%
	輸出額	25	12	48.0%	14	116.7%	17	121.4%	15	88.2%

資料：中小企業庁 全国の産地—平成17年度産地概況調査結果

地域別業種別・企業数・従業者数

単位:件、人

		計(①+②)	①繊維	②衣服、その他繊維製品
全国	産地数	131	89	42
	企業数	14,774	11,322	3,452
	従業員数	128,206	58,980	69,226
北海道	産地数	0	-	-
	企業数	0	-	-
	従業員数	0	-	-
東北	産地数	7	4	3
	企業数	283	170	113
	従業員数	2,630	1,192	1,438
関東	産地数	42	30	12
	企業数	2,609	1,808	801
	従業員数	21,036	10,490	10,546
中部	産地数	30	25	5
	企業数	3,976	3,336	640
	従業員数	27,612	15,241	12,371
近畿	産地数	31	19	12
	企業数	6,344	5,217	1,127
	従業員数	49,545	21,342	28,203
中国	産地数	7	4	3
	企業数	510	78	432
	従業員数	11,186	1,359	9,827
四国	産地数	6	-	6
	企業数	329	-	329
	従業員数	6,754	-	6,754
九州	産地数	6	5	1
	企業数	391	381	10
	従業員数	8,855	8,768	87
沖縄	産地数	2	2	-
	企業数	332	332	-
	従業員数	588	588	-

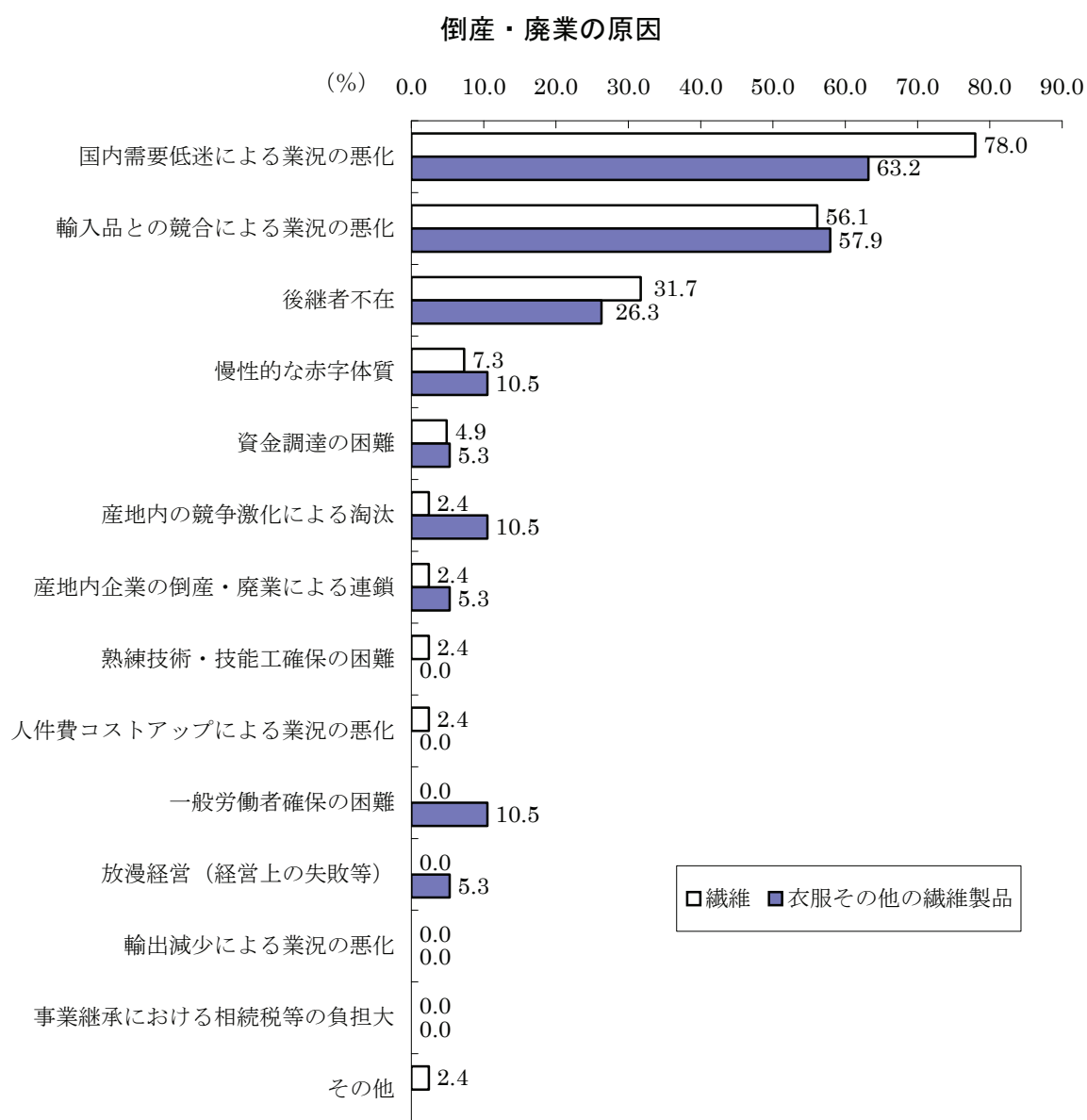
資料：中小企業庁 全国の産地～平成17年度産地概況調査結果（平成18年3月）

②倒産・廃業の動向

2004年の繊維産地の倒産・転廃休業数は1,428件（繊維産地1,158件、衣服その他の繊維製品270件）であった。2005年は9月までの累計しか集計されていないが、ほぼ前年並の勢いで倒産・転廃休業が発生している。

倒産・廃業の原因は、繊維産地、衣服その他の繊維製品産地とも「国内需要低迷による業況の悪化」という回答が最も多かった。「国内需要低迷による業況の悪化」による倒産・廃業は、繊維産地で78%、衣服その他の繊維製品産地でも63%に達し、依然高水準にある。

次いで、「輸入品との競合による業況の悪化」、「後継者不在」、「慢性的な赤字体質」と続く。



資料：中小企業庁 全国の産地～平成17年度産地概況調査結果（平成18年3月）

産地の倒産・転業・廃業・休業・開業企業状況(企業数)
(単位：件)

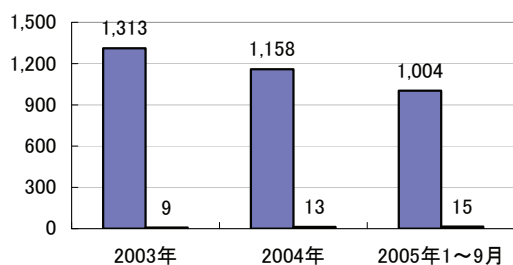
		繊維	衣服・その他の繊維製品
倒産	2003年	8	21
	2004年	6	17
	2005年1～9月	5	15
	計	19	53
転業	2003年	25	19
	2004年	16	12
	2005年1～9月	9	7
	計	50	38
廃業	2003年	684	157
	2004年	536	221
	2005年1～9月	376	95
	計	1,596	473
休業	2003年	596	26
	2004年	600	20
	2005年1～9月	614	48
	計	1,810	94
開業	2003年	9	18
	2004年	13	19
	2005年1～9月	15	12
	計	37	49

資料：中小企業庁 全国の産地～平成17年度産地概況調査結果（平成18年3月）

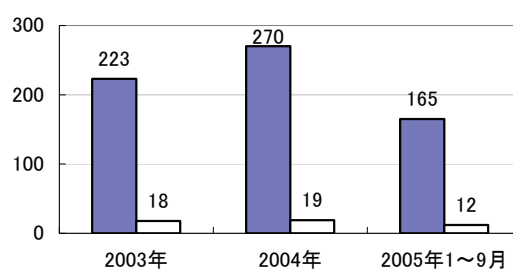
■産地の倒産・転業・廃業・休業・開業企業状況（企業数）

■：倒産・転業・廃業・休業
□：開業

〔繊維〕



〔衣服・その他の繊維製品〕

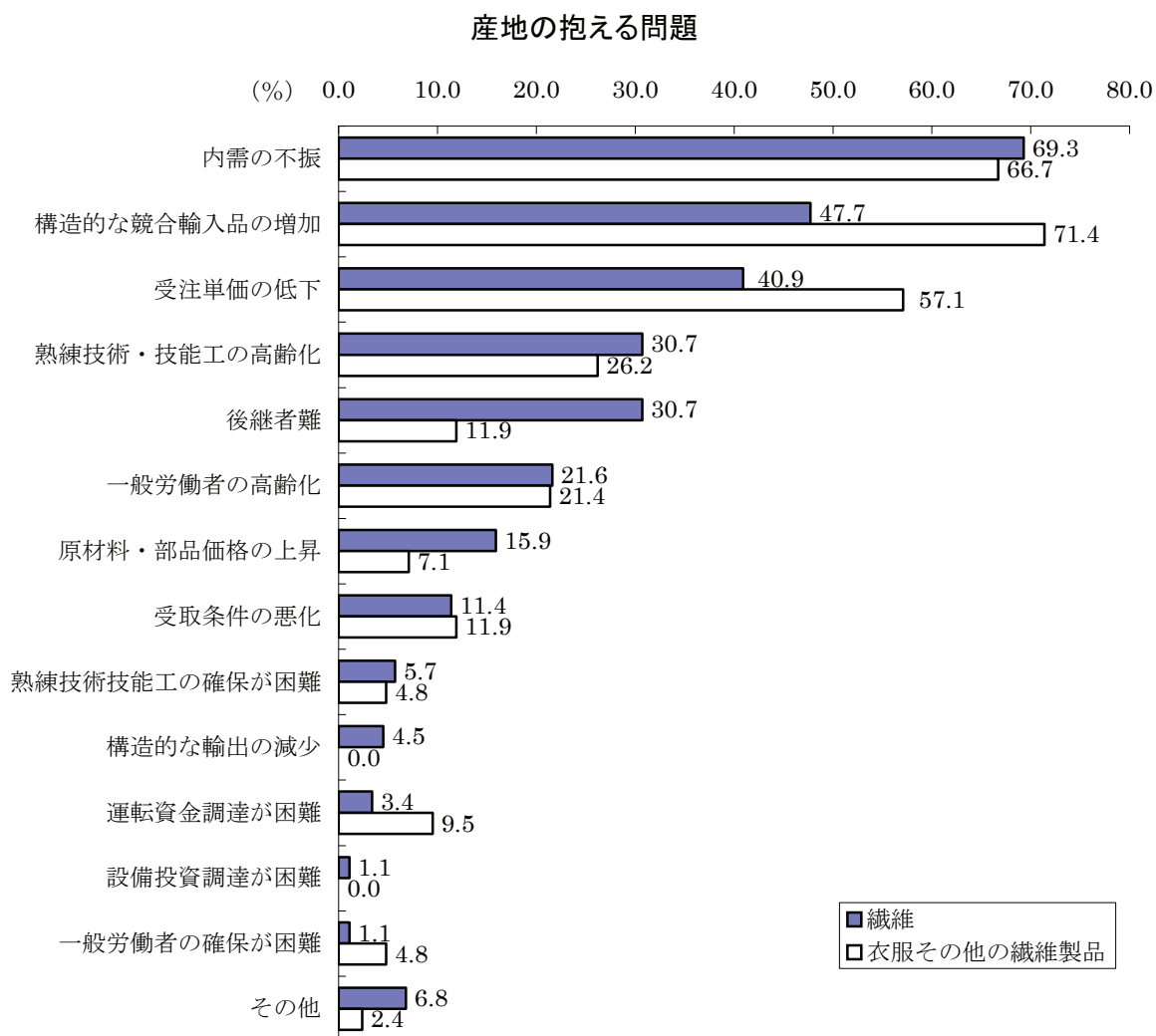


資料：中小企業庁 全国の産地～平成17年度産地概況調査結果（平成18年3月）

③産地の抱える課題

産地の抱える課題は、「内需の不振」、「構造的な競合輸入品の増加」を指摘する産地が多い。また、輸入製品と直接競合する繊維製品産地では、競合輸入品の増加が大きな問題となっている。下請企業が多い衣服その他の繊維製品製造業では、「受注単価の低下」も多くあげられている。輸入品との競合やデフレによる価格下落の影響で産地企業の受注単価も大きく下がっているようだ。

その他では、「熟練技術・技能工の高齢化」、「後継者難」、「一般労働者の高齢化」など歴史のある産地特有の問題も指摘されている。特に繊維でその割合が高い。不況や繊維製品の海外生産移転に伴う需要の減少に加えて、産地の高齢化が大きな問題となっている。



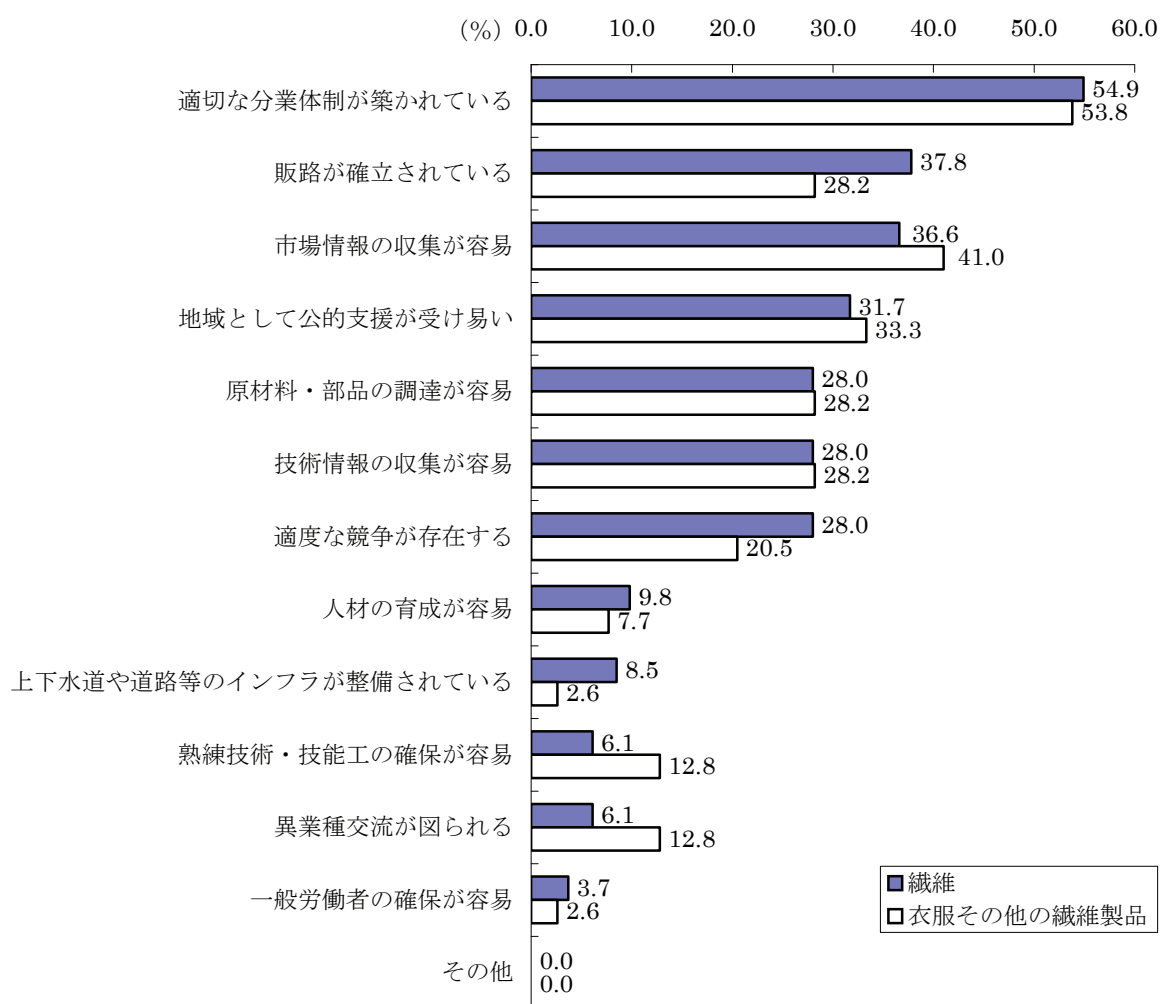
資料：中小企業庁 全国の産地～平成17年度産地概況調査結果（平成18年3月）

④産地に企業が集積していることのメリット（集積のメリットと失われつつあるメリット）

産地に企業が集積していることのメリットとしては繊維産地で、「適切な分業体制が築かれている」が最も多く、次に「販路が確立されている」、「市場情報の収集が容易」という回答が続く。

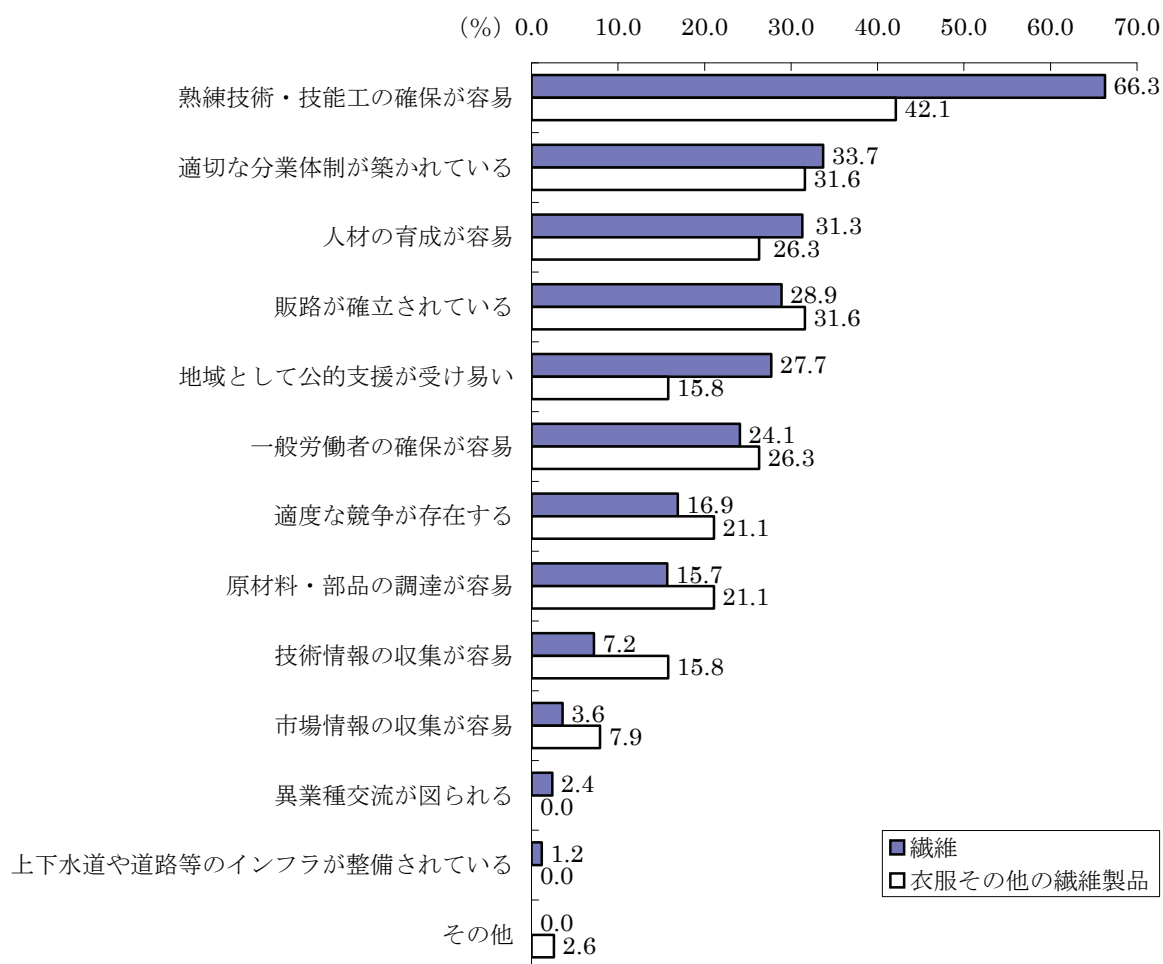
一方、失われつつあるメリットとしては繊維で、「熟練技術・技能工の確保が容易」がもっとも多く、次に「適切な分業体制が築かれている」、「人材の育成が容易」の順で、かつての産地のメリットが失われつつある。

産地に企業が集積していることによるメリット（集積のメリット）



資料：中小企業庁 全国の産地～平成17年度産地概況調査結果（平成18年3月）

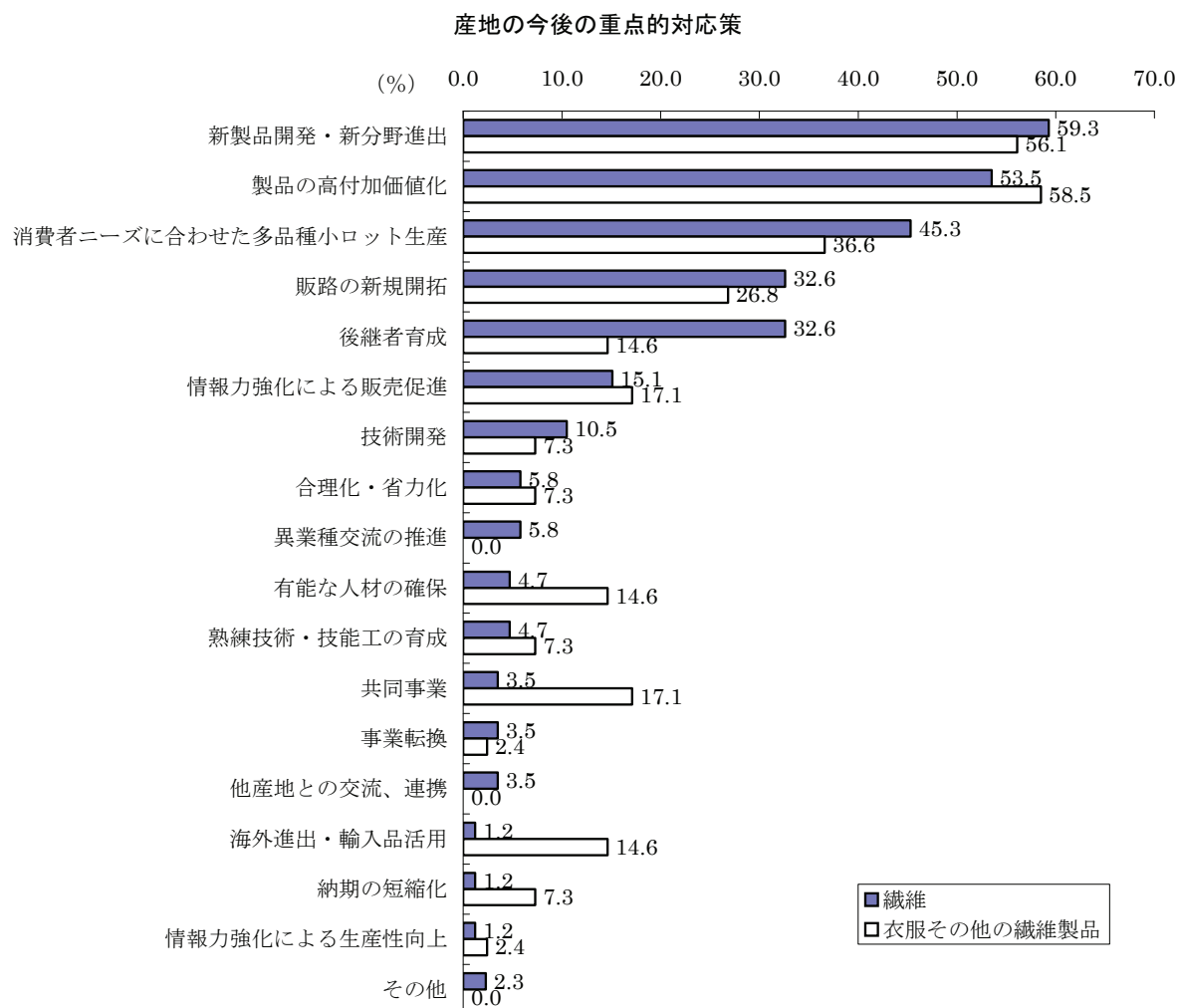
産地に企業が集積していることによるメリット(失われつつあるメリット)



資料：中小企業庁 全国の産地～平成17年度産地概況調査結果（平成18年3月）

⑤産地の今後の重点的政策

繊維産地における今後の重点的対応策は、「新製品開発・新分野進出」が最も多く、次に「製品の高付加価値化」と続く。さらに「消費者ニーズに合わせた多品種・小ロット生産」という回答も上位にあり、消費者ニーズを反映した商品企画に取り組もうとする姿勢がうかがえる。



資料：中小企業庁 全国の産地～平成17年度産地概況調査結果（平成18年3月）

(6) 製造・流通構造の特徴

きものの生産・流通構造の特徴は、製造工程が分業型で多工程にわたる点と、製造問屋、前売問屋などが複数介在する点である。また、きものの生産・流通構造は多工程であるだけでなく、個々の商品や取引形態により多種多様であり、一概に論ずることはできないが、代表的な構造形態として以下に記述する。

代表的な製造工程においては、中心的役割となるのは製造問屋である。この製造問屋が白生地を仕入れ、染色、加工を施し、きものに仕上げるが、染色、加工を実際に行うのは、下絵、糊置き、引染、蒸しなど詳細に細分化された分野を手作業で行うそれぞれ専門の職人である。一反のきものの製作に当たっては、製造工程に関与する多数の職人の手を経由している。

製造工程において分業体制になっていることは、家内制手工業の時代から生産が開始されていた品目であり、多くの製造装置（道具）を一事業家で保有できなかったことが大きいと思われるが、このことは結果として現在においても1社当たりの設備投資コストを低く抑えることが可能であったり、特に絵描き工程においては一人職人の感性・技法だけではなく、複数の職人の感性・技法を融合することで、多様性のある作品が創出されているとも言われている。反面、工程が細分化されすぎているため、最終商品の仕上がりまでに時間が掛かったり、製造コストが上昇したりする短所も有する。

特に、きものの生産量の減少に伴い、職人の仕事量が減少し、職人の収入減少による経営の圧迫のみならず、一定の生産数量が確保できないと生産が高コストになりすぎるため、世界トップの染織技術を喪失するとともに、きものの生産自体ができなくなる可能性が指摘されている。例えば、蒸屋は染料を生地に定着させるために蒸し器で蒸し上げる加工で、蒸し器に入れる数量が足りないと数量当たりの生産単価が上昇し、収入減だけでなく高コスト要因からも収益を圧迫することになり廃業が増加している。このように、分業多工程の中で特定の工程が死滅し、きものの生産自体ができなくなる可能性を憂う声も聞かれる。

製造問屋で商品に仕上がった製品は、通常は卸と称される前売問屋を通じて小売に届けられるが、流通工程においても多工程となっており、複数の問屋を経由して小売に商品が渡る例が多い。問屋が複数介在するのは多種多様な商品の需給の調整の場としての役割であり、商品の在庫リスクを分散させる効果がある一方、製造の現場から小売に至る間にリードタイムが長期化、複雑化し、各段階のリスクが価格に上乗せされてしまうという欠点もある。通常、小売価格は前売問屋の卸値の2～4倍くらいといわれている。

従来のシステムでは、職人→製造問屋→前売問屋→小売と流れる流通構造において、前売問屋が分業体制を管理し、需給調整を行うコーディネータの役割を果たしてきたが、近年は流通量の減少に伴い、その機能（需給調整）が低下しているともいわれている。

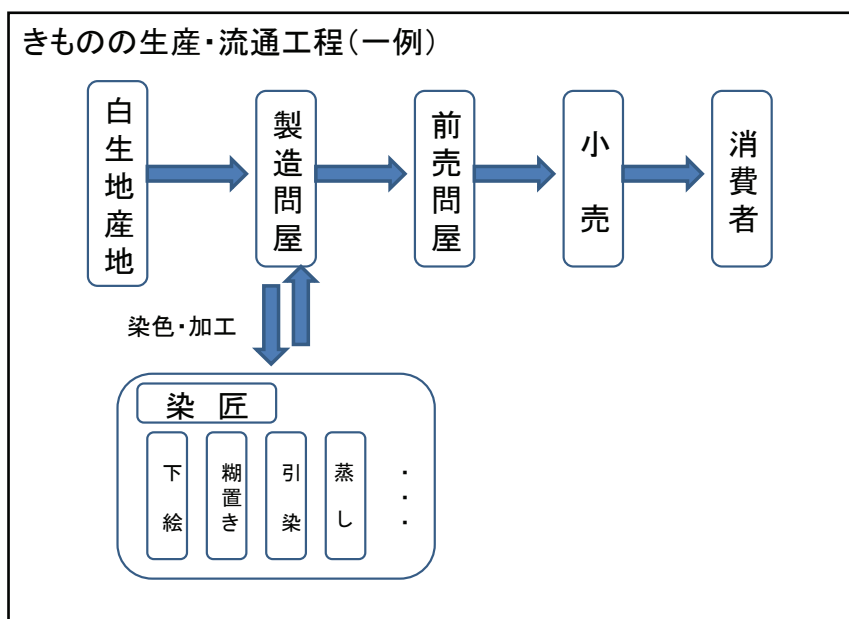
流通工程の最も大きな特徴は、製造問屋で製造された商品が委託販売方式で流通ルートに乗っていく点にある。委託販売方式は一定の数量が動く状況においては、商品の企画・発注を行う製造問屋や前売問屋が見込生産を行うことで、生産側（職人）の仕事を絶やさず生産

工程を回し続けることができるという利点もあったが、生産・流通量が減少した近年、消費者ニーズを把握できないという点で弊害が現れている。委託販売形式であるため、商品企画を行う製造問屋、前売問屋は小売の商品供給量は把握していても、売ることは小売任せとなっており、具体的な消費者のニーズや顧客情報等までは把握できていないことが多い。すなわち、消費者のウォンツやニーズを吸い上げ、それを商品企画に反映するような仕組みとなりづらいのが現状である。また、製造問屋や前売問屋が消費者ニーズを理解していると認識している場合においても、それは真の消費者ニーズではなく、小売店が売りたいものである小売店ニーズであり、小売自体に真の消費者ニーズを追求する姿勢が弱いという指摘もある。

きものの生産・流通過程において、生産手配をするのは製造問屋であり、染色、加工を行う職人に対しては現金決済を行う一方、出来上がった商品は委託販売方式で流通ルートに乗っていく。このため、在庫リスクは製造問屋が持つことになる。価格決定権に関しては、通常であればリスクを背負っているもの（製造問屋）が価格を決定するのが一般的と思われるが、実際の価格決定権は小売が持っている。委託販売方式での取引が行なわれている取引関係では、製造側は参考小売上代を提示するにすぎない。これはきものという商品が趣向性が強く、売れ筋を把握することが困難であるため、消費者に最も近い小売が自社の顧客特性や趣向性を見極め、価格を決定していくからである。このように、多品種少量商品の付加価値の商品の委託型取引では、在庫リスクを負担するメーカーが単純に価格を決定できない側面がある。

このように現在のきものの流通の主な特徴を3点にまとめると、次のようになる。

- a. 生産工程が、小規模分業型となっているため、多工程であること
- b. 流通工程においても問屋が複数介在し、販売単価が上昇すること（リスク分散）
- c. 販売形態が委託販売であること



(7) 各工程（製造問屋、前売問屋、小売）における変化

きもの市場が長期的な低迷に陥っている中で、各工程においてこうした状況を変化させる動きが出始めている。

製造問屋においては、製造現場（職人）に対しては現金払いであるのに対し、販売先である前売問屋や小売からは180日サイトの手形回収になることが多いため、資金面において製造問屋の負担は大きく、このような状況に対応していくためには、消費者ニーズにあったものを作り回転率を上げていくことが企業経営上必要になる。このため、前売問屋から製作指示があるのを待つのではなく、小売からダイレクトに消費者ニーズを掴むようにしたり、直接に小売を始めるケースも出てきている。

前売問屋においても同様に、小売と連携を密にして消費者ニーズにあった商品を企画し製造問屋に発注する動きがみられる。

また、販売の現場である小売においても、収集した消費者ニーズを的確に商品企画に反映できる製造問屋や前売問屋はもとより、白生地メーカーや染職人をも探し、ダイレクトに製品を発注するような動きが出始めている。

このように、製造問屋→前売問屋→小売といった従来の枠を超えて、各形態がダイレクトにかつ密接に結びつこうとする動きは、委託販売ゆえに製造問屋や前売問屋は小売の販売情報を量的には把握していても、質的側面（消費者のニーズ）は把握していないというケースに対応しようとするものであり、小売が現場の接点として収集した消費者ニーズを提供し、製造問屋はモノ作りに関する技術的な知見を動員し、売れるためのモノ作りを行う関係を再構築しようとするものである。このような動きは、決済方法において当然に、従来の委託販売方式ではなく、買取方式となり、商品企画をするものに在庫リスクが発生することとなり、責任が明確化されるとともに、真の消費者ニーズを探る姿勢も強くなる。

これまでのきもの販売は、固定客に対する催事を中心としたビジネスモデルであり、店頭での新規顧客の開拓が進みにくかった。しかし、2006年の過量販売問題によって、従来型の催事型ビジネスだけでは市場の成長が見込めなくなった。このため、一部企業においては、これまではなかったきものの着こなし方法を提案し、新規顧客の獲得に努める動きが出てきている。このような動きのターゲットは主に20～30歳代の女性で、これまでのきもの専門店の主要客層が50歳代であるのに対して若い年代層を意識した行動である。素材としては正絹製だけでなく、ポリエステル製のものを投入したり、これまでのきもの常識にとらわれない着こなしを提案して、「衣類のひとつ」としてのきものを市場に定着させることを狙っている。このような動きに対しては、伝統あるきものに馴染んだ人からは、きもの概念を壊すものとの意見もありそうに思われるが、市場の拡大が喫緊の課題であるならば、伝統的なきものだけでなく、新しいライフスタイルに応じたきものを提案していき、きものユーザーの底辺を拡大し、ひいては伝統的なきもの振興にも通じるものとして、注目に値すると思われる。

また、新規顧客の開拓という点では、新品ではなくリサイクルきものを販売する企業も出

てきている。一般家庭からきものを仕入れ、洗い、しみ抜きなどのクリーニングをした後に店頭で販売するもので、一般のきもの販売店よりも安い価格で販売されることから消費者の支持を得ている。

このように小売から製造の川上に至るまでに様々な変化が出てきている。変化の根底にあるのは流通量が減少し、従来型のビジネスモデルがうまく機能しなくなっていることへの対応策であり、個々の企業が自社の存続のために行っている変化であると考えられる。いずれにせよ、流通量の減少に歯止めを掛けない限り、自然に事態が好転することは考えにくい。

現在、きもの流通市場における変化をまとめると以下のようになる。

- a. 製造問屋、前売問屋の小売参入
- b. 小売企画商品の増加
- c. 委託販売から買取り契約へのシフト（リスク負担者の移動）
- d. 新しい着こなしの提案
- e. リサイクルビジネスの登場、成長
- f. 流通量の減少に伴う経営の圧迫

4. 課題と解決するための方向性

(1) きもの業界の課題

きもの市場は長期的な低迷に陥っている。1980年代をピークに、生活環境やライフスタイルの変化から市場は縮小し続け、2006年に社会問題化した過量販売問題を契機として市場縮小はさらに加速した。そのため、製造現場においても、後継者確保や技術伝承の問題、製造に使用する道具類の供給元減少に伴う調達難、これらに起因する製造工程欠落の可能性など、産業基盤の弱体化が懸念されている。

これらの状況に歯止めをかけ、上昇に転じるためには、きもの業界が一体となって振興策を打ち出し、市場拡大、産業基盤の強化を図ることが何より重要である。

①市場拡大（新規顧客獲得）に対する業界としての統一意識の欠如

きもの業界関係者は、日本人はきものに対して憧憬の念を抱いており、潜在需要が大きいと考えている。今回行なった消費者調査においても、20～40歳代女性の約9割が着用経験を持っており、きもの市場拡大の可能性がうかがえる結果が得られた。

しかし、現在のきもの業界は、潜在需要が大きいと認識していながら、具体的な需要を掘起こす行動計画に欠けており、潜在需要を取りこぼしているのではないかと考えられる。

一部の企業においては、市場縮小に対する危機感を持ち、きものを衣料品の一つとして位置付けたライフスタイル提案を若年層（20～30歳代）向けに行なっていたり、既存のきもの専門店とは趣きが異なるアパレルショップのような店舗づくりを行うなどの行動を取っており、消費者から支持を得ている。しかし、このような動きは個別の企業の経営努力として行なっているもので、きもの市場の拡大につながるようなアクションとはなっておらず、広がりには限界がある。どんな内容であれ、きもの業界が一体となった振興策として打ち出していくことが重要である。

きもの業界においては、これまでから和の文化を振興する視点からのきもの振興の取組や、消費者に安心感を与えるための品質に関する表示の取組を行ってきたところであり、今後ともこれらの取組は継続して行われるべきものであるが、これに加え、市場が縮小の一途を辿っている現在、業界の再活性化のためには、これまでにはないアプローチを含め新規顧客獲得のための市場拡大策が必要となっている。

②若年層へのアプローチ

新規顧客獲得のためのターゲットゾーンとして、若年層（20～30歳代）が考えられる。きもの業界において効果的なマーケティングが行われている例は少なく、販売ターゲットが明確な振袖以外の訪問着や付下げなどのきものは、50～60歳代の女性を念頭に置き商品企画されている場合が多い。しかし、50歳代以上をターゲットの中心に設定しても、きものユーザーの増加は多く望めない。市場拡大を目指すのであれば、若年層にアプローチをすることが有効と考えられる。

成人式において多くの女性が振袖を着用しているが、その後にきものへの興味を惹起するための効果的な行動計画が打ち出せず、新たなきものユーザーを獲得するための行動力が弱いのではないかと考えられる。成人式などできものの着用経験がある人はきものに高い関心を持っていることは消費者調査からも明らかになっており、この若年層の関心層を需要層に変えていく必要がある。そのためには消費者調査から得られた以下の3点がポイントとし、今後の製造・流通体制、マーケット戦略を構築していく必要がある。

- a. 「低価格（10万円以下）の品揃え」
- b. 「着る場面のアドバイス」
- c. 「気軽に入れる店」

③消費者が違和感を抱くきもの環境

今回行なった消費者調査やきものユーザーを集めた座談会では、幾つかのきものの着用環境をめぐる問題が指摘されている。

(ア) “しきたり”からの脱却

まずは、しきたりやルールの煩わしさに対する指摘であり、具体的には、着るシーンときものの適合性や着こなし方について注意をされるというような点に不満を感じ、気分を害した経験があるという意見がきものユーザーから聞かれた。着用キャリアの長いきものユーザーでさえ煩わしさを感じるしきたりやルールは、きもの初心者にとってはより一層着用意欲を消沈させると想像できる。“きものとはこうでなければならない”、“きものとはこうあるべきだ”といった当為から脱却し、自由な着こなしを容認するという意識をきもの業界に浸透させていくことが重要である。また、この着こなしの一環として、現状では斬新に映る色やデザインにも挑戦していくことも必要と思われる。

(イ) 社会教育などの情報発信

いつ、どのような場面できものを着てよいのかが分からないといった声がある。このような消費者の疑問や不安を解消するためには、学校教育や社会教育にも注力し、きもの文化の啓発を行っていくことが重要であると同時に、きもの初心者にとってより分かりやすい方法で様々な情報発信を行い、業界全体が新たなユーザー獲得に向けた共通認識を持ち、消費者へさらに歩み寄ることが必要である。

(ウ) 気軽に入れる店

きもの専門店は敷居が高く、アパレルのショップのように気軽に入ることができないという問題は、消費者を遠ざけることになり、商品であるきものを見せる機会、ひいては購入する機会を逸することとなっている。一部企業で取り組まれているアパレルショップのような「気軽に入れる店」は、きものと消費者の距離を縮め、きものが身近な衣料品と認識されることにも繋がる。新たなきものユーザーを獲得するためには、「気軽に入れる」店舗づくりを行い、消費者本位の購買環境の整備を行うことが必要である。

これまで、きものの販売は催事に頼ることが多かった。旅行や食事会がセットになった

シティホテルでの催事販売会や、消費者を閉鎖された場所に誘引し、強引な手法により販売するという事例も見受けられた。催事販売は、消費者にとって数多くの商品を見ることができる場であり、その意味ではサービスといえるが、過量販売問題に見られるように、構造的な問題点があったとの認識が必要である。

アパレルショップのように、欲しいものを自由に手にし、価格を比較しながら商品選択を行なうといった販売方法が定着しなければ、新規の顧客、特に 20～30 歳代の若年層の開拓は難しい。

(エ) アフターサービス

さらに、消費者をめぐる環境整備のひとつとして、小売店による悉皆屋業務が挙げられる。悉皆屋とは、きもの購入後のアフターサービスを請け負う業種で、洗いや直し、しみ抜きというようなきもののメンテナンスが主な業務内容である。これがきもの市場縮小に伴い、近年減少している。きものユーザーによる座談会でも不満の一つとして挙げられていた。小売店の中には、商品販売に付随したサービスとして、悉皆屋と同様の業務を行っているところもあり、顧客の好評を得ている。きものを販売するだけでなく、保管、メンテナンス、着付けなどへも配慮することにより、きものの着用環境を整えることも重要である。

④需要に応じるとともに分かりやすい価格設定

きもの業界では、伝統、素材の上質さ、匠の技術、芸術性などが重んじられ、結果的に高級な製品が「いいもの」として扱われている。しかし、高級な製品は高額で販売され、若年層やこれからきものを着てみたいと感じている消費者には支持されにくいという傾向が消費者調査において明らかになっている。

生産者側が考える「いいもの」の価値観は、きものに精通し、和装文化や伝統を理解した消費者には支持されるが、きものの知識を持たない消費者には理解されにくく、きものを購入したいと考えている消費者の予算のイメージは 10 万円以下という回答が多数を占めるなど、生産者論理の価格構造と消費者が購買意欲を持てる価格構造には大きな隔たりがある。難しい問題であるが、ここを埋める価格設定、商品の供給体制の構築が求められている。

新たなきものユーザーを獲得し、きもの市場の裾野を広げるためには、きものに興味を持つ消費者の多くが買ってみたいと感じる手頃な価格のきものをイメージしたものづくりを視野に入れる必要があるが、現在の製造・流通構造、価格構造では、消費者が求める低価格帯商品の供給に問題が生じるのは明らかである。消費低迷が長期化している今日においては、低価格な商品を量産しても販売数量を確保できる確実性がなく、結果的に、高級で高額な商品を需要に見合った量だけ供給するという構造にならざるを得ないというのが現状であることは理解できるが、市場縮小の現状と産業基盤の弱体化など、きもの業界が抱える問題を鑑みた場合、消費者の志向を的確に捉えた低価格帯商品の供給がきもの市場

の裾野を広げるための取り組みとして重要であり、このことが市場の裾野を広げることが伝統に裏打ちされた上質なきものに対する理解者も増加することに繋がるとの認識が必要である。

⑤多段階となっている製造・流通工程

きものは細かく分断化された工程を経て生産されるが、これが価格上昇とリードタイムの長期化に繋がっていることは否定できない。きものユーザー座談会でも「仕立に時間が掛かることが一般消費者には馴染みにくいのではないか」との意見がみられるなど、短納期、コストダウンが課題となっている。

また、商品企画においても効率的な工程間連携が必要となっている。友禅染などのきもの場合、製造問屋が商品企画を行い、各製造工程にかかる作業を職人に対して指示し、工程管理する。このようにして製造された製品は、前売問屋や小売に卸売りされ、市場に流通し、消費者に販売される。製造問屋から前売問屋や小売に至るまでの取引形態は、一部の商品を除き、委託販売方式が一般的であり、商品に対するリスクは製造問屋の負担となる場合が多い。

商品リスクを負担する製造問屋は、消費者情報を把握し、それをモノづくりに活かす必要があるが、多段階の工程を経て流通するというきもの商品特性から、製造・流通各工程間の情報共有は必ずしも図られていないため、“消費者が求めているであろう”商品を想定してモノづくりを行っているのが現状という指摘もある。

しかし、市場の拡大を図るためには、“消費者が求めている”商品を提供することが何より重要である。そのためには、消費者接点である小売が“消費者が求めているであろう”商品ではなく、“消費者が求めている”商品の情報を把握するとともに、各工程が一体となって情報共有し、モノづくりを行う仕組みづくりが必要である。

(2) 解決のための方向性

市場拡大のために必要なものは何かについて、業界全体が共通認識として持ち、きもの業界が一体となった具体策を講じることが重要である。個別企業のアクションや業界バラバラの対応では、広がりはなく、きもの業界全体の振興には繋がらない。きもの業界内における情報共有の進展を図り、発展の方向性を見出し、足並みを揃え振興策を実践することが重要である。そのための具体的な方向性は以下の4点が考えられる。

①新規顧客の開拓

市場の拡大のためには、新規顧客の開拓が必要であるが、新規顧客のターゲットとしては、既存顧客である50歳以上の女性だけでなく、若年層の女性に対してきものの魅力を訴えていくことが重要である。すなわち、消費者調査で得られた「低価格帯商品の品揃え」、「着る場面のアドバイス」、「気軽に入れる店」の3点を念頭に置き、消費者をめぐる環境

整備を行う必要がある。

このためには、消費者ニーズを業界全体としてキャッチする体制を構築するとともに、伝統的なきものや着こなしだけでなく、ファッションの一つと捉えられるような、クリエイティブなデザインや着こなしを提案することが必要であり、こうしたことがきものユーザーの裾野を広げることに繋がる。

②価格の明確化

消費者調査では、低価格帯のきものへのニーズが高いという結果になっている。新規顧客を若年層と設定した場合、価格には敏感であり、日常的に着ている衣料品との比較は避けられない。また、きものの情報誌には商品の小売価格が明示されていないケースが多くみられる。小売店頭でも最終販売価格（仕立代を含んだ価格）が明示されていないケースが多く、消費者が不信感を抱くことになりかねない。

洋服に比べて高いと感じられる価格設定や解りにくい価格表示は、消費者がきものを敬遠する要因となっている。また、価格構造の説明や価格の明示は、消費者が商品選択をするうえで最低限の情報と考えられる。

消費者の支持を得、購買行動に結び付けるためには、価格構造や価格設定など、価格に関する説明責任を果たすことが重要である。

③見える化の推進

消費者はきものを取り巻く環境に対して戸惑いを感じている。それは、しきたり、気軽に入れる店がないこと、注文から納品までの時間が掛かることなど他の衣類とは異なる点についてである。これらを解消するためには、消費者の見える化を推し進めることが必要である。特に、過量販売問題の影響から、きもの業界には「閉鎖的」、「強引な販売方法」などのマイナスイメージが広がった。これを払拭し、新たなきものユーザーを獲得するためには、商品、価格をオープンにし、商品特性を説明するなど、「見せる」ことにより消費者に安心感を与え、消費者本位の購買環境を整える必要がある。

また、アパレルなどの異業種と連携した展示会の開催やファッションショー等の開催により、きものの露出度を高めることや、きもの関連店舗を集積させ、消費者が楽しみながらきものを見たり買ったりでき、商品知識も普及できる業界と消費者との結節点となる場所を整備することも重要である。

④消費者本位の環境整備

上記の観点からきものを消費者に親しみやすいものにしていくことは必要であるが、着付けやメンテナンスなど洋服以上に手間が掛かるという問題は残る。この点に関しても、商品の特性として放置することなしに、一体的サービスを実施するなど消費者の負担をできるだけ除去する仕組みづくりも求められている。

これらの方向性に沿った各段階での具体的取り組みとしては、以下のようなことが考えられる。

〈企業の取り組み〉

製造及び流通工程が縦横の繋がりを一層強化するとともに、市場における消費者情報を共有し、モノづくりに活かせるような体制を整える必要がある。

きもの販売店は、消費者が気軽に入れる店舗づくりに取り組み、商品としてのきものを自由に見ることができる場所を消費者に提供する必要がある。また、商品情報、購買・着用環境など、総合的な情報発信を行い、きものがライフスタイルの一部になり得るというイメージを創り出すことが重要である。

また、製造工程においては、納期短縮や新製品開発に対応するため、技術開発や企業間連携を行うことも期待される。

〈業界団体の取り組み〉

市場の拡大ときもの文化の浸透は車の両輪であるとの認識に立ち、地域及び団体間の連携を図り、和装業界が一体となった振興策の打ち出しを行うとともに、製造・流通工程間連携の円滑化と産業基盤の強化が図られるよう、方策を講ずることが必要である。

文化の浸透のためには、これまで業界が行ってきたきもの文化振興の取組を各業界が協調した一貫した取組として拡充するほか、学校教育と連動することにより、年少の頃からきものに対する文化と触れ合うことのできる環境設定も効果があると思われる。

また、ファッションショーなどの開催、アパレル業界などの異業界と連携したイベントへの参加や、消費者が楽しみながらきものを見たり買ったりでき、商品知識も普及できる業界と消費者との結節点となる場の整備を行うなど積極的に「見せる場所」を企画し、個別企業では実施が困難な取り組みが期待される。

〈行政の役割〉

業界団体や個別企業が実施しようとするイベント、販路開拓、商品開発、技術開発、後継者育成などに対し、補助金等の施策を提供することで、業界団体、企業の取り組みを支援する。また、きもの文化の啓発に向けた教育環境・社会環境の整備などにも注力していくことが必要である。

純国産絹製品に向けて

～特徴ある「群馬オリジナル蚕品種」～

群馬県蚕糸技術センター

主席研究員 町田 順一

日本の蚕糸業の再生と持続的発展を図ることをねらいとして、(財)大日本蚕糸会蚕糸・絹業支援センターでは、蚕糸・絹業提携緊急対策事業を実施しています。

この事業は、繭生産農家、生糸生産者（製糸）と加工・流通関係者（製織、染色、卸問屋、小売）が提携して、国産繭・生糸の特徴や希少価値を生かした消費者が求める付加価値の高い純国産絹製品を開発・販売するグループの育成支援を行うとしています。

群馬県で育成された群馬オリジナル蚕品種繭・生糸を使用した提携システムは4グループが承認され、絹製品の製造・販売が進められている状況です。

群馬県繭生産量のうち提携システムに利用されている割合は平成20年度は18%です。全ての県産繭を提携システムに移行するよう推進しているところですが最近の経済不況に影響され提携システムの普及割合が鈍っている状況が見受けられます。

このような厳しい情勢の中で、付加価値の高い純国産絹製品に向けて邁進している

絹業者の皆様方に群馬のオリジナル蚕品種繭・生糸をご利用いただきたく蚕品種の特徴を紹介させていただきます。

1. 群馬のオリジナル蚕品種の繭・生糸生産量

群馬オリジナル蚕品種は図1に示したように、現在7品種が普及奨励に適する品種として群馬県内に限定した飼育が行われています。平成3年に「世紀二一」^{せいきにいち}は特徴ある蚕品種として最初に飼育され、次いで「ぐんま200」が平成6年にオリジナル蚕品種として飼育を開始しています。この2品種については農林水産省蚕品種指定制度によって実用品種として国の指定も受けています。しかし、平成10年に蚕糸業法の廃止により、以後群馬オリジナル蚕品種は県で主宰する群馬シルク認定委員会で普及奨励に適する蚕品種を認定しています。「新小石丸」^{しんこいしまる}や「ぐんま黄金」^{こがね}、「新青白」^{しんせいはいく}、「蚕太」^{さんた}そして、7番目の品種として「上州絹星」^{じょうしゅうけんぼし}を平成19年に認定しています。

図1 群馬オリジナル蚕品種

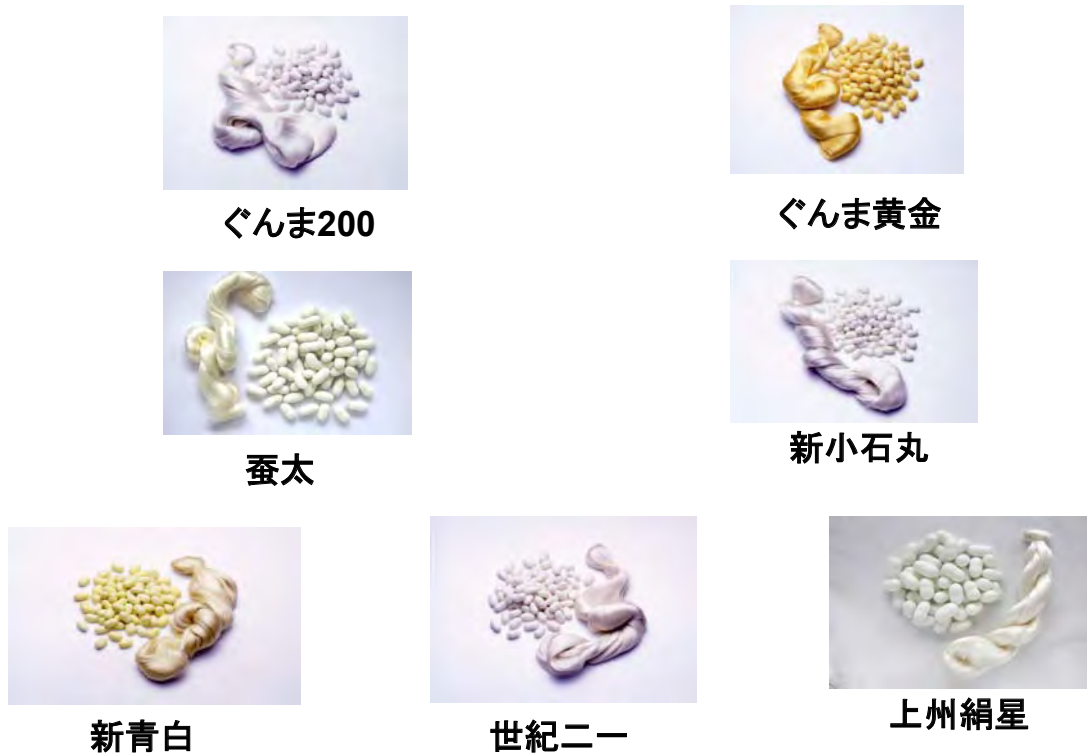


表1に平成20年度の群馬オリジナル蚕品種の繭生産がどのくらい生産されているかを示しました。

県内の繭生産量は161.2トンで、その内群馬オリジナル蚕品種は74.8トン（オリジナル蚕品種の占める割合46.4%）です。品種別では「ぐんま200」は最も多く57トンの繭生産しています。

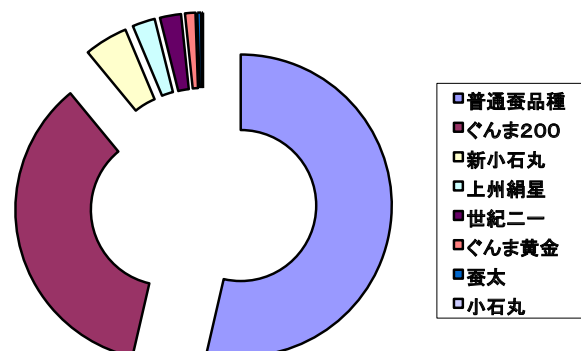
次に、「新小石丸」、「上州絹星」、「世紀二一」「ぐんま黄金」と続きます。

「蚕太」、「新小石丸」は現在のところ各品種に1社だけの生糸利用となっていますので生産量は少ない。一方「新青白」はここ2年前から生糸需要量が少なく繭生産を見合わせています。

表1 平成20年度群馬県オリジナル蚕品種の品種別繭生産量

蚕品種	収繭量(kg)	割合(%)	
普通蚕品種	86,447	53.6	
ぐんま200	57,087	35.4	} 46.40%
新小石丸	7,496	4.7	
上州絹星	3,897	2.4	
世紀二一	3,636	2.3	
ぐんま黄金	1,793	1.1	
蚕太	665	0.4	
小石丸	198	0.1	
合計	161,219	100	

図2 平成20年度群馬県蚕品種別繭生産量割合

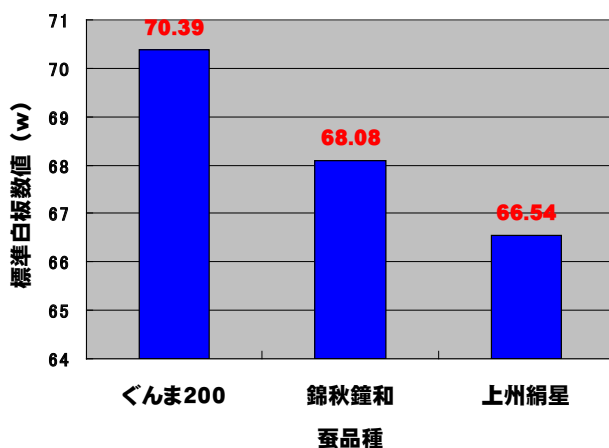


2. 群馬県オリジナル蚕品種の特性

「ぐんま 200」：日本種の「ぐんま」と中国種の「200」を交配させた一代交雑種です。この品種は普通品種と同じぐらいの収繭量が得られます。虫質は強健であることから、厳しい夏の時期でも安定した飼育が可能です。そのため生糸実需者の大量使用の要望に応えられています。糸質は、節が少なく白度が高いという特徴を持っています。用途は幅広く和装洋装に使用されています。

「世紀二一」：日本種の「世」と「紀」の交配種と中国種の「二」と「一」の交配種

図3 「ぐんま200」の絹糸（精練糸）の白度（w）



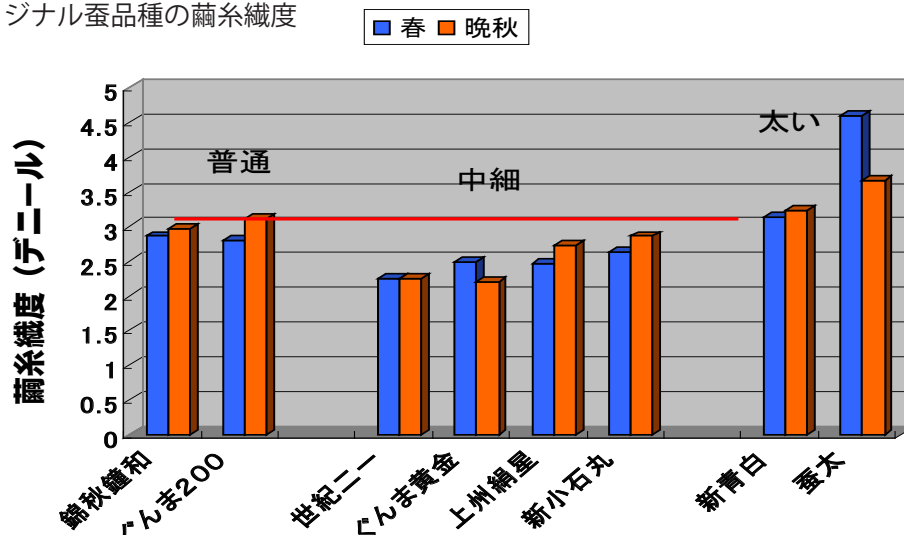
を交配させた4元交雑種（4つの品種の交雑種）です。この品種の繭糸繊度は2.5デニール内外（*1デニール単位は、生糸の長さ450mで重さ0.05グラム）で普通品種より細い。さらに繭糸長は普通品種より1,2割長く1,500～1,600mあります。中細繊度で長糸長の特徴を持っています。

長くて細い糸は昔から節が少なく、光沢の良いことがいわれ、実需者から良質生糸として求められております。この要望に応えた品種となります。染色性は、友禅、江戸小紋の染色織物で評判が良く、染色性に優れた品種であることも実証されています。

表2 群馬オリジナル蚕品種の糸特性

項目 蚕品種	平成19年度春蚕期				
	繭糸長 (m)	繭糸繊 度 (d)	解じょ率 (%)	生糸量歩合 (g)	小節点 (点)
春嶺鐘月	1,395	2.86	90	22.07	95.0
ぐんま200	1,350	2.81	91	22.06	94.5
世紀二一	1,642	2.24	64	20.37	95.0
新小石丸	1,001	2.63	68	16.55	94.0
ぐんま黄金	1,343	2.48	90	20.18	98.3
新青白	849	3.13	93	17.81	95.0
上州絹星	1,064	2.46	89	16.93	93.3
蚕太	816	4.60	80	18.07	98.3

図4 群馬オリジナル蚕品種の繭糸繊度



「新小石丸」：在来の日本種「小石丸」に中国種「二・一」を交配させた、3元交雑種です。平成10年に群馬県で独自の品種認定制度を設けて、第1号として命名された品種です。

この品種は、繭1個の重さ（繭重）は、1.7グラムぐらいで普通品種より2割程度軽い。さらに繭から生糸のとれる割合（生糸歩合）は15～16%で普通品種の20%内外に比べると低い値です。しかし、糸質は、光沢のある節の少ない優良生糸を生産できます。需要は現在のところ高級和装用に利用されています。

「ぐんま黄金」：黄色い繭の「支125号」に日本種の「ぐんま」を交配した一代交雑種です。繭の色と生糸の色は黄色をしています。この黄色い繭色は、飼育の最後の頃に（5齢期）26～28℃の高温で飼育するとさらに鮮やかな黄色い繭を得ることができます。ちなみに黄色い色素はカロチノイドでセリシン部分に存在します。生糸を精練するとほとんど黄色は退色します。

糸質では、繭糸の繊度が2.5デニール内外で中細に属します。生糸は光沢や染色性は優れます。用途は和装や洋装に利用されています。

「新青白」：在来^{しんせいはいく}の日本種「青白」薄緑色繭と中国種の「200」を交配した一代交雑種です。交配種の繭色は「青白」の薄緑色となります。緑色の繭には、2種類系統があり「青白」は緑繭系統です。この緑色はフラボノイド色素で、「ぐんま黄金」同様、繭糸のセリシン部分に存在します。繭

を煮繭・繰糸したり、生糸を精練すれば色素は退色します。色素を多量に残存させたい場合には、煮繭温度を下げることや精練をしない製品作りが一考と思います。

繭糸質は、繭糸繊度はやや太い3.2～3.5デニールです。解じょ率^{かいりつ}、小節成績^{こぶし}も良好です。（＊解じょ率（糸のほぐれ具合）80%以上の値が優良です。）

用途は、寝具や布団カバーや化粧品、洋装等の織物に利用されていましたが、現在利用が少なく繭生産を調整している状況です。

「蚕太」：この品種は太い糸がほしいという業者のニーズに応じて育成された品種です。日本種の「F G N 1」という品種と日本種の「N 510」を交配した日本種同種の交配種です。虫質は強健性にやや劣りますので蚕にとって最適な春蚕期に限り飼育を推奨しています。

繭糸繊度は4.0～5.0デニールと普通品種の3.0デニールから比べると太いことが明らかです。現在の用途はシルクニット製品に使用されています。シャリ感があり好評です。

「上州絹星」：在来種^{じょうしゅうけんぼし}の「又昔」糸を使用したいとの要望の中で育成された品種です。「又昔」そのものでは、繭が小さく貧弱で生産性は低い、そのため「又昔」の糸質を生かし繭生産性の高い品種を検討したところ、中国種「二」との交配種は繭の生産性や糸質ともに優れた内容であった。「又昔×二」は蚕品種名の愛称を「上州絹星」と命名した。

この品種の糸質は強伸度が高く、織物の摩擦抵抗性や防しわ性は優れています。繭色は肉眼では白色繭と極薄い緑黄色繭が観察されます。薄い緑黄色はフラボノイド色素で極少量含みます。

以上、群馬オリジナル蚕品種の7品種について紹介いたしました。

現在も生糸実需者の要望に応えるべく、群馬県では蚕品種を育成しています。その中で現在実用段階にきている細織度品種（仮称ぐんま細）があります。繭糸織度の

値は2.1～2.2デニールです。実用的な繭生産、絹製品化に向けて検討を進めているところです。

そのほか、繭糸にフラボノイド色素を多量に含む蚕品種（緑黄色繭品種）や遺伝子組換えによる新たな特徴を持った品種育成にも取り組んでいます。

絹業者の要望に応えるべく品種改良や新品種育成を行っていますので、ご意見ご要望がありましたらご連絡くださると有り難いと思います。

図5 生糸の強度・伸度

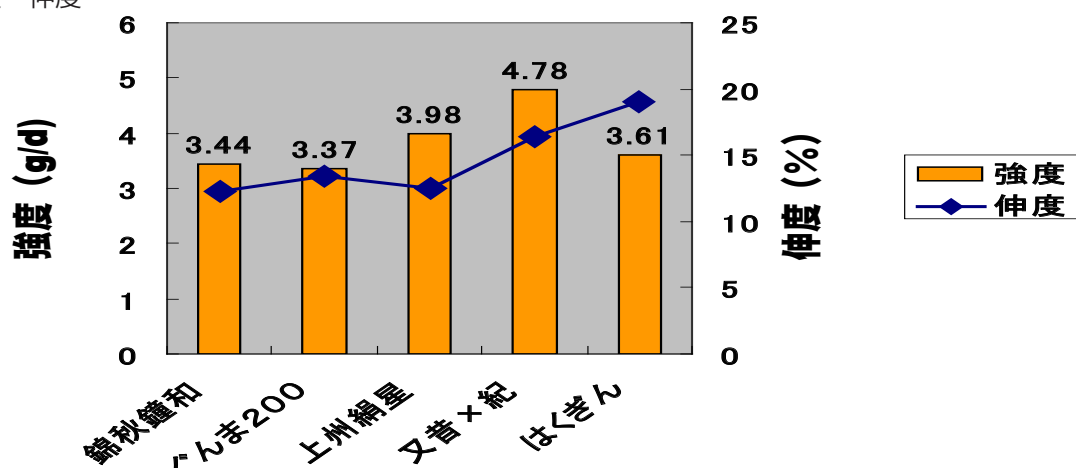
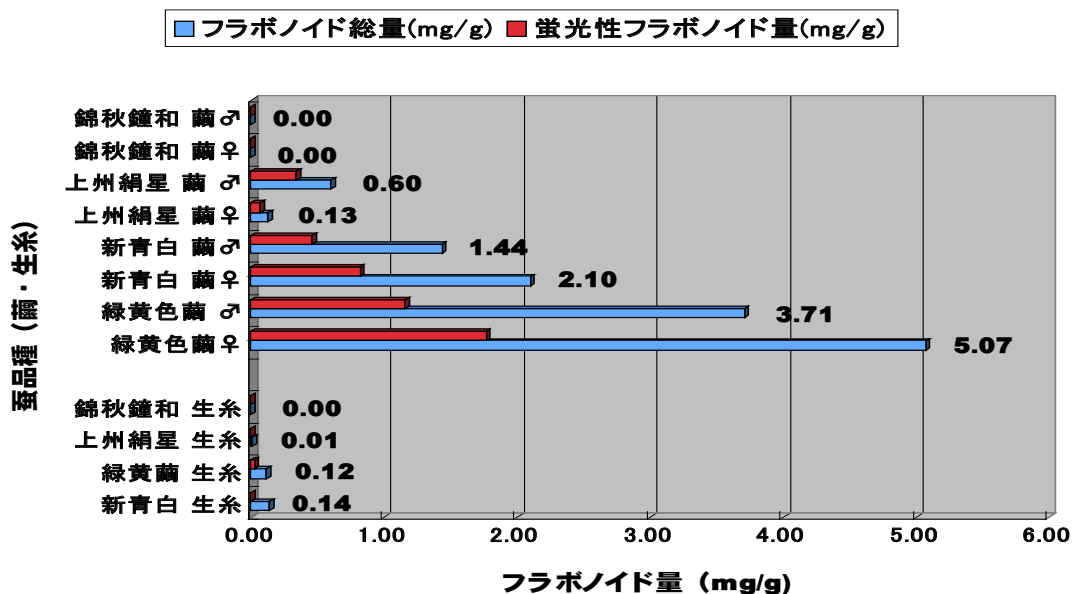


図6 蚕品種別繭糸・生糸のフラボノイド量



平成 21 年度晩秋蚕優良繭生産研修会の開催

☆がんばろう栃木の養蚕！

全国農業協同組合連合会栃木県本部

園芸部園芸資材グループ 須藤 日出夫

春～初秋蚕期までの繭生産も終了し、一息つく間もなく、晩秋蚕期を迎える時期、平成 21 年 8 月 21 日（金）、（財）栃木県青年会館（宇都宮市）に於いて、栃木県養蚕産地育成協議会と（財）大日本蚕糸会共催による「晩秋蚕優良繭生産研修会」が開催されました。

この研修会は、毎年開催され、春蚕期から初秋蚕期までの繭生産実績及び春繭検査成績等の結果を報告し、反省と最終晩秋蚕期に安定した優良繭生産に如何に取り組んで行くか、また、近況の蚕糸情勢を踏まえ目的に沿った繭生産基盤の確保を進めるなど、生産者を主とし、J A 養蚕担当者、県関係機関、蚕糸各関係団体など 51 名の出席者をもって開催となりました。



小滝洋一幹事長挨拶（全農とちぎ園芸部長）

最初に、栃木県養蚕産地育成協議会小滝洋一幹事長（J A 全農とちぎ園芸部長）より、以下のような開会の挨拶がありました。「本年 4 月 28 日の降霜による被害と高齢化による労力不足などに伴う掃立数量の減、また、春蚕期Ⅱの 5 令期に高温となり食桑不足による繭の小粒化となったことから、前年対 1.8 トン減の 13 トンの前年対比 88%となりました。現在、初秋蚕期までの生産量は、20 トン、前年同期対比 90%となりました。

また、国策である「純国産絹製品づくり」には、本県養蚕事業として積極的に取り組み「提携システムグループ形成化」のなかでは、特殊蚕品種「改良あけぼの、改良小石丸」の極細繭生産についても春蚕期 1.6 トンを生産しました。

このような中、J A おやま、なす南の 2 J A では、4～5 グループ化を目指し着々と前進しております。

このようなことから、春蚕期の繭価格においては、繭品質も向上し、1 kg あたり 2,057 円（税込）と前年より、15 円のアップとなり、生産者の日頃の努力が成果と

して現れました。

本年最終蚕期の晩秋蚕期に向け、さらなる品質向上を図るため、本日の研修会が県をはじめ、講師として、(財)大日本蚕糸会、全農本所の関係者を講師にお招きしての研修会となりますので、本日の研修を活かし、晩秋蚕期優良繭生産に取り組んで頂き、養蚕所得向上を図って頂きたいと思ひます。」

研修会の内容は下記のとおりです。



研修会場の様子

1. 平成 21 年栃木県産繭生産状況及び春蚕期繭品質評価等について

—全農とちぎ園芸資材グループ 須藤 日出夫—

- (1) 繭生産状況：別紙のとおり県内養蚕状況について報告がなされた。
- (2) 春蚕期繭品質評価成績：検査機関の群馬県繭品質評価協議会による品質評価成績について詳細な報告が行われた。

平成 21 年度 栃木県産繭生産状況

J A 全農とちぎ

	春 蚕				初 秋 蚕				晩 秋 蚕				年 間				備考
	飼育戸数	掃立箱数	上繭数量	繭生産額	飼育戸数	掃立箱数	上繭数量	繭生産額	飼育戸数	掃立箱数	上繭数量	繭生産額	飼育戸数	掃立箱数	上繭数量	繭生産額	
A	戸	箱	kg	千円	戸	箱	kg	千円	戸	箱	kg	千円	戸	箱	kg	千円	
H20	48	327.0	14,781.6	30,182	35	191.0	7,407.5	14,377	46	383.5	17,169.4	35,435	50	901.5	39,358.5	79,994	
実績				@2,042				@1,941				@2,063				@2,032	
B																	
H21	46	310.0	14,200.0	29,400	33	180.0	7,200.0	14,700	45	380.0	16,600.0	33,600	48	870.0	38,000.0	77,700	
計画				@2,070				@2,042				@2,024				@2,045	
C																	
H21	43	299.0	12,984.9	26,708	30	169.0	6,901.5		42	346.0	16,000.0		46	814.0	35,886.4	0.0	
実績				@2,057				@		見込	見込	@	見込	見込	見込	@	
前年																	
対比	90%	91%	88%	88%	86%	88%	93%	0%	91%	90%	93%	0%	92%	90%	91%	0%	
計画																	
対比	93%	96%	91%	91%	91%	94%	96%	0%	93%	91%	96%	0%	96%	94%	94%	0%	
注) 21年度繭生産額内訳	製 糸		2,773														
	補給金		23,935														
	計		26,708														

☆繭生産額は、消費税込 ☆1箱/25,000粒

2. 蚕糸情勢と繭生産状況について

—全農本所園芸農産部 特産販売課 副審査役 寛 文平氏—

最近の養蚕情勢

1. 全国の繭生産状況（21 年度）

- (1) 春蚕期（実績）： 1 2 3. 3 トン（前年比 86.1 %）
- (2) 初秋蚕期（計画）： 8 4. 8 トン（前年比 88.3 %）
- (3) 晩秋蚕期（計画）： 1 0 8. 2 トン（前年比 87.4 %）
- (4) 年 間 ： 3 1 6. 2 トン（前年比 87.1 %）

＊ 4 月 27 ～ 28 日の降霜により東北地方および関東地方の一部に被害があった。

＊ 減産の要因は、養蚕農家の高齢化の進展による掃立数量の減少による。

2. 最近の繭品質評価結果

- (1) 繭品質評価は、群馬県繭品質評価協議会、山形県繭質評価委員会および財団法人大日本蚕糸会により実施されている。
- (2) 平成 21 年春蚕期の評価結果は、全体的に好成績であった。

一方、荷口によっては成績が極端に劣るものが若干発生している。

＊ 最高および最低（選除繭歩合：0.0 ～ 4.5、生糸量歩合：20.48 ～ 14.24）

3. 新蚕糸施策による繭生産流通体制について

—（財）大日本蚕糸会 蚕糸・絹業提携支援センター部長 安藤 俊幸氏—

1. 蚕糸・絹業システム事業等の取組みと進捗状況について

- (1) 平成 19 年度国庫補正予算で 35 億円余りの交付がされた以降、蚕糸・絹業提携支援センターが設立（20.2.29）され、各種事業に取り組む。

(2) 提携システムの確立

- ① 19 年度 4 グループ、② 20 年度 2 グループ、③ 21 年度 3 グループ
現在計 7 グループ確立された。

2. その他、提携事業の確立に向けた課題と今後の対応と課題について下記のとおり述べられた。

- (1) 提携システムの基礎となるのが「優良繭生産」（選繭の徹底）
- (2) JA および養蚕農家と川下との連携強化（信用の度合、意思の疎通等）
- (3) 川下の意向（国産繭確保を優先）
- (4) 継続性の確保（一定額の繭代の確保）

4. 蚕病防除について

—（財）大日本蚕糸会 蚕業技術研究所 上席研究員 代田 丈志氏—

栃木県の特徴としては、1 戸当り、多回育による繭生産量は、20 年度 787 kg と全国平均の 2 倍の生産量となっており、このことから、第一に「蚕病防除の徹底」を図るこ

とが第一である。

よって、今回、春蚕期Ⅱ 5月30日掃きを現地から採取し、分析を蚕業技術研究所へ依頼し、ご協力を得て、繭をPCRの検査を実施しました。その結果を生産者へ報告し、蚕病防除することにより、優良繭生産の道に繋がり、安定した養蚕基盤の確立を図ることとなっております。

【内部汚染繭検査結果報告】

依頼者：JA おやま北部営農支援センター 桑東部出張所 鶴見

生産者：Iさん

蚕 期：春蚕期Ⅱ

品種名：かいりょうあけぼの

依頼繭数 33個（内訳、蛹死11個体、幼虫死16個体、健蛹7個体）

PCR 検査結果：陰性

依頼者：JA おやま北部営農支援センター 桑東部出張所 鶴見

生産者：Kさん

蚕 期：春蚕期Ⅱ

品種名：春嶺×鐘月

依頼繭数 20個（内訳、蛹死17個体、幼虫死3個体）

PCR 検査結果：陽性

5. 【優良繭生産は、蚕病防除から】

（1）消石灰上澄み液 200 倍液を常備し、下記のとおり散布し防除を徹底しています。

①飼育作業（給桑、除沙、上簇）による作業動線への散布

②貯桑時の汚染防止

③使用する前の蚕具の浸漬消毒

④上簇室への使用を実施することとしている。

（2）多回育を実施するにあたり、上簇室と中蚕・壮蚕の飼育室の隔離するため、施設の用途区分を明確にして飼育を実施しています。

注意事項として、

①飼育中における上簇室への出入りを避ける作業手順にする。

②飼育中に上簇室で作業を行った場合は、直接飼育室には入らない。

③手を洗う、できれば上着は取り替えてから飼育室の作業をする。

.....

以上、研修会の状況を報告いたしました
が、生産者はじめ各関係者一丸となり、日
本の絹文化を堅持し、とちぎの養蚕業を蚕

糸施策のもと前進いたしたく、各関係機関
のご指導とご協力をお願いいたします。

国内産地情報

絹織物産地の概況（9月）

市況が落ち込んだまま推移し業界全体に厳しさが増している

<原糸>

原料は、中国生糸が値上がりしたものの、国内の織物の荷動きが鈍いことから、引き取りは鈍く、また、原糸の値上がり分を織物価格に転嫁できないことから手当ては控えられている。一方、円高で輸入価格が若干相殺されるので価格に変化は少ないため手当ては消極的で、不足分を当用買で補うところが大半であった。在庫は少なめである。

<白生地>

- ・丹後の縮緬生産は、前年同月比 81% で、無地 72%、紋生地 83% となっており、これは長期盆休みも重なり商談機会も少なかったためと、採算が昨年より厳しく参入しづらいことに起因している。
- ・長浜の生産は、前年同月比 83% となった。期待された実需期にも関わらず集散地からの発注が閑散であったためである。
- ・五泉は、生産量は前年同月比反数換算で 32% の減産と全体に動きは悪かった。
- ・福島は、市況の悪化により受注が減少し、生産調整を実施して調整している。在庫は増加傾向。
- ・石川は、和装、洋装共に機屋の廃業がみられる。
- ・福井は、広幅羽二重は指定品のみ受注生産、小幅羽二重は輸入品との価格競争でさらに悪化。
- ・群馬・埼玉は、生産全体の状況は上昇している訳でないが、群馬では前年を上回って善戦している。販売価格の低下に歯止めが効かず収益を圧迫している。

<先染織物>

- ・西陣の帯は、実需期に入って振袖用の値頃と、ハデ物が生産好調で納品がピークである。その他は販売不振が続く。
- ・博多は、紋系においては、袋帯の落ち込みが大きく、平地系は紋八寸は減産となっている。
- ・十日町は、振袖に関しては三か月間続けて一定した数字をたどっている。
- ・米沢は、呉服は女物着尺、おしゃれ帯、紬着尺等に多少の動きがある。
- ・山梨は、ネクタイは小売りで売れていない。服地も厳しくなっている。
- ・西陣のネクタイは、全体的には低調で、輸入物の完成製品が市場を占めるようになってきた。

＊（社）日本生糸問屋協会月報 21.10.15 第 726 号による。

海外シルク情報

中国

本年 10 月、中国国際シルクフォーラムを開催

世界各国のシルク産業界との協調と交流を促進し、シルクの需要拡大により当面の国際金融危機を打開するとともに、国際レベルのシルク産業の継続的発展を図るため、中国は、商務部（国家繭絲綢弁公室）、中国シルク協会及び杭州市人民政府の共催により 10 月浙江省杭州市において“2009 年中国シルクフォーラム”を開催する。

1、開催日：本年 10 月 19 ～ 20 日

2、開催場所：中国、浙江省杭州市「浙江ナラダグランドホテル」

3、今回のテーマ：シルク産業発展と技術革新

4、主な議事内容

①基調講演：日本、インド、韓国及び中国等の各国代表による基調講演（最近の主要国のシルク発展状況の紹介）と今後のシルク産業振興対策の検討など

②「産業発展」をテーマとする専門分科会の開催

開催国・中国側からの国内シルク産業事情の紹介の後、次いでフランス、インド、ブラジル、タイ、アフガニスタン等のシルク生産・貿易関係者が各国シルク事情について報告し、情報交換を行う。

③「技術革新」をテーマとする専門分科会の開催

日本、シンガポール、台湾及び中国の技術専門家が高性能絹糸など各国の最新研究・開発状況を報告し検討するとともに、中国側は本年 6 月から実施されている生糸検査規則の改正内容を輸出国へ紹介する。

④この他、同時開催中の「2009 年中国国際シルク博覧会」及び「中国国際レディースファッションデザイナーコンテスト」の参観を予定している。

この国際フォーラムは、2006 年に最初に開催され（参集人員 60 余名）、次いで翌年の 2007 年に 2 回目を開催（参集人員 100 名弱）し、今回は一年間の間において第 3 回目の開催となる。

2004 年に国際絹業協会（I S A）が解散して以来、シルク産業に関する国際的な議論する場が消滅しており、国際的レベルでの継続的なシルク産業発展を期する唯一の国際会議としてこのフォーラムは多くの関係者から注目されているところである。

最近の中国乾繭、副蚕糸及び生糸類の現物価格の現状

中国繭絲綢交易市場（浙江省嘉江市）の9月22日発表による最近における中国各種乾繭、副蚕糸及び生糸類の現物価格は次のとおり。

- 乾繭 :55 ～ 78 元 /kg (770 ～ 1,092 円 /kg)
- 玉乾繭 :55 ～ 76 元 /kg (770 ～ 1,064 円 /kg)
- キビソ :48 ～ 68 元 /kg (672 ～ 952 円 /kg)
- ビス :42 ～ 58 元 /kg (588 ～ 812 円 /kg)
- 機械繰り生糸（21 デニール、工場検査） :190 ～ 218 元 /kg (2,660 ～ 3,052 円 /kg)
- 機械繰り生糸（21 デニール、四川、山東検驗局検査）
:192 ～ 220 元 /kg (2,688 ～ 3,080 円 /kg)
- 土糸（60 デニール） :186 ～ 216 元 /kg (2,604 ～ 3,024 円 /kg)
- 玉糸（110 デニール） :185 ～ 215 元 /kg (2,590 ～ 3,010 円 /kg)
- 絹紡糸（120 番手 2 本合わせ） :182 ～ 215 元 /kg (2,548 ～ 3,010 円 /kg)
- 絹紡糸（210 番手 2 本合わせ） :230 ～ 245 元 /kg (3, 220 ～ 3,430 円 /kg)
- 柞蚕絹紡糸（120 番手 2 本合わせ） :190 ～ 202 元 /kg (2,660 ～ 2,828 円 /kg)
- 絹紡紬糸（25 番手） :48 ～ 70 元 /kg (672 ～ 980 円 /kg)

ちなみに、本年3月末の同交易市場の乾繭と機械繰り生糸の現物価格は、51.4 元 /kg、165 元 /kg であったので、この半年間の間に乾繭で 7 ～ 52% 増、生糸で 16 ～ 33% 増と現物価格はかなり値上がり傾向にあることがわかる。これは昨年から今年の春繭にかけての繭の減産が大きく影響している。

* 日本生糸問屋協会月報 21.9.15 第 725 号及び 21.10.15 第 726 号による。

<お知らせ>

生糸の上場廃止のお知らせ

東京穀物商品取引所

生糸先物取引は、明治 27 年に開始されて以来、115 年の長きに亘り産業インフラとしての役割を担って参りましたが、昨今では撚糸自由化などの影響も大きく、価格変動リスクを先物取引でヘッジする機会も急減しております。その結果、先物市場の規模縮小傾向に歯止めがかからず、2008 年 3 月には出来高・取組高ともに「ゼロ」となり、現在においてもその状況に変化はありません。

一方、現物業者からは、「先物価格を指標価格としてはいない」、「先物取引がなくても特段の支障はない」との指摘も多いことから、今後の生糸の取り扱いについて慎重に検討した結果、生糸先物取引の産業インフラとして社会的使命は終えたとの結論に至りました。つきましては、大変残念ではありますが、生糸の上場を廃止することとなりました。

なお、生糸の上場廃止日は本年 10 月下旬以降を予定しておりますが、生糸先物取引は既に 10 月 1 日より休止しておりますので、大日本蚕糸会情報誌のシルクレポートに掲載される本所関連データは、9 月度データが最終となりますのであらかじめご了承ください。

最後になりましたが、これまで生糸先物取引をご利用いただいた方々、また、蚕糸・絹業界関係者の全ての方々に、心よりお礼を申し上げますとともに、今後の業界の発展を心よりお祈り申し上げます。

横浜開港場の位置問題

シルク博物館

元部長 小 泉 勝 夫

1 開港場の位置問題で諸国の領事らと対立

幕府は 1858（安政 5）年に諸国と修好通商条約を結ぶと、早速、開港場の整備計画に取りかかりました。

修好通商条約では、神奈川（現在の横浜市神奈川区の東神奈川一帯）を開港場とすることに決まっていた。しかし、幕府は神奈川宿の開港に難色を示し、横浜を開港場とする方向で動き出しました。

開港場を横浜附近に変更することを最初に主張したのは、大老井伊直弼^{い い なおすけ}で、安政 5 年 7 月に任命した外国奉行永井尚志、岩瀬忠震^{なおゆき}らに考え方を伝えたことがはじまりでした。

幕府は、諸国の領事・公使たちに開港場を横浜にする理由を次のように説明し、理解を得ようと交渉を重ねました。

- * 神奈川は交通の頻繁な東海道の宿駅で、何が起こるかわからないので、ここに居留地を置くことはきわめて危険である。
- * 神奈川の海は遠浅なため、船舶の帰着に不適當である。
- * 横浜も神奈川のうちである。
- * 横浜は水深が深く船付けしやすく上陸に便利である。

* 横浜は住宅建設に便利で商売のしやすい場所である。

このような理由をあげて、説得を続けましたが、米国領事ハリス、英国公使オールコックなどは、開港場の変更は条約違反だとして猛反対でした。

東海道は重要な交通路でありましたので、外国側にとっては、この利便性のある道路に面した場所を開港場にできなかったのです。また、東海道を行き交う大名たちは金持ちと考えておりましたので、この通路を利用した商売に期待をしていたところもあったようです。それが交通不便な寒村の横浜では、貿易の発達を阻害するばかりか、長崎の出島と同じような地形にならないかという疑義を強く抱いていたようです。

開港する 1859（安政 6）年に入っても領事らの反対で、横浜を開港場にする調整はできませんでした。

特に米国領事ハリスの意思は固く、幕府の考え方に応じようとはしませんでした。

開港場がなかなか決まらないので、ハリスは「開港日まで開港場所を懸案とし未定にしておく」という提案をしました。

しかし、このまま開港日を迎えることはできないと考えていた老中や外国奉行は、

神奈川開港を主張するようになり、幕府内部の考え方が揺らぎだしました。

しかし、井伊大老は、老中らを承服させ、あくまでも横浜開港を説得するよう指示し、更に交渉を重ねさせました。

2 領事ら不同意のまま開港場整備

ハリスとその後も交渉を重ねましたが、同意は得られませんでした。

しかし、開港期日だけは待ったなしに迫っていましたので、幕府は横浜を開港場として整備することに決定し、既成事実をつくり上げ、ここに外国人を誘致することになりました。

工事は3月上旬から開始されました。開港日まで3か月もない中で、突貫工事の様相で開港場工事等が進められました。

開港場の整備は、波止場（現在の象の鼻パーク附近）、^{うんじょうしよ}運上所をはじめ^{みよざき}港崎町（現在の横浜公園）を結ぶ線（現在の日本大通にあたる）を中心に東側に居留地、西側に日本人居住地とする工事、遊郭の設置などをすすめました。

図1からも分かるように、開港当初から設置された港崎町の遊郭の周辺は沼地・入海となっておりました。

これら沼地や入海は、明治はじめに埋め立てられ、現在のような地形が出来上がっていききました。

図1の中央下に、真っ直ぐにせり出した2つの波止場があります。幕府が整備した運上所前の石積みの波止場で、このうち、東側の波止場（東波止場・イギリス波止場とよんだ）は外国貿易用、西側（西波止場とよんだ）は内国貿易用として使われまし

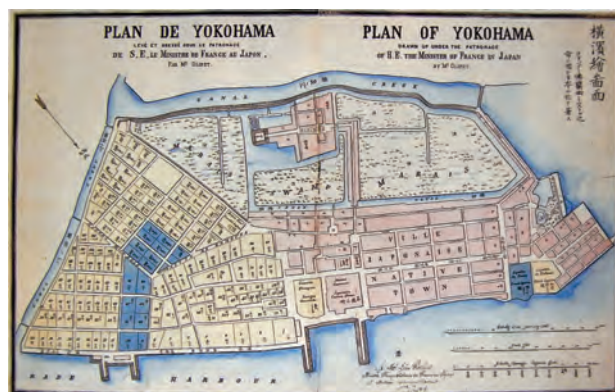


図1 1865（慶応元）年の横浜絵図面
フランス人クリペ作成の実測図
（横浜開港資料館所蔵）

た。

その後、図1の居留地側にも外国貿易専用の波止場（図1左下の波止場で、元治元年完成。フランス波止場ともいう）が作られますと、運上所前の波止場全体を西波止場、居留地前の波止場（フランス波止場）を東波止場とよぶようになりました。

開港日までの短い期間に、運上所の設置、港の整備、居留地の整備、日本人居住地の整備、東海道から開港場までの横浜道の整備などをほぼ整え、漸く6月2日（新暦7月1日）に開港することができました。

外国の領事や公使たちは、すでに下田を引き払って、神奈川宿に移ってきていました。

米国領事は青木町（現在の横浜市神奈川区高島台）の^{ほんがくじ}本覚寺に、英国領事は同じ町^{じょうりゆうじ}の浄瀧寺（現在は横浜市神奈川区幸ヶ谷）に、仏国の公使は神奈川町の^{じんぎようじ}甚行寺（現在は横浜市神奈川区青木町）に、仏国の領事は同じ町の^{けいりうんじ}慶運寺（現在は横浜市神奈川区神奈川本町）にそれぞれ^{かぐう}仮寓（仮住まい）を定めました。

外国からやってきた商人たちは、米国領事ハリスの主張とは裏腹に、横浜開港場を



(写真 6) 米国領事館跡の本覚寺山門

不便に感じることなく、取引を盛んに始めました。商館の建設もしやすかったので、その数は増加していきました。

このように横浜が開港場として動き出すと、領事たちは条約を盾にとって反対ばかりしていることができなくなり、外商たちが活動する横浜への移転がはじまり、この問題は立ち消えになってしまいました。

3 現在の神奈川宿跡

開港場の位置問題で、幕府と諸国との間で最後の最後までつれた「横浜」と「神奈川」ですが、開港場とならなかった神奈川宿には、現在も当時の面影を残す史跡がたくさん残されています。

ここで神奈川宿跡を散策される人のために、本題から少し外れた話題かもしれませんが紹介しておきましょう。

JR 京浜東北線「東神奈川」駅、京浜急行「神奈川」駅を出ると、神奈川宿跡^{あと}一帯は「神奈川宿歴史の道」として整備されており、今まで述べてきた外国領事・公使らの住んだ寺院等を興味深く訪ね歩くこと

ができます。

京浜急行「神奈川」駅を出ると右側に青木橋があります。この橋を渡った真上に米国領事館跡の本覚寺^{ほんかくじ}（写真 6）があります。日米修好通商条約の立役者米国領事ハリスが下田から移り住んで事務を執ったところです。ハリスは写真 6 の山門を白ペンキで塗らせたので、よく見ると微かにペンキの跡が今でも残っています。

青木橋から宮前商店街に入ると、フランス公使館であった甚行寺^{じんぎょうじ}やイギリス士官の宿舎であった普門寺^{ふもんじ}があります。

更に瀧の川沿いに出ますと、仏国の領事館であった慶運寺^{けいいうんじ}などがあります。

慶運寺は浦島太郎伝説で知られた寺で、入り口には亀を台座にした石碑が建っています。

慶運寺の近くには、成仏寺^{じょうぶつじ}というお寺があります。ここはアメリカ宣教師の宿舎にあてられ、ブラウンやヘボン式ローマ字で知られているヘボン博士が一時期過ごした場所です。

慶運寺の近くの瀧の川^{じょうりゅうじ}ほりにはイギリス領事館であった浄瀧寺^{じょうりゅうじ}があります。

国道 15 号線を渡り瀧の川に沿って海へ向かって歩くと、幕府が建設した港を警備する「神奈川台場跡」の石積みの一部を見ることができます。

この外にもたくさんの神社仏閣や高札場^{こうさつば}などが一帯にありますので、往時の東海道神奈川宿が、いかに栄えていたかを知ることができますので、一回散策されてみては、いかがでしょうか。

イベント情報

イベント名	企画内容および展示内容	開催期間	場所および主催者
源氏物語の雅な世界 —公家女房の絹衣装変遷— (日本絹の里第18回企画展)	本展では「源氏物語」を題材に取り上げ、その世界を4分の1縮尺の模型で再現するとともに絹糸が織りなす装束の美しさ紹介します。 観覧料：一般400円(320円)、大高生250円(200円) ()内は20以上の団体料金 中学生以下及び身体障害者手帳等お持ちの方とその付添1名様無料	平成21年10月1日(木)～ 11月23日(月・祝) 午前9時30分～午後5時 休館日：毎週火曜日 (11月3日は開館、翌4日は休館)	会場・主催・お問合わせ 群馬県県立日本絹の里 〒370-3511 群馬県高崎市金古町888-1 Tel:027-360-6300 Fax:027-360-6301 http://www.nipon-kinunosato.or.jp 協力：風俗博物館
古渡り更紗と名物裂展	17世紀以降オランダ船が日本に交易品としてもたらした珍しいインドや東南アジアの布のなかに日本人に愛されてきた美しい染め布、更紗があります。また、金襴や縞の珍しい絹の織り布は時代裂と呼ばれ、更紗とともに名物裂として茶道の世界で珍重されてきました。 本展では京都の鈴木一コレクションより貴重な更紗や名物裂約200点を展示紹介します。 入館料：一般700円(600円)、大高生200円(150円)、65才以上300円(200円)小・中学生100円(50円) ()内は、団体割引(20人以上)の料金	平成21年10月17日(土)～ 11月8日(日) 午前9時～午後4時30分	会場・主催・お問合わせ シルク博物館 〒231-0023 神奈川県横浜市中区山下町 1番地(シルクセンター2F) (みなとみらい線 日本大通り駅下車3番出口) Tel:045-641-0841 http://www.silkmuseum.or.jp/ 後援：オランダ王国大使館、神奈川県、横浜市経済観光局、神奈川新聞社、繊維貿易会館、東京繊維卸商業組合等
天皇陛下御在位20年慶祝行事 特別展示「皇后陛下の御親蚕 とカイコ研究の今昔」	天皇陛下御在位20年慶祝行事の一つとして「皇后陛下の御親蚕」のお写真や桂由美デザイナーとの共同制作による蛍光絹糸を用いたウエディングドレス等を展示します。皆様の多数の参加をお待ちしております。 参加料無料	平成21年10月30日(金)～ 11月23日(月)	主催：(独)農業生物資源研究所 会場：食と農の科学館(つくばリサーチギャラリー) ホットコーナー(つくば市観音台) 問合せ先：(独)農業生物資源研究所広報室 Tel:029-838-8469 Fax:029-838-8465 E-mail:gozaii20@nias.affrc.go.jp 後援：農林水産省、(独)農業・食品産業技術総合研究機構
天皇陛下御在位20年慶祝行事 公開シンポジウム「天の虫『蚕』、新たな可能性への挑戦」	天皇陛下御在位20年慶祝行事の一つとしてカイコの産業、生物学への貢献や新たなカイコ産業創出への挑戦など8講演と桂由美先生の「新たな可能性の挑戦」の特別講演などのシンポジウムを行います。皆様の多数の参加をお待ちしております。 参加料無料 当日参加も可能ですが、なるべく事前登録をお願いいたします。	平成21年11月18日(水) 12:45～17:25	主催：(独)農業生物資源研究所 会場：つくば国際会議場エポカル、大ホール(つくば市竹園2-20-3) 問合せ先：(独)農業生物資源研究所広報室 Tel:029-838-8469 Fax:029-838-8465 E-mail:gozaii20@nias.affrc.go.jp 後援：農林水産省、(独)農業・食品産業技術総合研究機構、(財)大日本蚕糸会等
「京都きものフェスティバル」	「きもの日」に開催する催しで、室町のモノ造り文化ときものの素晴らしさに触れて頂きます。室町問屋の秘蔵品公開、スタンプラリー、きものお笑いライブやコンサートなどを実施します。 入場無料・事前申込制	平成21年11月15日(日) 10:00～19:00	主催：京都繊維卸商業組合 会場：京都産業会館ほか 問合せ連絡先：075-211-7344
「第60回記念 丹後織物 求評会」	「丹後ちりめん」をはじめとする丹後の織物総合展示会を京都にて開催し、丹後織物の技術、品質、総合力を発信する。	平成21年11月18日(水)～ 20日(金) 18日は審査会、19、20日は 展示商談会	会場 京都市下京区の京都産業会館 主催 丹後織物工業組合 Tel:0772(68)6131

登録コーディネーター一覧

蚕糸・絹業提携支援緊急対策事業コーディネーター登録者一覧（五十音順）

平成21年9月8日現在

登録番号	氏 名	所属・役職名
20-067	秋 山 眞 和	綾の手紬染織工房主宰
20-052	旭 利 彦	ロード・ニジュウイチ株式会社
20-013	阿 部 末 男	岩手県養蚕活性化推進協議会代表
20-036	阿 部 雅 一	株式会社マルシバ
21-003	天 野 三 吉	富士吉田織物協同組合開発部長
21-014	新 井 教 央	新啓織物
21-015	新 井 園 恵	新啓織物
21-011	碓 山 俊 光	西陣織工業組合専務理事
20-006	石 田 克 己	二十一世紀の絹を考える会世話人代表
20-019	伊 藤 公 一	株式会社伊と幸代表取締役社長
19-014	今 村 幸 文	碓氷製糸農業協同組合製造部長
20-059	宇 野 浩 嗣	京丹後市商工観光部丹後の魅力総合振興課主任
20-041	梅 田 幸 平	有限会社幸和代表取締役
19-010	遠 田 寿 之	松岡株式会社監査役
20-048	大 野 章	勝山織物株式会社
20-042	大 嶋 啓 子	株式会社 AWA - S 取締役
20-063	大 竹 史 朗	有限会社大竹商店代表取締役
21-001	岡 田 心 平	株式会社あきやま常務取締役
21-007	小 倉 進 吾	株式会社小倉商店
20-044	小此木 エツ子	多摩シルクライフ21研究会代表
21-005	小山田 勉	株式会社オヤマダ代表取締役社長
20-037	角 谷 美和子	ハクビ京都きもの学院学院長
19-005	笥 文 平	全国農業協同組合連合会副審査役
21-004	柏 木 幹 弘	有限会社カシワギ代表取締役社長
20-035	片 山 政 明	山形県養蚕産地推進員
20-049	勝 山 健 史	勝山織物株式会社専務取締役
20-064	加 藤 洋 次	株式会社加藤技術士事務所所長
19-021	門 倉 重 行	門倉メリヤス株式会社代表取締役
20-030	金 井 史 郎	東北撚糸株式会社代表取締役社長
20-025	亀 井 修 一	株式会社伊と幸営業部
19-022	川 瀬 久 弥	樋口株式会社工場長
20-043	河 田 芳 宏	河芳織物有限会社代表取締役
20-020	北 川 幸	株式会社伊と幸取締役社長室長
20-032	北 丸 豊	豊栄繊維株式会社代表取締役社長
19-019	木 下 幸太郎	株式会社マルシバ代表取締役社長
20-009	草 間 健 一	株式会社草間商会代表取締役
20-066	黒 田 秀 樹	株式会社伊と幸和装部次長
19-013	小 板 橋 広 行	碓氷製糸農業協同組合参事
20-061	小 口 和 興	株式会社帛撰代表取締役

（注）標記名簿は公表を了承された方のみ掲載しております。

登録番号	氏 名	所属・役職名
21-002	小 林 嘉 朗	有限会社コバヤシ代表取締役
20-002	薦 田 智 昌	ロード・ニジュウイチ株式会社代表取締役
20-012	昆 野 和 夫	前いわい東農業協同組合養蚕農家指導担当
20-045	境 京 子	多摩シルクライフ21研究会
20-074	佐々木 祥 一	株式会社川島織物セルコン
20-001	笹 口 晴 美	有限会社ミラノリブ代表取締役
19-012	佐 藤 信 行	松岡株式会社常務取締役
20-004	佐 藤 幸 香	「香染」工房主宰
19-011	渋谷 健 治	松岡株式会社シルク事業部課長
19-001	島 田 俊 弘	中央蚕糸協会顧問
19-006	清 水 重 人	(財)大日本蚕糸会蚕糸科学研究所所長
20-040	清 水 武 彦	(有)シンセイ(信州繭ブランド織物振興会会長)
19-008	代 田 丈 志	(財)大日本蚕糸会蚕業技術研究所上席研究員
20-018	都 木 裕 一郎	ニッケン通商株式会社生糸販売担当責任者
19-017	高 橋 耕 一	株式会社宮坂製糸所専務取締役
20-075	高 橋 弘 直	大門屋店主
20-071	竹 下 和 利	有限会社寿光織本舗取締役社長
20-076	田 中 隆	田中種株式会社代表取締役
20-065	田 中 裕 司	株式会社布四季庵ヨネオリ代表取締役
19-007	田 中 幸 夫	(財)大日本蚕糸会蚕業技術研究所副所長
20-014	俵 武 司	株式会社千總友仙工場代表取締役
21-010	知 識 勝 博	宮崎県中部農林振興局営農相談員
20-005	土 井 芳 文	絹小沢株式会社業務推進役
19-004	道 鎮 孝 雄	(社)日本絹業協会事業部長
21-008	道 明 三保子	文化女子大学文化ファッション研究機構客員研究員
20-077	堂 本 正	田中種株式会社営業部長
21-012	富 田 篤	株式会社富田染工芸代表取締役
20-053	内 藤 吉 雄	元艶金興業株式会社
20-058	永 岩 則 子	長崎絹業探究所所長
19-003	中 尾 敏 明	(社)日本生糸問屋協会専務理事
20-060	中 尾 浩 祥	株式会社丸万中尾取締役
21-006	中 澤 豊	株式会社山桜代表取締役社長
20-072	中 島 洋 一	玉川大学非常勤講師
20-057	中 野 豊	長崎絹業探究所製作担当
20-031	中 谷 比佐子	株式会社秋櫻舎代表取締役社長
20-016	西 尾 仁 志	有限会社西尾呉服店代表取締役
20-003	西 澤 厚 男	中央蚕糸協会理事
19-002	西 文 秀	中央蚕糸協会副会長

登録番号	氏 名	所属・役職名
20-024	野 中 康 雄	株式会社伊と幸和装部次長
19-015	萩 原 和 憲	碓氷製糸農業協同組合総務主任
19-018	服 部 芳 和	有限会社織道楽塩野屋代表
20-056	林 太 一	昭和撚糸工業株式会社
20-038	原 田 晶 三	アンファンテリブル代表
20-015	原 田 尹 文	有限会社ハラダ代表取締役
20-027	東 宣 江	群馬県蚕糸館主宰
20-008	兵 頭 眞 通	愛媛蚕種株式会社代表取締役
20-007	深 田 祥 二	株式会社深田商店専務取締役
20-039	福 田 隆	株式会社龍工房代表取締役
20-050	福 地 圭 一	丸八生糸株式会社
19-023	福 永 吉 穂	江一株式会社原糸事業部長
20-046	藤 井 浩 一	藤井絞株式会社取締役部長
20-069	藤 井 美登利	川越むかし工房代表
20-011	星 野 伸 男	新增澤工業株式会社代表取締役
20-055	堀 内 新 也	農業、地域（繭）マイスター
20-051	舞 鶴 一 雄	株式会社西陣まいづる代表取締役社長
21-013	眞 浦 正 徳	山梨県中小企業団体中央会応援コーディネーター
20-054	前 田 勝 臣	株式会社日本クリエイティブセンター代表取締役
20-010	前 田 進	有限会社スリーエスプランニング代表取締役
20-047	松 井 慎一郎	加賀グンゼ株式会社代表取締役
20-028	松 澤 清 典	松澤製糸所
20-033	松 本 信 孝	有限会社ハック代表取締役
19-016	宮 坂 照 彦	株式会社宮坂製糸所代表取締役
20-026	宮 沢 巳起代	有限会社塩野屋東京事務所スタッフ
20-022	宮 忠 光	株式会社伊と幸取締役副部長
20-021	本 橋 伸 夫	株式会社伊と幸取締役営業本部長
20-070	藪 内 猛 之	株式会社ヤブウチ代表取締役
20-078	藪 垣 茂 仁	田中種株式会社仕入担当
20-068	山 口 治 之	丹波生糸株式会社代表取締役
20-017	山 根 敏 男	松村株式会社繊維原料部部門長
20-062	吉 川 幸四郎	有限会社吉川商事代表取締役
20-073	渡 辺 健 次	渡文株式会社代表取締役専務
20-029	渡 邊 英 夫	橋本レース株式会社

純国産絹マーク使用許諾者一覧

純国産絹マーク使用許諾者一覧

平成 21 年 9 月 18 日現在

No.	企業名	同左代表者名	
1	株式会社 千總	代表取締役	西村 總左衛門
2	株式会社 織匠田歌	代表取締役	曾根 武勇
3	有限会社 ミラノリブ	代表取締役	笹口 晴美
4	株式会社 丸上	代表取締役社長	上達 征次
5	株式会社 坂本屋	代表取締役	飯塚 久二
6	有限会社 平原	代表取締役	平原 隆志
7	株式会社 信盛堂	代表取締役	神部 健一
8	株式会社 きのもアイ	代表取締役	吉澤 政敏
9	株式会社 上庵	代表取締役	川内 俊秀
10	有限会社 樹	代表取締役	須藤 勲
11	株式会社 銀座もとじ	代表取締役	泉二 弘明
12	河瀬満織物 株式会社	代表取締役社長	河瀬 仁志
13	有限会社 織匠小平	代表取締役社長	小平 真滋郎
14	門倉メリヤス 株式会社	代表取締役	門倉 重行
15	株式会社 結華	代表取締役	橋本 順一
16	株式会社 絹回廊	代表取締役	糸井 敬之
17	有限会社 琴路屋	代表取締役	北山 充伯
18	有限会社 大善屋呉服店	代表取締役	畑 恒夫
19	丸善本店		櫛田 幸造
20	呉服のささき		佐々木 孝一
21	日本蚕糸絹業開発共同組合（絹小沢 株式会社）	代表理事	小林 幸夫
22	宮階織物 株式会社	代表取締役社長	宮階 有ニ
23	21世紀の絹を考える会	代表世話人	石田 克己
24	碓氷製糸農業協同組合	代表理事組合長	高村 育也
25	丸幸織物 有限会社	代表取締役	谷口 惣一郎
26	織匠 万勝		前田 章
27	有限会社 織道楽塩野屋	代表取締役	服部 芳和
28	株式会社 丸万中尾	代表取締役社長	中尾 禧夫
29	株式会社 むらかね	代表取締役	村井 謙一
30	株式会社 高島屋	代表取締役	鈴木 弘治
31	株式会社 さが美	代表取締役社長	小野山 晴夫
32	有限会社 まるけい	代表取締役	高井 友樹
33	有限会社 特選呉服専門店後藤	代表取締役	後藤 義昭
34	株式会社 小いけ	代表取締役	小池 泰弘
35	株式会社 伊と幸	代表取締役社長	伊藤 公一
36	株式会社 四季のきものおおにし	代表取締役	大西 嘉夫
37	株式会社 和幸	代表取締役	高澤 みゆき
38	株式会社 榎屋高尾	代表取締役	高尾 弘
39	株式会社 つるや	代表取締役	金子 憲二
40	株式会社 越後屋	代表取締役	越永 高士
41	株式会社 小倉商店	代表取締役	小倉 敏行
42	柳染織工房		柳 崇
43	染織家		児玉 京子
44	草木染工房山村		山村 多栄子
45	手織り よおん		長嶺 亨子
46	祝嶺染織研究所		祝嶺 恭子
47	株式会社 龍工房	代表取締役	福田 隆
48	からん工房		深石 美穂

No.	企業名	同左代表者名
49	たわた工房	多和田 淑子
50	山音 株式会社	代表取締役社長 山田 純司
51	やまと 株式会社	代表取締役 村田 市太郎
52	株式会社 御菌織物	代表取締役 加藤 賢一
53	桜井 株式会社	代表取締役 桜井 実
54	有栖川織物 有限会社	代表取締役 澤井 正弘
55	太田和 株式会社	代表取締役 太田 馨
56	株式会社 岩田	代表取締役 村田 知之
57	有限会社 神原呉服店	代表取締役 神原 和久
58	浅山織物 株式会社	代表取締役 浅山 寿栄男
59	株式会社 やまと	取締役社長 矢嶋 孝敏
60	田中種 株式会社	代表取締役社長 田中 隆
61	株式会社 京扇	代表取締役 鈴木 康裕
62	株式会社 なごみや	代表取締役 松本 成央
63	丸池藤井 株式会社	代表取締役 藤井 博夫
64	久保商事 株式会社	代表取締役 久保 義昭
65	加賀グンゼ 株式会社	代表取締役 松井 慎一郎
66	千切屋 株式会社	代表取締役 熊谷 喜治
67	荒川 株式会社	代表取締役 荒川 慶一
68	第一衣料 株式会社	代表取締役 金子 守隆
69	株式会社 紅輪	代表取締役 丸山 実
70	装いの道 株式会社	代表取締役 山中 英靖
71	株式会社 高橋屋	代表取締役 高橋市郎兵衛
72	おお又 株式会社	代表取締役 大又 義弘
73	株式会社 天野屋呉服店	代表取締役 天野 晃作
74	株式会社 きもの潮見	代表取締役社長 潮見 憲一
75	株式会社 とみひろ	代表取締役 富田 浩志
76	株式会社 細安	代表取締役 小林 慎二
77	京和きもの 株式会社	代表取締役 高橋 忠臣
78	株式会社 まるため	代表取締役 小池 正司
79	株式会社 小川屋	代表取締役 荒木 俊
80	株式会社 エムラ	代表取締役 江村 栄治
81	株式会社 荒井呉服店	代表取締役 荒井 芳枝
82	株式会社 牛島屋	代表取締役社長 武内 保衛
83	株式会社 谷呉服店	代表取締役社長 谷 重臣
84	株式会社 登美屋	代表取締役社長 高橋 祥元
85	株式会社 川平屋	代表取締役 伊藤 正人
86	丸専第一衣料 株式会社	取締役社長 永澤 日佐夫
87	株式会社 大丸	代表取締役社長 山本 良一
88	西陣織工業組合	理事長 渡邊 隆夫
89	株式会社 あぎやま	代表取締役社長 秋山 典子
90	藤井絞 株式会社	代表取締役社長 藤井 浩一
91	株式会社 川まん	代表取締役社長 川口 徳恭
92	有限会社 結城屋	代表取締役社長 大久保 善章
93	株式会社 ウメシヨウ	代表取締役 梅田 一
94	株式会社 大徳	代表取締役 住矢 くに
95	有限会社 カシワギ	代表取締役社長 柏木 幹弘

蚕糸関係博物館一覧

名 称	〒	住 所	電 話
蚕糸・織物関連の展示を目的としている施設			
ひころの里「シルク館」	986-0782	宮城県本吉郡南三陸町入谷字桜沢 442	0226-46-4310
米沢織物歴史資料館	992-0039	山形県米沢市門東町 1 丁目 1 - 87	0238-22-1325
かわまたおりもの展示館	960-1406	福島県伊達郡川俣町大字鶴沢字東 13 - 1	024-565-4889
群馬県立日本絹の里	370-3511	群馬県高崎市金古町 888 番地の 1	027-360-6300
前橋市蚕糸記念館	371-0036	群馬県前橋市敷島町 262 番地 (敷島公園/バラ園内)	027-231-9875
織物参考館 “紫” (ゆかり)	376-0034	群馬県桐生市東 4 丁目 2 番 24 号	0277-45-3111
片倉シルク記念館	360-0815	埼玉県熊谷市本石 2 丁目 135 番地	048-522-4316
きもの芸術館 ((財) 日本きもの文化協会)	150-0002	東京都渋谷区渋谷 1-6-8 清水学園ビル 6F ~ 8F	03-3400-0286
東京農工大学科学博物館	184-8588	東京都小金井市中町 2-24-16	042-388-7163
文化学園服飾博物館	151-8529	東京都渋谷区代々木 3-22-7	03-3299-2387
絹の道資料館	192-0375	東京都八王子市鎌水 989-2	0426-76-4064
シルク博物館	231-0023	神奈川県横浜市中区山下町 1 番地シルクセンター内	045-641-0841
絹系紡績資料館	386-0498	長野県上田市上丸子 1078 シナノケンシ (株) 内	0268-41-1800
岡谷蚕糸博物館	394-0028	長野県岡谷市本町 4 丁目 1 番 39 号	0266-22-5854
浦野染織資料博物館	393-0066	長野県諏訪郡下諏訪町曙町 5350	0266-27-8503
常田館 (絹の資料館)	386-0018	長野県上田市常田 1-10-3 笠原工業 (株) 内	0268-22-1230
駒ヶ根シルクミュージアム	399-4321	長野県駒ヶ根市東伊那 482 番地	0265-82-8381
キナーレきもの歴史館	948-0003	新潟県十日町市本町 6 十日町ステージ越後妻有交流館内	0257-52-0117
まゆの資料館	410-3612	静岡県賀茂郡松崎町宮内 263-2	0558-42-3912
川島織物セルコン、織物文化館	601-1123	京都府京都市左京区静海市原町 265	075-741-4120
西陣織会館	602-8216	京都府京都市上京区堀川通り今出川南入	075-451-9231
織成館	602-8482	京都府京都市上京区浄福寺通上立売上る大黒町 693 番地	075-431-0020
グンゼ博物苑	623-0011	京都府綾部市青野町 グンゼ (株) 周辺敷地内	0773-43-1050
上垣守国養蚕記念館	667-0311	兵庫県養父市大屋町大家市場 117	0796-69-1580
西予市野村シルク博物館	797-1212	愛媛県西予市野村町野村 8 号 177 番地 1	0894-72-3710
蚕糸資料館	781-1301	高知県高岡郡越知町甲 1577 番地	0889-26-1002
展示の一部に蚕糸・織物関連がある施設			
三重中央農協郷土資料館	515-2504	三重県津市一志町高野 1204-1	059-293-0010
佐野市郷土博物館	327-0003	栃木県佐野市大橋町 2047	0283-22-5111
大間々町歴史民族館	376-0101	群馬県みどり市大間々町大間々 1030	0277-73-4123
羽村市郷土博物館	205-0012	東京都羽村市羽 741	042-558-2561
豊富郷土資料館	400-1513	山梨県中央市大鳥居 1619-1	055-269-3399
日本司法博物館 (松本歴史の里)	390-0852	長野県松本市島立小柴 2196-1	0263-47-4515
長野県立歴史館	387-0007	長野県千曲市大字屋代字清水、科野の里歴史公園内	026-274-2000
須坂市立博物館	382-0028	長野県須坂市臥竜 2 丁目 4 番 1 号臥竜公園内	026-245-0407
上田市丸子郷土博物館	386-0413	長野県上田市東内 2564-1	0268-42-2158
海野宿歴史民俗資料館	389-0518	長野県東御市本海野 1098	0268-64-1000
十日町市博物館	948-0072	新潟県十日町市西本町 1	0257-57-5531
美濃加茂市民ミュージアム	505-0004	岐阜県美濃加茂市蜂屋町上蜂屋 3299-1	0574-28-1110
その他関連施設			
原始布・古代織参考館	992-0039	山形県米沢市門東町 1 丁目 1 - 16	0238-22-8141
夕鶴の里資料館	992-0474	山形県南陽市漆山 2025-2	0238-47-5800
松ヶ丘開墾記念館	997-0152	山形県鶴岡市羽黒町松ヶ丘 29	0235-62-3985
結城紬関連施設 (結城市伝統工芸館)	307-0001	茨城県結城市大字結城 3018-1	0296-32-7949
たくみの里木織の家「椽」(つるばみ)	379-1418	群馬県利根郡みなかみ町須川 784	0278-64-1308
調布市郷土博物館	182-0026	東京都調布市小島町 3-26-2	0424-81-7656
相模田名民家資料館	229-1124	神奈川県相模原市田名 4853 番 2 (大杉公園隣り)	042-761-7118
安曇野市天蚕センター	399-8301	長野県安曇野市穂高有明 3618-4	0263-83-3835
上田市立博物館	386-0026	長野県上田市二の丸 3 番 3 号 (上田城跡公園内)	0268-22-1274
塩沢つむぎ記念館 (織の文化館)	949-6408	新潟県南魚沼市塩沢 1227-1	0257-82-4888
手織りの館	947-0028	新潟県小千谷市城内 1-8-25	0258-83-4800
白山工房 (織りの資料館)	920-2501	石川県白山市白峰村ヌ 17	076-259-2859
手おりの里、金剛苑	529-1204	滋賀県愛知郡愛荘町蚊野 514	0749-37-4131
織元田勇 (田勇機業株式会社)	629-3104	京都府京丹後市網野町浅茂川 112	0772-72-0307
まゆ村	616-8384	京都府京都市右京区嵯峨天龍寺造路町	075-882-0564
シルク染め織り館	699-5216	島根県鹿足郡津和野町池村 1997-4	0856-74-0784

蚕糸関係団体ホームページ一覧

平成 21 年 8 月 17 日現在

【行 政】

農林水産省
経済産業省

<http://www.maff.go.jp>
<http://www.meti.go.jp/>

【蚕糸絹業関係団体】

(財) 大日本蚕糸会
(社) 日本絹業協会 (シヤパ[®]シルクセンター)
(社) 日本生糸問屋協会
(財) 日本真綿協会
丹後織物工業組合
西陣織工業組合
T A F S (東京織物卸商業組合)
K O M S (京都織物卸商業組合)
京都和装産業振興財団
(財) 伝統的工芸品産業振興協会
東京穀物商品取引所

<http://www.silk.or.jp>
<http://www.silk-center.or.jp>
<http://homepage1.nifty.com/nittonkyo/>
<http://www.mawata.or.jp/>
<http://www.tanko.or.jp/>
<http://www.nishijin.or.jp/>
<http://www.tafts.or.jp/>
<http://www.fashion-kyoto.or.jp/>
<http://www.wasou.or.jp/wasou/index.html>
<http://www.kougei.or.jp/>
<http://www.tge.or.jp/japanese/index.shtml>

【大学・試験研究機関】

(国) 東京大学大学院農学生命科学研究科生産・環境生物学専攻昆虫遺伝研究室

<http://papilio.ab.a.u-tokyo.ac.jp/igb/index-J.html>

(国) 東京農工大学農学部生物生産学科

<http://www.tuat.ac.jp/~aaseisan/>

(国) 東京農工大学工学部生命工学科

<http://www.tuat.ac.jp/~seimei/>

(国) 京都工芸繊維大学工学部応用生物学課程

<http://www.bio.kit.ac.jp/>

(国) 京都工芸繊維大学

<http://www.kit.ac.jp/>

(国) 信州大学繊維学部

<http://www.tex.shinshu-u.ac.jp/>

(国) 名古屋大学農学部

<http://www.agr.nagoya-u.ac.jp>

(国) 北海道大学応用分子生物学講座

http://www.hokudai.ac.jp/agricu/organization/bunya/l_in_bunshi_seibuts.html

(国) 九州大学大学院遺伝育種学講座蚕学研究室

<http://www.agr.kyushu-u.ac.jp/agpm/sangaku/>

(国) 九州大学大学院遺伝子資源工学専攻

http://www.agr.kyushu-u.ac.jp/grt/igr/new_lab/index.html

(国) 岩手大学農学部生命資源科学コース

<http://www.news7a1.atm.iwate-u.ac.jp/departement/bio/biofunc/index.html>

(国) 山口大学農学部生物資源環境科学科

<http://www.agr.yamaguchi-u.ac.jp/bioenvi/research2.html>

(独) 農業生物資源研究所

<http://www.nias.affrc.go.jp>

(財) 大日本蚕糸会 蚕糸科学研究所

http://www.silk.or.jp/silk_kagaku/index.html

(財) 大日本蚕糸会 蚕業技術研究所

http://www.silk.or.jp/silk_gijyutu/index.html

群馬県蚕糸技術センター (群馬県トップページ>産業・労働>試験研究>蚕糸技術センター)

http://www.pref.gunma.jp/cts/PortalServlet?DISPLAY_ID=DIRECT&NEXT_DISPLAY_ID=U0000004&CONTENTS_ID=50545

群馬県繊維工業試験場 (群馬県トップページ>産業・労働>試験研究>繊維工業試験場)

http://www.pref.gunma.jp/cts/PortalServlet?DISPLAY_ID=DIRECT&NEXT_DISPLAY_ID=U0000004&CONTENTS_ID=59241

京都府織物・機械金属振興センター

<http://www.silk.pref.kyoto.jp/index-sub.html>

京都市産業技術研究所繊維技術センター

<http://www.ktri.city.kyoto.jp/mainpage/sikenjo.html>

【学 会】

日本シルク学会

<http://www.silk.or.jp/ssstj/>

日本蚕糸学会

<http://www.soc.nii.ac.jp/jsss2/>

【博物館】

(財) シルクセンター国際貿易観光会館 シルク博物館

<http://www.silkmuseum.or.jp/>

群馬県立日本絹の里

<http://www.nippon-kinunosato.or.jp/>

東京農工大学科学博物館

<http://www.tuat.ac.jp/~museum/index.html>

統計資料目次

<国内>

(1) 蚕糸絹業の概要	66
(2) 養蚕業の概要	67
(3) 養蚕農家数の推移	68
(4) 収繭量の推移	69
(5) 都府県別養蚕農家数、桑使用面積、収繭量（2008年）	70
(6) 蚕品種別蚕種製造数量（2008年）	71
(7) 生糸需給状況及び絹糸、絹織物の輸出入状況	72
(8) 生糸生産数量の推移	73
(9) 生糸の織度別生産数量の推移	74
(10) 生糸相場及び国内生糸価格実態	75
(11) 絹需給の推移（生糸量換算試算）	77
(12) 品目別・二次製品輸入数量（生糸量換算試算）	78
(13) 製糸工場の原料繭需給	79
(14) 器械製糸工場の操業状況	80
(15) 生糸在庫数量の内訳	81
(16) 蚕糸関係品目別輸入状況	82
(17) 生糸原産国別輸入状況	83
(18) 絹糸原産国別輸入状況	84
(19) 織物生産状況	85
(20) 絹人絹織物製造業者の絹織物生産状況	86
(21) 丹後、長浜、西陣の絹織物生産状況	87
(22) 全国全世帯被服類品目別消費支出状況	88

<海外>

(1) 世界主要国の家蚕繭生産数量	89
(2) 世界主要国の家蚕生糸生産数量	90
(3) 中国省別桑園面積、家蚕繭生産数量、生糸生産数量、製糸工場数	91
(4) 中国省別家蚕繭生産数量の推移	92
(5) 中国のシルク類（生糸、絹糸、絹織物）の輸出状況	93
(6) ブラジルの繭、生糸の生産数量の推移	94
(7) ブラジルの生糸、絹糸及び副蚕糸の内需、輸出別販売状況	95

(1) 蚕糸絹業の概要

Outline of Sericultural, Silk-Reeling, and Silk Fabric Industry in Japan

項目 item 年次 (暦年) Calendar year	養蚕業 Sericultural Industry			製糸業 Silk-Reeling Industry			絹業 Silk Fabric Industry	
	養蚕農家 戸数 Number of Silk-Raising Farmer	収繭量 Cocoon Production	1戸当 収繭量 Cocoon Production per Farmer	生糸 生産量 Raw Silk Production	運転 工場数 Number of Mills	稼働率 Operation ratio	絹人織機 設備台数 (保有台数) Number of Silk Loom	絹織物 生産量 Silk Fabric Production
	戸 Number	トン t	kg	千俵 1,000 Bale of 60kg	工場 Number	%	千台 1,000	千㎡ 1,000 sq. meters
昭和50年 1975	248,400	91,219	367	333.9	123	87	311.3	156,494
55年 1980	165,590	73,061	441	267.6	105	81	279.2	143,708
60年 1985	99,710	47,274	474	158.6	67	87	212.5	107,499
平成3年 1991	44,010	20,821	473	91.4	50	75	161.7	76,089
4年 1992	34,880	15,553	446	84.1	49	75	148.8	72,901
5年 1993	27,180	11,212	412	70.3	45	72	138.1	66,801
6年 1994	19,040	7,724	406	64.5	39	69	102.7	61,653
7年 1995	13,640	5,350	392	53.4	29	63	94.2	54,131
8年 1996	7,890	3,021	383	42.7	26	58	84.7	53,815
9年 1997	6,310	2,516	399	31.5	18	67	81.6	52,031
10年 1998	5,070	1,980	390	18.4	13	76	74.5	38,673
11年 1999	4,030	1,496	371	10.8	8	73	67.4	33,425
12年 2000	3,280	1,244	379	9.3	8	67	62.9	32,275
13年 2001	2,730	1,031	378	7.2	8	63	56.8	29,801
14年 2002	2,360	880	373	6.5	7	68	51.2	26,826
15年 2003	2,070	780	377	4.8	6	64	48.7	23,935
16年 2004	1,850	683	369	4.4	5	62	45.6	21,895
17年 2005	1,591	626	393	2.5	2	62	43.7	19,816
18年 2006	1,345	505	375	2.0	2	83	41.6	18,507
19年 2007	1,169	433	370	1.8	2	83	40.0	15,466
20年 2008	1,021	382	374	1.6	2	80	38.1	13,913
前年対比 (%)	87.3	88.2	101.1	88.9	100.0	96.4	95.3	90.0

資料・養蚕業及び製糸業は農林水産省生産局調査によるものである。

ただし、平成13年以前の養蚕業は農林水産省統計部調査である。

・絹業は経済産業省調査によるものである。平成18年以降の絹織物生産量は、絹紡織物を含む。

(注) 製糸業の運転工場数及び稼働率は器械製糸工場の操業状況である。

Source: The Regional Products and Industrial Crops Division, Agricultural Production Bureau,
Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (MAFF) (Sericultural and Silk-Reeling)
The Statistic Department, MAFF (Sericultural industry, before 2001)
The Ministry of Economy Trade and Industry (Silk Fabric)

Note: The number of operating mills and operation ratio are of machine reeling mills.

(2) 養蚕業の概要

Outline of Sericultural Industry

項 目 Item	養蚕農家数	桑栽培面積	桑使用面積	蚕種 掃立卵量	1箱当り 収繭量	収繭量	1戸当り 栽培面積	1戸当り 掃立卵量	1戸当り 収繭量
年 次 Year	Farm house- holds raising silk-worm	Growing area of mulberry	Harvested area of mulberry	Silk-worm eggs used	Cocoon production per box of silk-worm eggs used	Cocoon production	Growing area of mulberry per farm household raising silk-worm	Box of silkworm eggs used per farm household raising silk-worm	Cocoon production per farm household raising silk-worm
	戸 number	100ha	100ha	1000箱 1,000cases	kg	t	a	箱 box	kg
1993	27,200	425	239	319	35	11,212	156	12	412
1994	19,000	339	173	228	34	7,724	178	12	406
1995	13,600	263	117	155	35	5,350	193	11	392
1996	7,890	193	66	87	35	3,021	244	11	382
1997	6,310	138	54	74	34	2,516	219	12	399
1998	5,070	103	44	60	33	1,980	203	12	390
1999	4,030	74	33	45	33	1,496	184	11	371
2000	3,280	59	27	37	33	1,244	179	11	379
2001	2,730	48	23	31	34	1,031	174	11	378
2002	2,360	43	22	26	34	880	182	11	373
2003	2,070	38	19	23	33	780	185	11	374
2004	1,850	34	18	21	38	683	186	11	369
2005	1,591	30	16	18	34	626	188	12	396
2006	1,345	27	14	15	34	505	198	11	375
2007	1,169	24	12	13	35	433	202	11	371
2008	1,021	20	10	11	36	382	197	10	374
対前年比 2008/07 (%)	87.3	83.3	83.3	84.6	102.9	88.2	97.5	90.9	100.8

資 料：農林水産省統計情報部調査（～2001年）、農林水産省生産局調査（2002年～）。

Source : The Statistics and Information Department, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (～2001) .
The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (2002～) .

(3) 養蚕農家数の推移

Farm households raising silk-worm

(単位：戸)
(Unit：number)

年次 Year	項目 Item	年間 Annual total	春蚕 Spring silk-worm	初秋蚕 Early autumn silk-worm	晩秋蚕 Late autumn silk-worm
1993		27,180	24,160	17,450	20,740
1994		19,040	16,790	13,190	14,790
1995		13,640	12,450	9,560	9,580
1996		7,890	6,980	5,000	6,290
1997		6,310	5,650	4,420	5,120
1998		5,070	4,550	3,750	4,120
1999		4,030	3,600	2,710	3,280
2000		3,280	2,970	2,170	2,700
2001		2,730	2,410	1,870	2,270
2002		2,360	1,992	1,720	1,918
2003		2,070	1,875	1,503	1,751
2004		1,850	1,621	1,371	1,551
2005		1,591	1,420	1,061	1,345
2006		1,345	1,215	852	1,102
2007		1,169	1,052	726	988
2008		1,021	929	613	857
対前年比 2008/07 (%)		87.3	88.3	84.4	86.7

資料：農林水産省統計情報部調査（～2001年）、全国農業協同組合連合会調査（2002年～2004年、参考数値）、
農林水産省生産局調査（2005年～）。

Source：The Statistics and Information Department, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (～2001).

National Federation of Agricultural Co-operative Associations (2002～2004) .

The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (2005～) .

(4) 収繭量の推移

Cocoon Production

年次 Year	項目 Item	年計 Annual total				1戸当り収繭量 Cocoon production per farm household raising silk-worm				桑使用面積 10a当たり 収繭量(年間) Cocoon production per farm harvested area of mulberry
		年間	春蚕	初秋蚕	晩秋蚕	年間	春蚕	初秋蚕	晩秋蚕	
		Annual total	Spring silk-worm	early autumn silk-worm	Late autumn silk-worm	Annual total	Spring silk-worm	early autumn silk-worm	Late autumn silk-worm	
		t	t	t	t	kg	kg	kg	kg	kg/10a
1993		11,212	4,624	3,060	3,529	412	191	175	170	47
1994		7,724	3,036	2,044	2,644	406	181	155	170	46
1995		5,350	2,222	1,477	1,651	392	178	155	172	46
1996		3,021	1,184	747	1,090	382	170	149	173	46
1997		2,516	982	678	857	398	174	153	167	46
1998		1,980	769	588	623	390	169	157	151	45
1999		1,496	596	391	509	371	166	144	155	46
2000		1,244	500	320	424	379	169	148	157	47
2001		1,031	391	275	365	378	162	147	161	47
2002		880	330	231	320	373	166	134	167	40
2003		775	313	210	253	374	167	140	144	40
2004		675	256	176	243	369	158	128	157	38
2005		626	243	165	218	396	171	156	162	40
2006		505	209	122	173	375	172	143	157	36
2007		433	175	110	148	371	166	152	150	37
2008		382	147	96	139	374	158	157	162	39
対前年比 2008/07(%)		88.2	84.0	87.3	93.9	100.8	95.2	103.3	108.0	105.4
構成比(%)		100.0	38.5	25.1	36.4					

資料：農林水産省統計情報部調査（～2001年）、全国農業協同組合連合会調査（2002年～2004年、参考数値）、
農林水産省生産局調査（2005年～）。

Source：The Statistics and Information Department, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (～2001).
National Federation of Agricultural Co-operative Associations (2002～2004).
The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (2005～)。

(5) 都府県別養蚕農家数・桑使用面積・収繭量（2008年）

Farm households raising silk-worm, Harvested area of mulberry and Cocoon production by prefectures in 2008

項目 Item 県別 Each Prefecture	年 計			春 繭		初秋繭		晩秋繭	
	Annual total			spring silk-worm		Early autumn silk-worm		late autumn silk-worm	
	養 蚕 農家数	桑使用 面 積	収繭量	養 蚕 農家数	収繭量	養 蚕 農家数	収繭量	養 蚕 農家数	収繭量
	Farm households raising silk-worm	Harvested area of mulberry	Cocoon production	Farm households raising silk-worm	Cocoon production	Farm households raising silk-worm	Cocoon production	Farm households raising silk-worm	Cocoon production
	number	ha	t	number	t	number	t	number	t
岩 手 Iwate	29	30	11.0	22	2.8	21	4.0	26	4.2
宮 城 Miyagi	39	37	13.0	28	4.6	28	3.8	32	4.5
山 形 Yamagata	15	24	5.6	12	2.2	11	1.3	13	2.2
福 島 Fukushima	104	116	51.3	99	18.1	33	14.2	89	19.1
茨 城 Ibaragi	39	30	14.5	39	5.8	32	3.8	33	5.0
栃 木 Tochigi	50	86	39.4	48	14.8	35	7.4	46	17.2
群 馬 Gunma	417	471	161.2	383	63.2	249	40.9	370	57.2
埼 玉 Saitama	97	75	32.8	93	12.1	74	8.7	83	12.0
千 葉 Chiba	13	6	3.9	12	1.4	6	0.7	10	1.8
神奈川 Kanagawa	12	..	2.3	11	0.9	9	0.6	12	0.9
山 梨 Yamanashi	34	26	11.7	30	5.6	15	2.3	22	3.8
長 野 Nagano	46	32	13.2	42	5.4	37	3.4	35	4.4
岐 阜 Gifu	28	12	4.4	24	2.1	13	0.5	22	1.7
徳 島 Tokushima	23	10	4.6	22	2.4	13	1.0	16	1.2
愛 媛 Ehime	22	19	7.6	16	2.8	21	2.5	18	2.4
熊 本 Kumamoto	11	4	1.3	11	0.9	6	0.2	7	0.2
その他 Others	42	14	4.0	37	1.6	10	0.7	23	1.3
全国計 Total	1,021	992	381.8	929	146.7	613	96.0	857	139.1

資 料：農林水産省生産局調査。

Source : The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries.

(6) 蚕品種別蚕種製造数量 (2008年)

Production by Sort of Silk-worm Eggs

	2007年夏秋蚕用 for summer & autumn rearing		2008春蚕用 for spring rearing		2008夏秋蚕用 for summer & autumn rearing		合 計 Total	
	箱 box	割合 rate	箱 box	割合 rate	箱 box	割合 rate	箱 box	割合 rate
錦 秋 × 鐘 和	2,600	73.5			2,380	67.9	4,980	33.5
春 嶺 1 号 × 鐘 月 1 号			2,390	30.6	360	10.3	2,750	18.5
ぐ ん ま × 200	302	8.5	1,575	20.2	210	6.0	2,087	14.1
錦 秋 1 号 × 鐘 和 1 号			1,910	24.5			1,910	24.5
春 嶺 × 鐘 月			1,100	14.1			1,100	14.1
朝 ・ 日 × つくば・ね			100	1.3	500	14.3	600	4.0
新 小 石 丸	119	3.4	243	3.1			362	2.4
改 良 あ け ぼ の	180	5.1	80	1.0	50	1.4	310	2.1
世 ・ 紀 × 二 ・ 一	108	3.1	99	1.3			207	1.4
上 州 絹 星	101	2.9	101	1.3			202	1.4
ぐ ん ま 黄 金	14	0.4	125	1.6	3	0.1	142	1.0
芙 ・ 蓉 × つくば・ね	100	2.8					100	0.7
蚕 太			41	0.5			41	0.5
新 青 白	11	0.3	23	0.3			34	0.3
小 石 丸			24	0.3			24	0.3
合 計 Total	3,535	23.8	7,811	52.6	3,503	23.6	14,849	100.0

資 料 : 農林水産省生産局調査。

Source : The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries.

(7) 生糸需給及び絹糸、絹織物の輸出入状況

Raw Silk Supply and Demand Balance, Import/Export Balance of Silk Yarn and Silk Fabric

項目 Item 年月 Year & Month	生 糸 Raw Silk					絹 糸 Silk Yarn		絹 織 物 Silk Fabrics	
	生産数量	輸入数量	輸出数量	国内引渡数量	期末在庫数量	輸入数量	輸出数量	輸入数量	輸出数量
	Production (A)	Imports (B)	Exports (C)	Domestic Deliveries (D)	Ending Stocks (E)	Imports (F)	Exports (G)	Imports (H)	Exports (I)
暦 年 Calendar Year	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	1000SM	1000SM
2002	6,521	31,702	—	37,265	25,955	28,089	124	12,248	6,843
2003	4,791	30,827	1,510	34,166	25,897	33,044	183	12,544	7,111
2004	4,387	26,008	12,500	29,585	14,207	29,774	331	13,127	7,274
2005	2,508	22,017	4,125	26,429	8,178	32,700	609	15,999	8,252
2006	1,956	19,974	—	20,752	9,356	31,524	568	12,964	7,578
2007	1,747	12,601	—	15,624	7,879	19,439	404	11,355	7,184
2008	1,588	15,031	—	20,115	4,584	22,636	466	11,654	7,126
生糸年度 Silk Year									
2002	5,953	30,510	—	35,462	26,794	28,150	154	11,747	6,986
2003	4,517	30,411	6,635	33,333	21,754	33,261	182	13,036	7,206
2004	3,868	20,154	11,500	27,002	7,274	30,204	565	14,130	7,286
2005	2,024	26,365	—	25,737	9,926	36,113	500	16,121	8,655
2006	1,794	13,394	—	16,873	8,241	21,561	534	10,730	7,152
2007	1,762	15,564	—	20,286	5,281	22,936	433	12,255	6,087
2008	1,378	12,137	—	14,638	4,158	18,716	378	10,320	6,806
2008 - 6	136	1,362	—	1,603	5,176	2,087	109	1,150	608
7	137	1,517	—	1,527	5,303	2,459	26	1,147	541
8	119	1,129	—	1,231	5,320	2,311	20	916	514
9	115	1,134	—	1,185	5,384	1,979	15	941	590
10	122	1,280	—	1,823	4,963	1,451	57	885	670
11	108	682	—	967	4,786	1,518	53	809	686
12	118	684	—	1,004	4,584	1,065	9	706	525
2009 - 1	101	1,004	—	1,115	4,574	1,281	5	1,090	400
2	109	516	—	989	4,210	801	6	424	581
3	111	921	—	880	4,362	1,213	19	730	591
4	111	529	—	797	4,205	1,459	26	834	574
5	91	1,379	—	1,517	4,158	1,092	33	688	526
6	101	800	—	1,218	3,841	1,363	54	900	514
7	94	927	—	957	3,905	1,656	49	793	504
09.1~09.7	718	6,076	—	7,473	3,905	8,865	192	5,498	3,690
08.1~08.7	1,006	10,122	—	13,905	5,303	14,313	312	7,402	4,141

資 料 : (A) (C) (D) (E) 農林水産省生産局調査。(B) 財務省関税局調査、ただし96年1月から08年3月までの輸入は、農畜産業振興機構調査の実需者輸入分と一般者輸入分を合わせた数値。(F) (G) (H) (I) 財務省関税局調査。

備 考 : 1. 国内引渡数量(D) = {前月在庫数量+(A)+(B)} - {(C)+(E)}。

2. kgを60kg俵に換算しているため、各月の計と合計とが一致しない場合がある。

Source : (A) (C) (D) (E) The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries.

(B) The Customs Bureau, Ministry of Finance. But the figures for raw silk imports have been based on date of the Agriculture & Livestock Industries Corporation since Jan. 1996 until Mar. 2008, excluding bonded silk.

(F) (G) (H) (I) The Customs Bureau, Ministry of Finance.

Remarks : 1. Domestic deliveries(D) = {Stock at end of the previous month+(A)+(B)} - {(C)+(E)}.

2. Monthly volume may not add up the total volume due to round off.

(8) 生糸生産数量の推移

Production of Raw Silk

(単位 : 60kg俵)

(Unit : Bales of 60kg)

項 目 Item	生 糸 及 び 玉 糸 Raw Silk and Doupion Silk					繭品質評価機関 Cocoon Quality Grading Stations
	計 Total	器械製糸 Machine Reeling Mills	国用製糸 Domestic Raw Silk Reelers	及び &	器械玉糸 Machine Reeling Mills	
年 月 Year & Month						
暦 年 Calendar Year						
2002	6,521	5,617		904		・ ・
2003	4,791	4,000		791		・ ・
2004	4,387	3,634		753		・ ・
2005	2,508	1,735		773		・ ・
2006	1,956	1,417		539		・ ・
2007	1,747	1,227		520		・ ・
2008	1,588	1,193		395		・ ・
生糸年度 Silk Year						
2002	5,953	5,128		825		・ ・
2003	4,517	3,735		782		・ ・
2004	3,868	3,110		758		・ ・
2005	2,024	1,329		695		・ ・
2006	1,794	1,285		509		・ ・
2007	1,762	1,231		531		・ ・
2008	1,378	1,108		270		・ ・
2008 - 6	136	106		30		・ ・
7	137	108		29		・ ・
8	119	91		28		・ ・
9	115	91		24		・ ・
10	122	99		23		・ ・
11	108	86		22		・ ・
12	118	98		20		・ ・
2009 - 1	101	83		18		・ ・
2	109	89		20		・ ・
3	111	92		19		・ ・
4	111	92		19		・ ・
5	91	73		18		・ ・
6	101	83		18		・ ・
7	94	74		20		・ ・
09.1~09.7	718	586		132		・ ・
08.1~08.7	1,006	728		278		・ ・

資 料 : 農林水産省生産局調査。

備 考 : 1. 生糸年度は6月から翌年5月までである。

2. kgを60kg俵に換算しているのので、各月の計と合計とが一致しない場合がある。

Source : The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries.

Remarks : 1. Silk year ranges from June to May of the following year.

2. Monthly volume may not add up the total volume due to round off.

(9) 生糸の織度別生産数量の推移

Raw Silk Production by Sizes

(単位 : 60kg俵)

(Unit : Bales of 60kg)

項 目 Item 年 月 Year & Month	生 糸					
	計	18デニール以下	21デニール	27デニール	31デニール	その他
	Total	17/19or 17/19 finer	20/22	26/28	30/32	Others
暦 年						
Calendar Year						
2002	6,521	3	429	3,178	1,937	975
2003	4,791	13	343	2,865	1,038	533
2004	4,387	2	471	2,389	948	581
2005	2,508	8	337	834	799	527
2006	1,956	4	240	531	653	523
2007	1,747	5	259	495	514	474
2008	1,588	4	289	421	368	503
生糸年度						
Silk Year						
2002	5,953	8	316	3,273	1,649	706
2003	4,517	7	334	2,689	955	530
2004	3,868	4	482	1,845	918	622
2005	2,024	6	261	510	726	518
2006	1,794	4	269	480	562	475
2007	1,762	5	276	443	495	537
2008	1,378	1	291	447	280	360
2008 — 6	136	—	19	44	33	40
7	137	—	22	40	26	49
8	119	—	17	36	20	47
9	115	—	25	35	30	25
10	122	—	33	36	25	28
11	108	—	20	40	20	28
12	118	—	23	50	20	24
2009 - 1	101	1	23	34	28	16
2	109	—	29	33	20	28
3	111	—	31	42	14	24
4	111	—	32	32	21	26
5	91	0	17	25	23	25
6	101	0	11	37	23	29
7	94	0	19	37	10	14

資 料 : 農林水産省生産局調査。

備 考 : kgを60kg俵に換算しているため、各月の計と合計とが一致しない場合がある。

Source : The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries.

Remarks : Monthly volume may not add up the total volume due to round off.

(10)生糸相場及び国産生糸価格実態

Raw Silk Quotations and Japanese Raw Silk Actual Condition Price

1 東京穀物商品取引所(生糸先物取引)

The Tokyo Grain Exchange (Raw Silk Futures Trading)

(1) 商況 State of Market

8 月：月初から月末まで見送り気分強く 2,306 円のバイカイに終始した。

9 月：月初から月末まで見送り気分強く 2,306 円のバイカイに終始した。

(2) 先物約定値段 Monthly Prices of Futures Contracts Traded

単位：円/kg

	限月	始値	高値	(日)	安値	(日)	終値
8 月中	8 月限	2,306	2,306	(3)	2,306	(3)	2,306
	9 月限	2,306	2,306	(3)	2,306	(3)	2,306
	10.月限	2,306	2,306	(3)	2,306	(3)	2,306
	11 月限	2,306	2,306	(3)	2,306	(3)	2,306
	12 月限	2,306	2,306	(3)	2,306	(3)	2,306
	1 月限	2,306	2,306	(3)	2,306	(3)	2,306
	2 月限	2,306	2,306	(27)	2,306	(27)	2,306

	限月	始値	高値	(日)	安値	(日)	終値
9 月中	9 月限	2,306	2,306	(1)	2,306	(1)	2,306
	10.月限	2,306	2,306	(1)	2,306	(1)	2,306
	11 月限	2,306	2,306	(1)	2,306	(1)	2,306
	12 月限	2,306	2,306	(1)	2,306	(1)	2,306
	1 月限	2,306	2,306	(1)	2,306	(1)	2,306
	2 月限	2,306	2,306	(1)	2,306	(1)	2,306
	3 月限	2,306	2,306	(28)	2,306	(28)	2,306

(3) 出来高合計及び一日平均出来高 Total Trading Volume and Daily Average Volume

単位：枚/60 kg

	出来高合計	一日平均
8 月中	251	12
9 月中	227	12

(4) 受渡高 Delivery

単位：枚／300 kg

	早受渡	期日受渡	計
8 月中	0	0	0
9 月中	0	0	0

2 現物標準値の推移 Standard Price of Raw Silk

単位：円／kg

	東京市場 Tokyo Market		
	最高 High	最低 Low	平均 Average
平成 21 年 8 月	2,310	2,310	2,310
9 月	2,310	2,310	2,310

資料:(社)日本生糸問屋協会 Source:Japan Raw Silk Dealers Association

3 国産生糸価格実態 Japanese Raw Silk Actual Condition Price

単位：円／kg

織度 Size	21d	27d	31d
平成 20 年 5 月	4,059	3,750	3,431
6 月	4,325	3,761	3,479
7 月	4,173	3,795	3,577
8 月	4,481	3,741	3,499
9 月	4,386	3,794	3,540
10 月	4,363	3,885	3,539
11 月	4,140	3,809	3,461
12 月	4,087	3,883	3,403
平成 21 年 1 月	4,209	3,652	3,374
2 月	4,020	3,695	3,380
3 月	4,160	3,655	3,139
4 月	4,400	3,665	3,167
5 月	4,318	3,402	3,243
6 月	3,917	3,499	3,068
7 月	4,106	3,562	2,914

注：国産生糸価格実態は、調査対象生糸売買業者の平均取引価格である。

資料:(社)日本生糸問屋協会

Remarks: Japan raw silk actual condition price is average trade price among domestic dealers

Source:Japan Raw Silk Dealers Association

(11) 絹需給の推移（生糸量換算試算）

Silk Supply and Demand Balance (Raw Silk Value Estimation)

(単位：千俵)

(Unit: 1,000Bales of 60kg)

項目 Item 曆年 Calendar Year	供給計 Supply Total ①								需要計 Demand Total ②=①-④							期末 在庫 Ending Stocks ④
	期初 在庫 Opening Stocks	生 産 Produc- tion	輸 入 Import					輸 出 Export					内 需 Domestic Demand ②-③			
			計 Total	生 糸 Raw Silk	絹 糸 Silk Yarn	織 物 Fabrics	二 次 The Second	計 ③ Total	生 糸 Raw Silk	絹 糸 Silk Yarn	織 物 Fabrics	二 次 The Second				
1990	462	164	95	203	35	16	59	93	290	13	—	0	9	4	277	172
1991	494	172	92	230	46	29	62	93	327	11	0	0	7	4	316	167
1992	460	167	85	208	26	21	60	101	308	11	—	0	7	4	297	152
1993	483	152	71	260	25	38	65	132	345	11	—	0	7	4	334	138
1994	525	138	65	322	26	37	64	195	390	10	—	0	7	3	380	135
1995	515	135	54	326	30	31	61	204	377	11	0	1	8	2	366	138
1996	507	138	43	326	35	49	62	180	374	13	0	0	9	4	361	133
1997	401	133	32	236	34	35	43	124	270	14	0	0	11	3	256	131
1998	345	131	18	196	28	23	28	117	222	13	0	0	11	2	209	123
1999	361	123	11	227	41	28	31	127	242	13	0	0	11	2	229	119
2000	376	119	9	248	39	32	28	149	263	16	0	0	14	2	247	113
2001	350	113	7	230	30	23	25	152	237	17	0	0	15	2	220	113
2002	366	113	7	246	32	28	24	162	261	18	0	0	16	2	243	105
2003	361	105	5	251	31	33	25	162	261	20	2	0	17	1	241	100
2004	353	100	4	249	26	30	25	168	268	30	11	0	18	1	238	85
2005	354	85	3	266	22	33	30	181	270	27	4	1	21	1	243	84
2006	334	84	2	248	20	32	24	172	257	22	0	1	20	1	235	77
2007	293	77	2	214	13	19	21	161	222	21	0	1	18	2	201	71
2008	276	71	2	203	15	23	20	145	213	16	0	0	15	1	197	63
対前年比 2008/07(%)	94	92	100	95	115	121	95	90	96	76	—	—	83	50	98	89

資 料：蚕糸業需給・価格動向隔月報・繊維統計月報・日本貿易月報より、農林水産省生産局がとりまとめたものである。

ただし、2000年以降は農林水産省生産局の協力により、日本生糸問屋協会が試算推計したものである。

Source：“Silk balance and price situation monthly”, “Trade Statistics”(arranged by Agricultural Production Bureau, MAFF)

After 2000, estimated by Raw Silk Dealer's Association through collaboration with Agricultural Production Bureau, MAFF.

(12) 品目別・二次製品輸入数量（生糸量換算試算）
Breakdown of Silk Second Products Imports(Raw Silk Value Estimation)

(単位：千俵)

(Unit:1,000 Bales of 60kg)

項目 Item		暦年 Calendar Year	2003	2004	2005	2006	2007	2008	前年比% y/y	構成比% ratio
布 は く 製 Product made in cloth	男子用外衣類 Men's upper garments		3.4	2.6	2.7	3.7	3.9	2.5	64.1	1.7
	女子用外衣類 Women's upper garments		52.0	54.2	59.9	56.6	50.0	40.2	80.4	27.6
	うちブラウス Blouse of the inside		3.5	3.5	3.7	3.5	3.0	3.4	113.3	2.3
	男子用下着・寝具衣料 Men's underwear・bedding cloth		5.7	6.3	5.8	5.7	2.2	1.6	72.7	1.1
	女子用下着・寝具衣料 Women's underwear・bedding cloth		14.7	14.7	16.1	15.1	15.0	16.3	108.7	11.2
	ハンカチ Handkerchief		0.9	0.8	1.9	1.0	0.5	0.5	100.0	0.3
	ショール、スカーフ類 Shawl, scarves		3.5	3.5	3.4	2.7	3.0	2.9	96.7	2.0
	ネクタイ類 Ties		26.1	26.4	25.2	21.4	21.6	20.8	96.3	14.3
	メリヤス、クロセス編物 Knit.kurose knitting		18.0	19.3	19.9	18.5	21.2	19.8	93.4	13.6
	その他の洋装類 Other western clothes		24.1	25.0	26.7	26.3	25.4	23.7	93.3	16.3
洋装類計 Western clothes subtotal			14.7	152.8	161.6	151.0	143.0	128.3	74.2	88.2
和装類計 Japanese clothes subtotal			12.8	13.5	17.4	18.4	15.5	14.7	94.8	10.1
	うち絹製の帯小物等 Silk obi accessorys of the inside		9.4	10.0	14.1	16.0	12.9	12.1	106.6	8.3
その他 Others			1.5	1.5	2.1	2.5	2.5	2.4	96.0	1.7
合 計 Total			161.7	167.8	181.0	171.9	161.0	145.4	90.3	100.0

資料：財務省「日本貿易月報」により（社）日本生糸問屋協会で作成したものである。

注）：ラウンドにより合計が一致しないことがある。

Source:The Customs Bureau, Ministry of Finance "Trade Statistics"
(arranged by Raw Silk Dealer's Association)

Note :Total may not added up due to round off.

(13) 製糸工場の原料繭需給

Balance of Cocoons as Raw Materials by Reeling Mills

(単位：生繭. t)

(Unit: Ton by fresh weight)

年 月 Year & Month	項 目 Item	総 計 Grand Total			う ち 器 械 製 糸 工 場 Machine Reeling Mills		
		受入数量 Receipts	消費数量 Put in Process	期末在庫数量 Ending Stocks	受入数量 Receipts	消費数量 Put in Process	期末在庫数量 Ending Stocks
暦 年 Calendar Year							
	2002	1, 559	2, 150	775	1, 366	1, 822	708
	2003	1, 598	1, 612	761	1, 302	1, 330	679
	2004	1, 291	1, 500	553	1, 039	1, 228	489
	2005	866	830	589	540	552	478
	2006	600	646	541	405	445	436
	2007	548	581	505	345	390	391
	2008	393	518	379	296	374	311
生糸年度 Silk Year							
	2002	1, 921	1, 972	525	1, 764	1, 674	480
	2003	1, 477	1, 554	448	1, 162	1, 273	368
	2004	1, 056	1, 280	224	794	1, 008	154
	2005	839	673	390	531	419	266
	2006	562	599	349	405	410	260
	2007	502	583	266	344	388	215
	2008	406	452	224	303	351	167
2008 — 6 7 8 9 10 11 12 2009 — 1 2 3 4 5 6 7		49	44	272	9	33	191
		117	45	343	104	34	260
		54	39	359	53	29	284
		28	37	350	27	28	283
		82	38	417	80	30	333
		60	36	486	36	28	342
		△ 1	37	379	△ 1	30	311
		4	34	354	0	27	283
		△ 2	36	320	△ 2	29	253
		10	39	291	0	31	222
		△ 1	36	253	△ 1	29	192
		1	31	224	△ 1	24	167
		21	33	214	14	26	155
		88	31	271	88	24	219

資 料：農林水産省生産局調査。

備 考：1. 本表は上繭及び玉屑繭の合計である。

2. 総計は器械製糸、国用製糸、繭品質評価機関及び玉糸製糸の合計である。なお国用製糸及び玉糸製糸は乾繭重量調査のため、乾繭歩合42%にて生繭重量に換算した。

3. 受入数量=本月末在庫数量+消費数量-前月末在庫数量。

Source : The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries.

Remarks : 1. This table includes reelable, doupion and waste cocoons.

2. The grand total includes the material cocoons at the machine-reeling mills, reelers of raw silk for

(14) 器械製糸工場の操業状況

Activities of Machine Reeling Mills

年 月 Year & Month	項 目 Item	運轉工場数 Operating Reeling Mills	設 備 数(台) Reeling Machines		運 転 率 (%) Operating Ratio	操業日数 Days Operated	従業者数 Number of Workers	
			運轉可能 Operable	運 転 Operating				
暦 年 Calendar Year								
	2002	7	607	414	68	290	207	
	2003	6	444	285	64	290	173	
	2004	5	426	262	62	292	165	
	2005	2	203	126	62	269	83	
	2006	2	114	94	82	266	59	
	2007	2	112	93	83	266	57	
	2008	2	112	90	80	266	54	
2007 —	6	2	112	92	82	23	55	
	7	2	112	89	79	23	55	
	8	2	112	92	82	21	55	
	9	2	112	89	79	22	56	
	10	2	112	92	82	24	60	
	11	2	112	96	86	22	58	
	12	2	112	94	84	22	57	
	2008 —	1	2	112	95	85	20	58
	2	2	112	94	84	22	57	
	3	2	112	96	86	22	58	
	4	2	112	100	89	23	60	
	5	2	112	100	89	22	60	
2008 —	6	2	112	95	85	23	60	
	7	2	112	92	82	23	60	
	8	2	112	91	81	21	56	
	9	2	112	84	75	23	55	
	10	2	112	87	78	24	55	
	11	2	112	94	84	21	52	
	12	2	112	90	80	22	54	
	2009 —	1	2	112	91	81	20	50
	2	2	118	89	75	21	54	
	3	2	118	90	76	22	54	
	4	2	118	86	73	22	50	
	5	2	118	77	65	20	45	
2009 —	6	2	118	77	65	23	49	
	7	2	118	72	61	23	49	

資 料：農林水産省生産局調査。

備 考：1. 設備数中の運転可能及び運転台数は毎月の算術平均である。

2. 運転率は運転可能台数に対する運転台数の比率である。

3. 従業者数は期末現在の在籍従業員数である。

Source : The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries.

Remarks : 1. The number of operable and operating reeling machines is arithmetic means of monthly figures.

2. Operating ratio means ratio of operating machines in operable machines.

3. Number of workers are those on payroll as of end of period.

(15) 生糸在庫数量の内訳

Breakdown of Raw Silk Stocks

(単位：60kg俵)
(Unit: Bales of 60kg)

項目 Item 年月 Year & Month	総計 Grand Total	一 般 在 庫 Stock in markets					農畜産業振興機構 Stock of Agriculture & Livestock Industries Corporation		
		計	製糸工場	生糸市場 売買業者	生糸市場外 売買業者	生糸輸出 入業者	受入 数量	引渡 数量	在庫数量
暦 年 Calendar Year		Total	Filatures Mills	Dealers	Domestic Dealers	Ex and Importers	Accepts	Deliveries	Ending Stocks
2002	25,955	5,932	1,358	605	3,772	197	31,702	31,809	20,023
2003	25,897	8,001	1,663	235	5,784	319	30,827	32,954	17,896
2004	14,207	10,082	2,055	183	7,360	484	26,008	39,779	4,125
2005	8,178	8,178	721	139	7,008	310	22,017	26,142	—
2006	9,356	9,356	446	50	8,606	254	19,974	19,974	—
2007	8,080	8,080	359	20	7,358	343	12,601	12,601	—
2008	4,584	4,584	310	15	3,536	723	1,459	1,459	—
生糸年度									
Silk Year									
2002	26,794	6,771	1,837	445	4,207	282	30,510	30,617	20,023
2003	21,754	9,163	1,842	560	6,516	245	30,411	37,843	12,591
2004	7,274	7,274	1,636	50	5,170	418	20,154	32,745	—
2005	9,926	9,926	373	170	8,923	460	26,365	26,365	—
2006	8,241	8,241	473	20	7,564	184	13,394	13,394	—
2007	5,281	5,281	305	15	4,241	720			
2008	4,158	4,158	376	15	3,266	501			
2008 — 6	5,176	5,176	299	15	4,100	762			
7	5,303	5,303	312	20	4,245	726			
8	5,320	5,320	310	15	4,126	869			
9	5,384	5,384	302	15	4,179	888			
10	4,963	4,963	312	15	3,799	837			
11	4,786	4,786	296	15	3,687	788			
12	4,584	4,584	310	15	3,536	723			
2009 — 1	4,574	4,574	322	15	3,461	776			
2	4,210	4,210	329	10	3,261	610			
3	4,362	4,362	333	10	3,366	653			
4	4,205	4,205	361	15	3,248	581			
5	4,158	4,158	376	15	3,266	501			
6	3,841	3,841	382	15	3,056	388			
7	3,905	3,905	381	15	3,069	440			

資 料：農林水産省生産局調査。

備 考：製糸工場は器械製糸、国用製糸、繭品質評価機関及び玉糸製糸の合計である。

Source : The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries.

Remarks : Figures for filatures are the sum total of the closing stocks in machine-reeling filatures, reelers of raw silk for domestic use, cocoon quality appraisal stations and doupion reelers.

(16)蚕糸関係品目別輸入状況(平成16年～21年7月)

Breakdown of Silk-Related Products Imports (2004～July 2009)

	単位 Unit	平成21年(2009)		平成20年	平成19年	平成18年	平成17年	平成16年	20年/19年
		(7月) July	(累計) Accumulated Total	(2008)	(2007)	(2006)	(2005)	(2004)	2008/07 (%)
生糸・玉糸計 Raw Silk and Doupion Silk	俵 Bale s of 60kg	927	6,076	15,242	12,858	21,148	22,915	25,419	118.5
絹糸 Silk Yarn	俵 Bale s of 60kg	1,656	8,865	22,636	19,439	31,524	32,699	29,745	116.4
野蚕糸 Wild Raw Silk	俵 Bale s of 60kg	—	34	317	333	430	520	934	95.2
繭 Cocoon	kg	—	9,000	4,000	13,750	18,565	16,300	203,604	14.0
真綿 Floss Silk	kg	—	—	29,071	28,660	34,176	45,186	25,320	101.4
ペニール Peigne	kg	—	25,591	2,770	6,336	19,760	15,068	14,952	43.7
くず繭 Waste Cocoon	kg	2,649	13,314	23,770	17,184	1,020	3,650	6,797	138.3
絹ノイル Silk Noil	kg	—	—	202,220	242,082	234,894	216,422	293,373	83.5
その他の絹 くず Other Silk Waste	kg	9,809	69,718	193,125	238,507	255,951	319,072	267,341	81.0
絹のくず計 Silk Waste Total	kg	12,458	108,623	450,956	532,769	545,801	878,398	607,783	84.6
絹紡糸 Spun silk yarn from silk waste other	kg	48,090	226,133	526,662	608,270	756,065	847,200	781,454	86.6
絹紡紬糸 Spun silk yarn from noil silk	kg	6,400	51,485	143,585	117,265	208,913	202,901	244,557	122.4
絹織物 Silk Fabrics	m ²	792,789	5,497,537	11,540,335	11,355,333	12,989,059	15,999,327	13,127,009	101.6

資料：財務省関税局

Source: The Customs Bureau, Ministry of Finance

(17) 生糸の原産国別輸入数量
Raw Silk Imports

(単位：60kg 俵)
(Unit: Bales of 60kg)

国名 Country	計 Total	中国 China	ブラジル Brazil	ベトナム Vietnam	タイ Thailand	その他 Others
年 月 Year & Month						
暦年 Calendar Year						
2006	21,148 (174)	14,740 (101)	6,181 (68)	5 (5)	222 (-)	-
2007	12,858 (149)	8,804 (124)	3,848 (25)	-	206 (-)	-
2008	15,242 (137)	11,024 (102)	4,101 (35)	-	117 (-)	-
生糸年度 Silk Year						
2006	13,460 (166)	8,385 (119)	4,454 (42)	5 (5)	174 (-)	-
2007	16,185 (93)	11,410 (69)	4,607 (24)	-	168 (-)	-
2008	12,138 (103)	8,572 (89)	3,435 (14)	11	122	-
2007 - 7	798 (2)	619	179 (2)	-	-	-
8	1,253 (10)	947 (5)	272 (5)	-	34	-
9	1,289 (23)	933 (23)	308	-	48	-
10	1,890 (5)	1,005	863 (5)	-	22	-
11	1,443 (5)	1,109 (5)	307	-	27	-
12	868 (21)	623 (21)	220	-	25	-
2008 - 1	1,041 (8)	824	213 (8)	-	4	-
2	849 (5)	580 (5)	267	-	2	-
3	1,484 (14)	1,036 (10)	448 (4)	-	-	-
4	505	314	191	-	-	-
5	3,574 (29)	2,542 (20)	1,026 (9)	-	6	-
6	1,362 (5)	1,128	233 (5)	-	1	-
7	1,517 (21)	1,090 (21)	407	-	20	-
8	1,129 (29)	726 (15)	385 (14)	-	18	-
9	1,135 (21)	906 (21)	212	-	17	-
10	1,280	913	347	-	20	-
11	682 (5)	512	151 (5)	-	20	-
12	684 (10)	397 (10)	272	-	14	-
2009 - 1	1,004	693	309	-	2	-
2	516	195	321	-	-	-
3	921 (7)	820 (7)	97	-	5	-
4	529 (10)	333 (10)	181	11	5	-
5	1,379 (5)	859 (5)	520	-	-	-
6	800	636	162	-	2	-
7	927	842	79	-	6	-

資 料：財務省関税局調査

備 考：1. kgを60kg俵単位に換算してあるので、国別の計と合計が一致しない場合がある。

2. () 書きは、玉糸の輸入数量で内数である。

Source：The Customs Bureau, Ministry of Finance.

Remarks：1. Country volume may not add up the total volume due to round off.

2. Figures in parenthesis indicate the break down for doupion silk imports.

(18) 絹糸の原産国別輸入数量
Silk Yarn Imports

(単位：60kg俵)
(Unit: Bales of 60kg)

年月 Year & Month	国名 Country	計 Total	韓 国 S Korea	中 国 China	ベトナム Vietnam	イタリア Italy	アメリカ USA	ブラジル Brazil	その他 Others
暦 年 Calendar Year									
2005		32,700	292	18,977	7,550	7	—	5,867	6
2006		31,524	94	17,019	8,706	27	—	5,675	3
2007		19,439	21	11,726	4,743	12	1	2,930	7
2008		22,636	30	12,513	6,865	12	—	3,204	12
生糸年度 Silk Year									
2005		36,113	143	21,337	8,983	18	—	5,621	8
2006		21,561	78	11,212	5,735	18	1	4,518	3
2007		22,936	7	13,263	6,344	15	—	3,297	10
2008		18,716	23	10,677	5,700	11	—	2,242	64
2007	— 7	1,872	—	1,153	487	1	—	231	—
	8	1,775	—	1,154	466	1	—	154	0
	9	1,935	—	1,239	520	—	—	176	—
	10	2,222	—	1,224	638	1	—	358	—
	11	1,989	—	1,136	567	2	—	281	4
	12	1,667	—	930	371	0.4	—	365	—
2008	— 1	2,021	—	1,236	447	0	—	338	0
	2	1,769	—	853	746	0	—	170	0
	3	1,689	7	871	418	1.0	—	390	2
	4	2,220	—	1,187	660	5	—	366	2
	5	2,067	—	1,146	615	—	—	304	2
	6	2,087	23	1,302	600	—	—	161	1
	7	2,459	—	1,502	555	2	—	400	—
	8	2,311	—	1,275	753	1	—	282	—
	9	1,979	—	1,103	644	1	—	226	5
	10	1,451	—	781	462	—	—	208	—
	11	1,518	—	645	687	—	—	186	1
	12	1,065	—	609	279	2	—	174	1
2009	— 1	1,281	—	842	278	—	—	159	2
	2	801	—	253	463	—	—	65	19
	3	1,213	—	734	300	3	—	176	—
	4	1,459	—	959	317	—	—	148	35
	5	1,092	—	672	362	2	—	57	—
	6	1,363	—	768	489	—	—	106	—
	7	1,656	—	1,046	438	—	—	171	—

資 料：財務省関税局調査。

備 考：kgを60kg俵単位に換算してあるので、国別の計と合計が一致しない場合がある。

Source : The Customs Bureau, Ministry of Finance.

Remarks : Country volume may not add up the total volume due to round off.

(19) 織物生産数量
Fabric Production

(単位：1,000㎡)
(Unit：1,000sq. meters.)

年 月 Year & Month	項 目 Item	計 Total	綿織物 Cotton Fabrics	絹織物 Silk Fabrics	絹紡織物 Spun Silk Fabrics	合成繊維 織物 Synthetic Fiber Fabrics	人絹織物 Rayon Filament and Acetate Fabrics	ビスコース スフ織物 Viscose sta- ple fabrics	毛織物 Wool Fabrics	麻織物 Bast Fiber Fabrics
暦 年 Calendar Year										
2002		2,162,818	539,764	26,824	1,054	1,292,617	69,544	141,816	88,114	3,085
2003		2,031,053	506,696	23,940	728	1,217,413	71,711	129,178	78,071	3,318
2004		1,974,731	479,246	21,970	753	1,209,640	67,540	116,294	75,662	3,326
2005		1,837,703	425,460	19,816	579	1,146,845	66,231	101,235	72,531	5,006
2006		1,736,816	399,697	17,122	1,384	1,082,896	64,509	95,783	70,817	4,608
2007		1,699,291	367,733	14,262	1,204	1,096,107	63,714	85,308	67,590	3,372
2008		1,553,767	326,954	12,791	1,252	1,008,457	60,582	79,928	60,712	3,091
2007 —	4	143,211	31,386	1,241	95	91,268	5,240	7,960	5,640	382
	5	139,291	31,264	1,150	95	89,177	5,183	6,262	5,912	247
	6	143,181	31,427	1,275	98	91,959	5,338	6,963	5,922	200
	7	145,873	31,229	1,200	97	94,825	5,438	6,909	5,958	217
	8	135,738	28,823	1,036	93	88,065	5,167	6,445	5,949	161
	9	138,732	28,451	1,209	125	91,069	5,191	6,904	5,591	192
	10	145,544	29,580	1,181	111	96,040	5,567	6,863	5,974	228
	11	143,797	29,178	1,217	98	94,956	5,419	6,924	5,748	257
	12	141,698	29,412	1,196	101	93,350	5,368	6,652	5,184	436
	2008 — 1	133,067	26,568	994	107	89,112	5,070	6,129	4,759	330
	2	139,973	28,262	1,198	102	92,685	5,468	7,220	4,813	226
	3	141,922	28,510	1,178	103	94,709	5,520	6,804	4,890	208
2008 —	4	139,796	28,146	1,097	103	92,890	5,553	6,518	5,135	354
	5	130,923	27,563	1,110	101	84,940	5,252	6,587	5,128	253
	6	132,067	27,370	1,159	104	85,408	5,300	6,916	5,602	207
	7	127,748	27,577	1,085	99	81,040	5,341	6,766	5,613	227
	8	118,610	25,975	931	97	75,181	4,668	6,393	5,186	179
	9	124,690	26,194	1,031	125	81,707	4,696	6,507	5,249	182
	10	125,446	27,066	1,010	113	80,493	4,709	6,675	5,149	232
	11	121,721	26,754	1,025	102	77,375	4,609	6,749	4,843	263
	12	117,803	26,970	982	96	73,917	4,397	6,663	4,347	430
	2009 — 1	104,401	23,096	729	87	67,408	3,916	5,247	3,667	251
	2	99,387	21,064	879	85	63,883	3,647	6,116	3,550	164
	3	93,091	19,946	847	85	60,655	2,653	5,577	3,187	141
2009 —	4	87,492	18,426	792	42	57,489	2,015	5,346	3,154	228
	5	83,008	17,832	747	42	54,352	1,284	5,171	3,015	164
	6	84,518	16,379	806	44	56,652	1,995	5,546	2,970	124
	7	85,647	16,247	769	42	57,433	2,435	5,397	3,219	107

資 料：経済産業省調査。

備 考：交織を含む。

Source : The Ministry of Economy Trade and Industry.

Remarks : Mixed fabrics included.

(20) 絹人絹織物製造業者の絹織物生産数量

Production of Silk Fabrics by Silk and Rayon Weavers

(単位：1,000m²)

(Unit: 1,000sq. meters)

品 種 Type of Fabrics 年 月 Year & Month	総 数 Grand Total	絹・絹紡織物 Silk and Spun Silk Fabrics							
		広 巾 織 物 Double Width				小 巾 織 物 Single Width			その他の 後練(後染) Other Piece Dyed Silk Fabrics
		計 Total	羽二重類 Habutae	クレープ類 Crepe	先 練 (先染) Dyed Yarn	計 Total	ちりめん類 Silk crape	先 練 (先染) Dyed Yarn	
暦 年 Calendar Year									
1997	52,031	19,104	9,311	5,764	4,029	20,614	15,998	4,616	12,313
1998	38,673	14,507	7,124	3,963	3,420	15,940	11,792	4,149	8,225
1999	33,425	11,032	5,360	2,877	2,796	15,745	11,562	4,182	6,649
2000	32,275	11,192	5,556	3,410	2,226	14,028	10,010	4,018	7,054
2001	29,801	10,933	5,518	3,365	2,049	12,664	8,842	3,822	6,205
2002	26,715	10,277	4,355	3,251	2,673	11,855	8,030	3,824	4,582
2003	23,822	8,371	3,800	2,464	2,107	11,399	7,653	3,747	4,053
2004	21,859	7,540	3,510	2,190	1,842	10,809	7,346	3,463	3,509
2005	19,698	6,664	2,965	1,903	1,800	10,181	6,900	3,280	2,852
2006	18,153	6,104	2,734	1,728	1,646	9,194	5,882	3,312	2,855
2007	15,182	5,214	2,276	1,547	1,392	7,575	4,578	2,997	2,392
2008	13,661	4,781	2,061	1,419	1,301	6,800	4,170	2,631	2,080
2007 — 5	1,225	440	192	124	124	585	337	248	200
6	1,354	461	194	139	129	683	428	255	210
7	1,276	445	186	138	121	647	391	256	184
8	1,108	392	169	124	99	554	315	239	162
9	1,286	427	187	134	106	661	423	238	197
10	1,262	423	189	122	111	629	377	252	210
11	1,297	451	191	132	127	645	399	245	201
12	1,274	435	187	136	112	639	400	238	200
2008 — 1	1,070	394	180	114	100	501	270	231	175
2	1,269	422	183	129	110	644	407	237	203
3	1,241	419	184	125	110	634	402	232	188
4	1,171	419	189	122	108	585	360	225	167
5	1,176	421	187	121	113	579	353	226	176
6	1,240	429	190	125	114	630	403	227	181
7	1,157	400	177	113	110	562	343	219	195
8	998	337	152	95	89	507	301	205	155
9	1,100	364	156	101	107	555	342	213	182
10	1,084	385	149	123	114	538	322	216	161
11	1,094	403	158	128	117	542	343	199	149
12	1,049	391	155	124	112	524	325	199	135
2009 — 1	790	283	109	92	83	395	209	186	111
2	939	307	104	104	99	503	317	186	128
3	911	298	108	90	99	491	295	197	122
4	814	281	111	93	77	434	290	144	99
5	768	260	106	87	66	408	265	143	100
6	829	272	110	89	72	445	298	146	113
7	790	259	104	85	69	418	273	145	113

資 料：経済産業省調査。

備 考：単位以下四捨五入。

Source : The Ministry of Economy Trade and Industry.

Remarks : Fractions of 0.5 and over counted as a whole number and the rest disregarded.

(21) 丹後・長浜・西陣の絹織物生産数量

Production of Silk Fabrics in Tango , Nagahama and Nishijin

年 月 Year & Month	項 目 Item	絹人絹織物製造業者の 絹織物生産数量 Silk Fabrics Production		丹 後 Tango (白生地) (White Fabrics)		長 浜 Nagahama (白生地) (White Fabrics)		西 陣 Nishijin (帯) (Sash)	
		数 量 Quantity (千㎡) (1,000㎡)	前年(月)比 Ratio to previous year	生産数量 Production (反) (Roll)	前年(月)比 Ratio to previous year	生産数量 Production (反) (Roll)	前年(月)比 Ratio to previous year	推定出荷数量 Estimated Shipments (本)	前年(月)比 Ratio to previous year
暦 年 Calendar Year									
	2002	26,715	89.6	1,179,219	95.1	229,272	83.7	998,239	79.1
	2003	23,822	89.2	1,171,145	99.3	208,660	91.0	922,533	92.4
	2004	21,859	91.8	1,119,897	95.6	189,426	90.8	780,082	84.6
	2005	19,698	90.1	1,058,571	94.5	170,061	89.8	691,780	88.7
	2006	18,153	92.2	912,027	86.2	132,448	77.9	598,040	86.4
	2007	15,182	83.6	712,560	78.1	97,204	73.4	977,719	163.5
	2008	13,661	90.0	656,889	92.2	88,401	90.9	867,559	88.7
2007 —	4	1,317	79.2	62,535	70.1	8,840	63.1	84,654	142.4
	5	1,225	79.6	50,444	66.2	7,760	56.3	71,255	139.4
	6	1,354	82.4	69,024	77.2	7,169	70.0	84,513	180.8
	7	1,276	83.3	61,873	80.3	7,237	69.3	88,894	169.1
	8	1,108	82.2	47,776	81.9	6,078	68.9	89,497	211.9
	9	1,286	87.4	69,062	92.9	8,439	111.1	70,350	203.0
	10	1,262	87.5	58,668	84.8	9,400	100.7	60,982	161.7
	11	1,297	94.5	63,195	97.0	8,207	93.1	78,005	154.9
	12	1,274	93.0	62,144	89.7	8,097	89.9	67,462	144.6
	2008 — 1	1,070	92.4	38,929	90.2	7,511	102.5	56,667	60.9
	2	1,269	96.7	65,845	100.1	7,288	81.1	93,343	86.2
	3	1,241	93.4	65,402	111.1	7,959	82.4	78,494	97.2
2008 —	4	1,171	88.9	57,356	91.7	7,964	90.1	74,391	87.8
	5	1,176	96.0	55,793	110.6	6,381	82.2	67,669	95.0
	6	1,240	91.6	65,862	95.4	9,352	130.5	57,541	68.1
	7	1,157	90.7	53,644	86.7	7,548	104.3	84,867	95.5
	8	998	90.1	46,770	97.9	5,302	87.2	66,629	74.4
	9	1,100	85.5	54,846	79.4	7,416	87.8	100,298	142.6
	10	1,084	85.9	49,981	85.2	7,817	83.2	62,123	101.9
	11	1,094	84.3	53,365	84.4	7,973	97.1	69,923	89.7
	12	1,049	82.3	49,096	79.0	5,890	72.7	55,604	82.4
	2009 — 1	790	73.8	27,931	71.7	5,428	72.3	70,227	123.9
	2	939	74.0	48,523	73.7	5,994	82.2	80,196	85.9
	3	911	73.4	43,968	67.2	6,664	83.7	70,816	90.2
2009 —	4	814	69.5	43,957	76.6	6,766	85.0	70,733	95.1
	5	768	65.3	39,715	71.2	5,162	80.9	49,997	86.9
	6	829	66.9	45,800	69.5	6,492	69.4	59,496	103.4
	7	790	68.3	40,343	75.2	6,448	85.4	62,673	73.8
	8			37,632	80.5	5,642	106.4		

資 料 : 「絹人絹織物製造業者の絹織物生産数量」は経済産業省調査。主要3産地の生産量、出荷数量は社団法人日本生糸問屋協会調査。

備 考 : 2006年1月以降の西陣の帯生産数量には、帯裏地等を含む。

Source : The Ministry of Economy Trade and Industry and Japan Raw Silk Dealer's Association.

Remarks : Since Jan.2006, sash livings are included in sash production.

(22)全国全世帯被服類品目別消費支出状況

Consumption Expenditures of Total Households

項目 Item 年月 Year & Month	消費支出総額 Total		被服及び履物 Clothing & footwear		和服 Japanese clothing		洋服 Clothing		シャツ・セーター Shirts & sweaters		下着類 Underwear	
	(円) Yen	前年 比(%)	(円) Yen	前年 比(%)	(円) Yen	前年 比(%)	(円) Yen	前年 比(%)	(円) Yen	前年 比(%)	(円) Yen	前年 比(%)
暦年Calendar Year												
2003	302,623	▲ 1.1	13,967	▲ 4.1	520	21.2	5,478	▲ 4.0	2,889	▲ 2.7	1,272	▲ 4.9
2004	304,203	0.5	13,572	▲ 2.8	559	10.5	5,257	▲ 3.5	2,936	0.9	1,213	▲ 4.7
2005	300,903	▲ 1.1	13,440	▲ 1.0	440	▲ 7.8	5,122	▲ 2.6	2,911	▲ 0.9	1,260	3.9
2006	294,943	▲ 2.0	12,776	▲ 1.0	342	▲ 7.8	5,007	▲ 2.6	2,694	▲ 0.9	1,184	3.9
2007	297,782	1.0	12,933	1.2	345	0.9	5,066	1.2	2,727	1.2	1,164	▲ 1.7
2008	296,932	▲ 0.3	12,523	▲ 3.2	299	▲ 13.3	4,890	▲ 3.5	2,598	▲ 4.7	1,133	▲ 2.7
2007 - 7	291,632	▲ 0.1	13,234	▲ 3.0	391	▲ 14.7	4,692	▲ 0.5	3,341	▲ 6.7	1,231	▲ 9.8
8	296,035	1.6	9,965	0.7	516	109.3	3,166	▲ 10.0	2,284	▲ 5.8	1,021	▲ 2.4
9	281,448	3.2	9,858	▲ 4.0	199	▲ 31.0	3,579	▲ 4.0	2,125	▲ 7.0	986	3.0
10	296,984	0.6	13,481	▲ 2.8	244	▲ 59.7	5,212	▲ 2.0	2,948	▲ 1.3	1,315	10.6
11	282,836	▲ 0.6	14,292	▲ 0.5	504	185.8	5,773	▲ 9.0	2,692	0.1	1,460	10.9
12	351,667	2.2	14,816	▲ 5.8	130	▲ 57.8	6,162	▲ 4.4	2,860	▲ 2.6	1,566	▲ 8.0
2008 - 1	309,826	3.6	13,981	▲ 5.6	504	35.0	6,212	▲ 3.9	2,768	▲ 7.1	1,079	▲ 1.9
2	275,565	0.0	10,215	▲ 2.7	308	▲ 41.6	4,351	▲ 6.4	1,864	▲ 1.9	894	11.2
3	312,565	▲ 1.6	14,035	▲ 0.8	128	▲ 75.0	6,445	▲ 2.6	2,482	5.3	957	8.4
4	310,695	▲ 2.7	12,778	▲ 4.1	86	▲ 52.5	4,965	▲ 7.7	2,509	▲ 3.9	984	▲ 2.5
5	288,128	▲ 3.2	12,762	▲ 4.9	211	31.6	4,635	1.3	2,840	▲ 11.7	1,123	▲ 7.7
6	281,951	▲ 1.8	11,894	▲ 13.8	123	▲ 70.1	4,206	▲ 10.0	2,934	▲ 16.7	1,081	▲ 19.8
7	298,366	▲ 0.5	13,702	3.2	341	▲ 13.1	4,634	▲ 1.5	3,637	9.1	1,346	9.7
8	291,154	▲ 4.0	9,945	▲ 0.5	769	48.6	3,124	▲ 1.5	2,259	▲ 0.7	1,060	4.1
9	281,433	▲ 2.3	10,021	1.2	221	10.9	3,667	1.6	2,094	▲ 0.6	904	▲ 7.9
10	291,504	▲ 3.8	12,755	▲ 6.0	393	61.9	4,807	▲ 8.5	2,697	▲ 8.2	1,120	▲ 14.6
11	284,762	▲ 0.5	14,547	1.3	158	▲ 68.5	6,205	7.3	2,646	▲ 1.9	1,490	2.1
12	336,976	▲ 4.6	13,644	▲ 8.4	346	168.6	5,429	▲ 12.2	2,449	▲ 14.7	1,558	▲ 0.5
2009 - 1	291,440	▲ 5.9	13,679	▲ 1.4	337	▲ 32.6	6,371	4.0	2,528	▲ 7.1	1,034	▲ 4.4
2	266,044	▲ 3.5	8,879	▲ 12.9	165	▲ 45.8	3,883	▲ 10.7	1,669	▲ 9.5	704	▲ 21.4
3	310,680	▲ 0.4	13,466	▲ 3.6	526	314.6	6,307	▲ 1.4	2,027	▲ 16.8	849	▲ 11.4
4	306,340	▲ 1.3	12,533	▲ 1.6	360	324.5	4,569	▲ 7.4	2,451	▲ 1.9	976	▲ 1.0
5	285,530	0.3	12,623	▲ 1.0	181	▲ 13.2	4,451	▲ 3.6	2,755	▲ 2.7	1,060	▲ 6.0
6	277,237	0.2	11,815	▲ 0.3	117	▲ 3.5	3,929	▲ 6.0	2,935	0.9	1,143	5.5
7	285,078	▲ 2.0	11,873	▲ 12.7	209	▲ 38.1	3,871	▲ 15.6	3,029	▲ 15.8	1,299	▲ 3.3

資料:総務省統計局「家計調査報告」。2人以上で構成される8,000世帯を集計。

備考:「被服及び履物」は右に並ぶ内訳4費目以外の費目も含む。年数値は月平均。

Source:Family Income and Expenditure Survey by Statistics Bureau, MIC.

Added up 8,000 two-or-more-person households.

Remarks:Clothing & footwear includes japanese clothing ,clothing ,shirts & sweaters and other items.

Year value is mean of the each month.

(1)世界主要国の家蚕繭生産高

Domesticated Silkworm Cocoon Production in Major Countries

区 分		2001年	2002年	2003年
		トン	トン	トン
日本	Japan	1,031	880	780
中国	China	512,708	545,497	480,774
インド	India	140,000	128,000	117,000
ベトナム	Vietnam	22,000	21,000	21,000
ブラジル	Brazil	9,916	10,238	9,966
タイ	Thailand	3,473	3,473	10,500
ウズベキスタン	Uzbekistan	20,000	20,000	20,000
イラン	Iran	5,000	3,500	3,200
インドネシア	Indonesia	749	691	
トルコ	Turkey	47	100	169
ブルガリア	Bulgaria	52	50	0.3
ギリシャ	Greece	40	60	60
フィリピン	Philippines	17	28	23
主要国の計	Total	715,033	733,517	663,472

区 分		2004年	2005年	2006年
		トン	トン	トン
日本	Japan	683	626	505
中国	China	547,091	621,461	739,715
インド	India	120,000	126,000	135,000
ベトナム	Vietnam	21,000	21,000	21,000
ブラジル	Brazil	8,005	7,146	8,051
タイ	Thailand	10,650	10,650	10,100
ウズベキスタン	Uzbekistan	20,000	20,000	20,000
イラン	Iran	3,200	2,543	
インドネシア	Indonesia			
トルコ	Turkey	169	170	350
ブルガリア	Bulgaria	20	42	65
ギリシャ	Greece	70	70	100
フィリピン	Philippines	22	14.4	16
主要国の計	Total	730,910	809,722	934,902

注1 日本は農林水産省生産局、中国は中国絲綢(シルク)協会、インドはインド繊維省中央蚕糸局(CSB)、ブラジルはブラジル製糸協会 (ABRASSED)の統計値をそれぞれ使用、それ以外の国は国際養蚕委員会 (ISC)の統計値を使用した。

注2 不明な数値は空欄とした。ただし、シェアの大きいベトナム、ウズベキスタンは、前者は2003年以降、後者は2002年以降を不明年の前年と同数量の数値とした。

Note:1Figures ofJapan are based on the data of the Agricultural Production Bureau,MAFF.

Figures ofChina are based on the data of the China Silk Association.

Figures of India are based on the data of the Central Silk Board (CSB),Ministry ofTextiles in India.

Figures of Brazil are based on the data of the Brazil Filature Association(ABRASSED).

Others than these countries,based on the data of International SericultureCommission (ISC).

2 As the figures of Vietnam (since 2003) and Uzbekistan(since2002) are not reported,they are taken as the same amount as previous year because they constitute high proportion of total.

(2)世界主要国の家蚕生糸生産高

Domesticated Raw Silk Production in Major Countries

区 分		2001年		2002年		2003年	
		トン	俵	トン	俵	トン	俵
日本	Japan	431	7,200	391	6,500	287	4,800
中国	China	62,560	1,042,700	73,585	1,226,400	83,763	1,396,100
インド	India	15,842	264,000	14,617	243,600	13,970	232,800
ベトナム	Vietnam	2,000	33,300	2,250	37,500	2,250	37,500
ブラジル	Brazil	1,484	24,700	1,607	26,800	1,563	26,100
タイ	Thailand	1,500	25,000	1,500	25,000	1,500	2,500
ウズベキスタン	Uzbekistan	1,100	18,300	1,100	18,300	1,100	18,300
イラン	Iran	770	12,800	630	10,500	500	8,300
インドネシア	Indonesia	110	1,800	91	1,500		
トルコ	Turkey	7	100	17	300	28	500
ブルガリア	Bulgaria	7	100	7	100	0	0
ギリシャ	Greece	4	100	4	100	4	100
フィリピン	Philippines	1	0	3	100	3	100
主要国の計	Total	85,816	1,430,100	95,802	1,596,700	104,968	1,727,100

区 分		2004年		2005年		2006年	
		トン	俵	トン	俵	トン	俵
日本	Japan	263	4,400	151	2,500	119	2,000
中国	China	80,231	1,337,200	87,761	1,462,700	93,105	1,552,000
インド	India	14,620	243,700	15,445	257,400	16,525	275,400
ベトナム	Vietnam	2,250	37,500	2,250	37,500	2,250	37,500
ブラジル	Brazil	1,512	25,200	1,285	21,400	1,387	23,100
タイ	Thailand	1,420	23,700	1,420	23,700	1,080	18,000
ウズベキスタン	Uzbekistan	1,100	18,300	1,100	18,300	1,100	18,300
イラン	Iran	500	8,300	395	6,600		
インドネシア	Indonesia						
トルコ	Turkey	28	500	30	500	25	400
ブルガリア	Bulgaria	3	100	6	100	5	100
ギリシャ	Greece	4.5	100	4	100	4	100
フィリピン	Philippines	3	100	1.1	0	1.6	0
主要国の計	Total	101,935	1,699,100	109,848	1,830,800	115,602	1,926,900

注1 日本は農林水産省生産局、中国は中国絲綢(シルク)協会、インドはインド繊維省中央蚕糸局(CSB)、ブラジルはブラジル製糸協会(ABRASSEDA)の統計値をそれぞれ使用、それ以外の国は国際養蚕委員会(ISC)の統計値を使用した。

注2 不明な数値は空欄とした。ただし、シェアの大きいベトナム、ウズベキスタンは、前者は2003年以降、後者は2002年以降を不明年の前年と同数量の数値とした。

Note:1 Figures of Japan are based on the data of the Agricultural Production Bureau, MAFF.

Figures of China are based on the data of the China Silk Association.

Figures of India are based on the data of the Central Silk Board (CSB), Ministry of Textiles in India.

Figures of Brazil are based on the data of the Brazil Filature Association (ABRASSEDA).

Others than these countries, based on the data of International Sericulture Commission (ISC).

2 As the figures of Vietnam (since 2003) and Uzbekistan (since 2002) are not reported, they are taken as the same amount as previous year because they constitute high proportion of total.

(3) 中国省別桑園面積・家蚕繭生産量・生糸生産量・製糸工場数

Mulberry Farm Area, Domesticated Cocoon Production, Raw Silk Production, and Number of Filatures in Chi

省 Province	区分	桑園面積 Mulberry Farm Area (10,000ha、%)			家蚕繭生産量 Domesticated Cocoon Production (トン、%)(MT, %)			生糸生産量 Raw silk Production (トン、%)(MT, %)		
		2005	2006	対前年比 2006/05	2005	2006	対前年比 2006/05	2005	2006	対前年比 2006/05
山 西	Shanxi	0.82	1.10	135	3,913	5,602	143	196	175	89
上 海	Shanghai	0.03	-	-	408	-	-	-	-	-
江 蘇	Jiangsu	9.08	8.98	99	100,539	117,800	117	18,580	20,186	109
浙 江	Zhejiang	7.04	7.40	105	74,838	85,122	114	20,530	19,051	93
安 徽	Anhui	4.67	5.47	117	33,900	37,596	111	3,890	4,038	104
江 西	Jiangxi	1.63	1.90	116	10,577	12,110	114	1,650	1,676	102
山 東	Shandong	5.00	5.00	100	36,845	39,700	108	6,800	6,253	92
河 南	Henan	2.20	2.73	124	8,600	13,390	156	300	318	106
湖 北	Hubei	2.53	2.79	110	13,583	15,706	116	650	536	83
湖 南	Hunan	0.61	0.69	112	3,663	4,100	112	45	50	111
広 東	Guangdong	2.53	5.33	211	34,300	68,750	200	1,100	1,138	103
広 西	Guangxi	9.40	12.00	128	148,460	185,000	125	6,600	8,020	122
重 慶	Chongqing	7.93	7.93	100	31,000	23,828	77	6,500	6,490	100
四 川	Sichuan	10.67	10.67	100	77,500	77,800	100	17,510	21,914	125
貴 州	Guizhou	0.58	0.63	108	1,199	1,254	105	-	-	-
雲 南	Yunnan	5.27	6.25	119	20,095	31,477	157	1,550	1,335	86
陝 西	Shaanxi	4.80	5.00	104	20,272	18,498	91	1,775	1,657	93
甘 肅	Gansu	0.62	0.65	104	537	613	114	-	-	-
寧 夏	Ningxia	0.28	0.33	120	413	475	115	30	59	197
新 疆	Xinjiang	0.50	0.73	145	819	895	109	55	-	-
内 蒙 古	Inner Mong	-	-	-	-	-	-	-	208	-
合 計	Total	76.20	85.57	112	621,461	739,715	119	87,761	93,105	106

製糸工場数 (件) Number of Filatures		
2005	2006	前年比 2006/05
702	710	101

資料：中国絲綢協会資料による

注：合計はラウンドの関係で一致していない。

Source: China Silk Association

Note: Total may not add up due to round off.

(4) 中国省別家蚕繭生産量の推移 Domesticated Cocoon Production in China (1995年～2006年)

(単位：万トン) (Unit: 10,000ton)

地域	Area	1995年	1996年	1997年	1998年	1999年	2000年	2001年	2002年	2003年	2004年	2005年	2006年	前年比 06/05(%)
北 京	Beijing													
天 津	TianJin													
河 北	Hebei	0.1	0.1		0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1				
山 西	Shanxi	0.7	0.5	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.3	0.4	0.6	150.0
内 蒙 古	Inner Mongolia													
遼 寧	Liaoning													
吉 林	Jilin													
黒 龍 江	Heilongjiang													
上 海	Shanghai	0.3									0.0	0.0		
江 蘇	Jiangsu	18.6	9.2	8.6	8.5	8.2	9.0	10.1	11.9	10.7	11.1	10.1	11.8	116.8
浙 江	Zhejiang	12.2	8.4	9.5	10.4	9.4	9.5	11.0	9.9	7.9	7.6	7.5	8.5	113.3
安 徽	Anhui	4.0	2.4	2.4	2.5	2.1	2.5	2.7	2.8	2.6	2.7	3.4	3.8	111.8
福 建	Fujian													
江 西	Jiangxi	1.6	0.8	0.5	0.4	0.3	0.3	0.5	0.7	0.8	1.0	1.1	1.2	109.1
山 東	Shandong	5.0	4.1	3.4	4.2	4.2	5.3	6.9	6.9	6.7	3.5	3.7	4.0	108.1
河 南	Henan	1.8	1.3	1.3	0.6	1.2	1.3	1.5	1.7	1.1	0.7	0.9	1.3	144.4
湖 北	Hubei	2.2	1.2	1.2	1.4	1.4	1.2	1.2	1.3	1.2	1.1	1.4	1.6	114.3
湖 南	Hunan	0.3	0.2	0.1	0.1			0.1	0.1	0.2	0.4	0.4	0.4	100.0
広 東	Guangdong	3.3	2.2	2.1	2.1	2.3	3.1	4.5	5.3	5.2	2.7	3.4	6.9	202.9
広 西	Guangxi	2.1	1.7	1.5	1.8	1.9	3.0	5.6	7.4	8.7	9.2	14.8	18.5	125.0
海 南	Hainan													
重 慶	Chongqing				2.9	2.4	3.0	3.2	3.4	2.8	2.6	3.1	2.4	77.4
四 川	Sichuan	20.3	12.2	8.5	9.3	8.1	8.7	9.2	9.3	9.3	8.3	7.8	7.8	100.0
貴 州	Guizhou	0.2	0.1	0.1	0.2	0.2	0.1	0.2	0.2	0.1	0.2	0.1	0.1	100.0
雲 南	Yunnan	0.8	0.7	0.7	0.7	0.7	0.7	0.9	1.1	1.3	1.9	2.0	3.1	155.0
チベット	Tibet													
陝 西	Shaanxi	1.8	1.5	1.4	1.6	1.5	1.5	1.6	1.7	1.9	1.6	2.0	1.8	90.0
甘 肅	Gansu										0.1	0.1	0.1	100.0
青 海	Qinghai													
寧 夏	Ningxia										0.0	0.0	0.0	
新 疆	Xinjiang	0.6	0.3	0.3	0.4	0.3	0.3	0.3	0.2	0.1	0.1	0.1	0.1	100.0
合 計	Total	76.0	47.1	42.3	47.5	44.7	50.1	60.2	64.5	61.1	55.0	62.2	73.9	118.8

資料：2003年までは中国国家统计局「中国統計年鑑」、2004年以降は中国絲綢協会資料による。

合計はラウンドの関係で一致していない。

Source: Until 2003, "China Statistical Yearbook" National Bureau of Statistics of China

Since 2004, China Silk Association

Note: Total may not add up due to round off.

(5)中国のシルク類の輸出状況
Silk Exports of China
(2008年1月～12月)

相手国	Country	生糸(柞蚕糸、野蚕生糸を含む) Raw Silk (tussah silk and wild raw silk included)			
		数量 Quantity (Kg)		金額 Amount (百万USDドル) (USD1,000,000)	
		2008年実績	08/07(%)	2008年実績	08/07(%)
1 インド	India	8,376,916	95.61	198.655	95.74
2 ルーマニア	Romania	1,122,194	229.25	30.163	247.36
3 イタリア	Italy	829,113	84.23	23.391	89.00
4 日本	Japan	662,460	85.26	19.222	89.26
5 ベトナム	Vietnam	628,784	130.28	16.504	137.62
6 韓国	South Korea	561,080	62.02	14.868	61.67
7 パキスタン	Pakistan	246,913	93.97	5.794	92.99
8 バングラデッシュ	Bangladesh	193,213	83.00	4.502	82.55
9 アラブ首長国連邦	United Arab Emirates	154,721	67.92	3.735	67.63
10 タイ	Thailand	77,128	99.45	2.000	96.87
11 その他	Others	578,870	104.72	14.901	104.65
合計	Total	13,431,394	97.66	333.735	99.00

相手国	Country	絹糸 Spun Silk Yarn			
		数量 Quantity (Kg)		金額 Amount (百万USDドル) (USD1,000,000)	
		2008年実績	08/07(%)	2008年実績	08/07(%)
1 イタリア	Italy	916,759	132.94	28.804	137.47
2 日本	Japan	627,903	140.56	20.108	143.90
3 インド	India	542,905	113.77	14.939	117.53
4 パキスタン	Pakistan	416,968	112.40	11.742	114.35
5 ドイツ	Germany	395,690	79.76	13.803	80.10
6 タイ	Thailand	211,670	174.92	6.409	180.18
7 トルコ	Turkey	63,941	148.93	2.429	140.48
8 インドネシア	Indonesia	48,415	137.44	1.315	145.49
9 韓国	South Korea	43,601	37.36	1.485	39.64
10 香港	Hong Kong	30,381	828.27	0.960	791.71
11 その他	Others	107,761	62.71	3.921	96.88
合計	Total	3,405,994	114.36	105.915	116.44

相手国	Country	絹織物 Silk Fabrics(>85%Silk)			
		数量 Quantity (メートル)(meter)		金額 Amount (百万USDドル) (USD1,000,000)	
		2008年実績	08/07(%)	2008年実績	08/07(%)
1 インド	India	58,533,788	79.44	139.041	79.72
2 イタリア	Italy	44,916,778	138.52	144.278	131.10
3 香港	Hong Kong	27,767,378	94.40	122.817	97.18
4 パキスタン	Pakistan	20,415,584	99.70	41.814	99.23
5 韓国	South Korea	20,317,354	97.82	79.553	102.23
6 日本	Japan	13,594,742	99.07	37.482	103.06
7 アメリカ	United States	8,349,317	88.03	48.281	86.79
8 シンガポール	Singapore	7,180,679	93.89	19.236	79.86
9 アラブ首長国連邦	United Arab Emirates	6,901,548	124.54	22.457	70.65
10 マレーシア	Malaysia	6,756,442	186.33	23.028	200.41
11 その他	Others	34,603,876	121.03	125.775	120.81
合計	Total	249,337,487	101.22	803.762	104.13

資料: 中国税関
Source: Customs General Administration in China

中国のシルク類の輸出状況
Silk Exports of China
(2009年1月～8月)

相手国	Country	生糸(柞蚕糸、野蚕生糸を含む) Raw Silk (tussah silk and wild raw silk included)			
		数量 Quantity (Kg)		金額 Amount (百万USDドル) (USD1,000,000)	
		2009年実績	09/08(%)	2009年実績	09/08(%)
1 インド	India	4,109,445	66.79	94.471	64.48
2 韓国	South Korea	299,528	61.05	7.906	61.15
3 日本	Japan	273,307	48.48	7.286	44.70
4 ルーマニア	Romania	148,075	19.39	4.085	22.79
5 イタリア	Italy	145,708	22.26	3.747	18.60
6 ベトナム	Vietnam	144,158	25.77	3.690	25.03
7 バングラデッシュ	Bangladesh	112,657	98.83	2.712	295.88
8 シンガポール	Singapore	110,267	289.48	2.625	97.39
9 パキスタン	Pakistan	103,220	82.82	2.307	76.71
10 ミャンマー	Myanmar	42,552	177.66	0.923	45.63
11 その他	Others	161,841	28.91	4.081	28.37
合計	Total	5,650,758	56.25	133.833	53.40

相手国	Country	絹糸 Spun Silk Yarn			
		数量 Quantity (Kg)		金額 Amount (百万USDドル) (USD1,000,000)	
		2009年実績	09/08(%)	2009年実績	09/08(%)
1 インド	India	1,881,577	548.71	45.270	480.33
2 日本	Japan	371,877	76.43	10.925	71.29
3 パキスタン	Pakistan	347,621	145.78	9.207	137.59
4 イタリア	Italy	275,994	41.42	7.957	38.02
5 ドイツ	Germany	234,014	81.37	7.343	73.06
6 韓国	South Korea	134,110	552.80	3.680	418.97
7 タイ	Thailand	61,016	36.57	1.762	35.69
8 シンガポール	Singapore	56,736	274.37	1.368	157.02
9 インドネシア	Indonesia	54,356	171.52	1.298	767.02
10 ベトナム	Vietnam	52,770	1465.83	1.279	235.72
11 その他	Others	123,794	98.06	3.383	73.34
合計	Total	3,593,865	150.04	93.472	125.58

相手国	Country	絹織物 Silk Fabrics			
		数量 Quantity (メートル)(meter)		金額 Amount (百万USDドル) (USD1,000,000)	
		2009年実績	09/08(%)	2009年実績	09/08(%)
1 インド	India	45,465,109	115.83	106.771	116.07
2 パキスタン	Pakistan	24,848,464	251.36	67.181	67.25
3 イタリア	Italy	23,635,611	75.23	46.931	218.02
4 韓国	South Korea	11,328,910	81.24	45.554	57.08
5 香港	Hong Kong	10,310,837	56.79	41.266	76.11
6 日本	Japan	7,548,913	74.43	24.105	139.27
7 マレーシア	Malaysia	7,404,940	146.12	21.630	220.83
8 シンガポール	Singapore	6,602,293	161.58	19.244	70.22
9 アラブ首長国連邦	United Arab Emirates	6,083,795	120.67	19.232	56.00
10 アメリカ	United States	3,484,280	56.85	19.072	84.39
11 その他	Others	21,595,469	89.37	72.328	82.57
合計	Total	168,308,621	106.61	483.314	89.44

資料: 中国税関
Source: Customs General Administration in China

(6)ブラジルの繭・生糸生産量推移

Cocoon and Raw Silk Production in Brazil

シルク年度 Silk Year (9～8月) (Sep-Aug)	繭生産量 Cocoon Production (トン)(Ton)	暦年 Calendar Year	生糸生産量 Raw Silk Production (kg)	生糸生産量 Raw Silk Production (俵換算) (Bale value)
1985/86	11,353	1985	1,553,776	25,896
1986/87	10,575	1986	1,663,976	27,733
1987/88	11,830	1987	1,658,375	27,640
1988/89	11,470	1988	1,748,996	29,150
1989/90	15,829	1989	1,696,622	28,277
1990/91	17,221	1990	1,693,206	28,220
1991/92	17,586	1991	2,077,155	34,619
1992/93	19,134	1992	2,296,053	38,268
1993/94	18,260	1993	2,325,809	38,763
1994/95	16,260	1994	2,535,440	42,257
1995/96	15,368 (95%)	1995	2,467,524 (97%)	41,125
1996/97	14,811 (96%)	1996	2,242,000 (91%)	37,367
1997/98	14,594 (99%)	1997	2,120,129 (95%)	35,335
1998/99	10,305 (71%)	1998	1,820,745 (86%)	30,346
1999/2000	8,473 (82%)	1999	1,553,722 (85%)	25,895
2000/01	9,916 (117%)	2000	1,389,356 (89%)	23,156
2001/02	10,238 (103%)	2001	1,484,905 (107%)	24,748
2002/03	9,966 (97%)	2002	1,607,485 (108%)	26,791
2003/04	8,005 (80%)	2003	1,562,563 (97%)	26,043
2004/05	7,146 (89%)	2004	1,512,133 (97%)	25,202
2005/06	8,051 (113%)	2005	1,284,510 (85%)	21,409
2006/07	8,617 (107%)	2006	1,387,289 (108%)	23,121
2007/08	6,266 (73%)	2007	1,219,562 (88%)	20,326
2008/09 〔見込み〕 〔Estimate〕	5,703 (91%)	2008 〔見込み〕 〔Estimate〕	1,223,305 (100%)	20,388

資料:ブラジル製糸協会

注:()内は対前年比

〔 〕内の見込みは2008年1月現在

Source: ABRASSEDA

Note: Figures in parenthesis are compared to the previous year.

Estimates are as of January 2008.

(7) ブラジル生糸、絹撚糸及び副蚕糸の内需・輸出別販売状況

Domestic Demand and Exports of Raw Silk, Twisted Silk Yarn, and Secondary Silk Yarn in Brazil

単位：ト、()内は60kg俵

Unit: ton, Figures in Parenthesis: Bales of 60kg

区分		2003年実績	2004年実績	2005年実績	2006年実績	2007年実績	2008年予測 forecast	08/07(%)
生糸 Raw Silk	内需 Domestic Demand	90 (1,503)	106 (1,770)	118 (1,971)	72 (1,202)	84 (1,403)	89 (1,486)	106.0
	輸出 Export	1,057 (17,652)	837 (13,978)	676 (11,289)	782 (13,059)	876 (14,629)	847 (14,145)	96.7
	計 Total	1,147 (19,155)	943 (15,748)	794 (13,260)	854 (14,262)	960 (16,032)	936 (15,631)	97.5
絹撚糸 Twisted Silk Yarn	内需 Domestic Demand	77 (1,286)	71 (1,186)	92 (1,536)	74 (1,236)	78 (1,303)	88 (1,470)	112.8
	輸出 Export	431 (7,198)	516 (8,617)	454 (7,582)	392 (6,546)	274 (4,576)	276 (4,609)	100.7
	計 Total	508 (8,484)	587 (9,803)	546 (9,118)	466 (7,782)	352 (5,878)	364 (6,079)	103.4
糸類計 Total	内需 Domestic Demand	167 (2,789)	177 (2,956)	210 (3,507)	146 (2,438)	162 (2,705)	177 (2,956)	109.3
	輸出 Export	1,488 (24,850)	1,353 (22,595)	1,130 (18,871)	1,174 (19,606)	1,150 (19,205)	1,123 (18,754)	97.7
	計① Total①	1,655 (27,639)	1,530 (25,551)	1,340 (22,378)	1,320 (22,044)	1,312 (21,910)	1,300 (21,710)	99.1
副蚕糸 Secondary Silk Yarn	内需 Domestic Demand	264	123	43	84	72	64	88.9
	輸出 Export	217	386	295	241	256	253	98.8
	計② Total②	481	509	338	325	328	317	96.6
	②/①	29.1	33.3	25.2	24.6	25.0	24.4	

資料：ブラジル製糸協会

注：俵換算は、合計で一致しない場合がある。

Source: ABRASEDA

Note: Bale value may not add up.

※「シルクレポート」の主要記事と統計データは、当支援センターのホームページでもご覧になれます。

<http://www.silk-teikei.jp/index.html>

シルクレポート 2009 年 11 月号 NO.9 平成 21 年 11 月 1 日発行

編集 / 発行
(問い合わせ先)

(財) 大日本蚕糸会 蚕糸・絹業提携支援センター
〒 100-0006 東京都千代田区有楽町 1-9-4 蚕糸会館 5 階
TEL : 03-3214-3500
FAX : 03-3214-3511
URL:<http://www.silk-teikei.jp/index.html>

製本 / 印刷 株式会社 正大印刷社

無断転載禁ず